

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業(平成25~29年度)
長岡大学COC事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成25年度報告書

平成25~29年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」採択

 文部科学省
地(知)の拠点

長岡地域<創造人材>養成プログラム

長岡市等と連携して地域課題の解決を担う専門的能力を身につけた学生・社会人=<創造人材>を養成!



地域志向の
教育 研究 社会貢献 を
推進し、**地域のための大学**を
めざします!



2014.3.15(土)
悠久山・東山フォーラム



2013.12.14(土)
学生による地域活性化プログラム
成果発表会



2014.3.5(水)
NAZE総会 村山ゼミ発表

平成26年3月
長岡大学

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）

はじめにー長岡大学COC事業の平成25年度報告書刊行にあたってー

長岡大学長／長岡大学地域連携研究センター長 内藤 敏樹



長岡大学の取組み＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラムが、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました（平成25～29年度の5年間、年約5千万円程度補助）。

この大学COC事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在（課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点）となり、地域コミュニティの再生・活性化の核＝拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。つまり、「地域のための大学」づくりを促進し、大学の機能別分化を進めようとする政策（文部科学省）を反映した事業です。

本学の長岡地域＜創造人材＞養成プログラムは、長岡市と連携し、長岡地域の地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つ）に応えようとするものです。この事業を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指します。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指します。近年の研究で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされています。本プログラムでは、長岡大学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指す人材と考えております。

さて、本学申請の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、平成25年8月2日に、平成25年度文部科学省の大学COC（Center of Community）事業に採択されましたが、採択状況は厳しいものでした。

全国の大学（単独申請）総申請件数は263、採択件数は45、採択率は17.1%でした。そのうち、私立大学は申請件数164、採択件数14で、採択率は8.5%と平均を大きく下回りました。新潟県内大学では、申請6件（全大学数は17）で、採択は1件、つまり長岡大学だけでした。

本学は、採択後、地域連携研究センターを設立し、プログラムの全学的な推進体制を形成し、よりよき成果をあげるため、いわゆるP（Plan）－D（Do）－C（Check）－A（Action）のサイクルをまわして、事業を推進してきました。本報告書は平成25年9月～平成26年3月の7ヶ月の実施事業を取りまとめたものであります。研究論文・講演録等長文の文書等は、次年度の研究報告書等の形で、公表する計画であります。

平成26年度は、本プログラム2年度目に入ります。本格稼働の年になります。全学で取り組みますので、ご協力ご支援お願い申し上げます。

平成26年3月

長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
平成25年度報告書

・ ・ ・ 目 次 ・ ・ ・

はじめにー長岡大学COC事業の平成25年度報告書刊行にあたってー

長岡大学長／長岡大学地域連携研究センター長 内藤 敏樹

I	長岡大学の平成25年度「地（知）の拠点整備事業」申請書の概要	
1	平成25年度「地（知）の拠点整備事業」の概要	1
2	長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」	1
3	対象地域と地域課題	2
4	長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み	3
II	事業推進体制と平成25年度経過報告	
1	平成25年度助成額	5
2	事業推進体制	5
3	平成25年度経過報告	7
III	＜教育＞における事業展開	
1	諸専門能力の養成	12
2	地域志向・学修科目	20
3	現場感覚・知識の養成	21
4	ボランティア・スキルの養成	57
5	社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）	58
6	社会人基礎力の養成（課題解決型インターンシップ）	72
7	学生起業人材の養成（産業活性化対応）	75
8	学生満足度調査の実施	80
IV	＜研究＞における事業展開	
1	課題対応の調査研究と地域への還元ー産業競争力調査研究ー	91
2	課題対応の調査研究の準備ー平成26年度調査研究の準備ー	99
3	課題対応の地域志向教育研究	100
V	＜社会貢献＞における事業展開	
1	高齢化・人口減社会における地域活性化の推進	103
2	市民向け公開講座・セミナーの開催	108
3	企業人向けセミナーの開催	110
4	起業人材養成セミナーの開催	118
VI	推進体制の整備	
1	推進組織の形成	123
2	備品等の整備	123
3	採択時「別紙」への対応	123

I 長岡大学の平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」申請書の概要

1 平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」の概要

長岡大学が申請した平成 25 年度「地（知）の拠点整備事業」の概要は、次の通りである。

大学名	長岡大学
事業名	長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
申請者	内藤敏樹 学長
連携する自治体	長岡市
企業等各種団体・機関	長岡商工会議所、日本政策金融公庫長岡支店、一般社団法人全国信用組合中央協会、公益社団法人中越防災安全推進機構、株式会社北越銀行、NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE、NPO 法人市民協働ネットワーク長岡
学部等	経済経営学部
申請経費	平成 25～29 年度（5 年間、年補助上限 5,800 万円）
事業概要（400 字以内）	<p>本プログラムは、長岡地域の地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化）に向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この地域課題に答えようとするものである。</p> <p>教育面では、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目による社会人基礎力等の養成、④学生起業人材の養成、を行う。</p> <p>研究面では、主な地域課題の研究（創造人材・人口減少・ボランティア活動・産業競争力研究等）に加え、地域志向教育研究にも注力し、成果の地域還元を図る。</p> <p>社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、に取り組む。</p> <p>以上の事業の推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと本学を改革する。そのため、カリキュラムの改革、地域連携の強化、推進体制の確立に努める。【398 字】</p>

2 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」

(1) 長岡大学の「地域志向」の位置づけ

本学の「地域志向」は、次の 2 つの＜建学の精神＞に位置づけられている。

＊幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

＊地域社会に貢献し得る人材の育成

より具体的には、次の理念・目標に表現される。

☆経済経営系の大学として、地域産業の人材ニーズに応えた実践的な能力を身につけた若者人材をおくりだし、地域経済の発展に貢献する。

☆大学の知的資産の活用により、市民・企業人向け講座により学習機会を提供するとともに、地域課題研究成果の還元や地域活性化に積極的に取り組む。

この基本的観点、教育、研究、社会貢献に貫かれている。「地域志向」の内容は次の通りである。

(2) 教育・研究・社会貢献の「地域志向」

★教育面・・・本学の教育（産学融合教育プログラム）は、大きく、専門教育（資格対応型専門教育プログラム）とキャリア教育（ビジネス展開能力開発・産学連携キャリア開発教育プログラム＝社会人基礎力養成）から構成されている。平成 18～21 年度に選定された 2 つの文部科学省・現代 G P 教育プログラム（「産学融合型専門人材開発プログラム」および「学生による地域活性化提案プログラム」）は、主として、後者のプログラムであり、地域志向の教育（地域の企業との連携により、企業講師、現場・企業体験、地域課題解決授業等）を導入し、成果をあげた（こうした実践的能力形成により、就職内定率は向上、平成 25 年 3 月卒業生の就職内定率は 99.0%）。

今回は、これまでの成果の上にたち、地域課題解決をより明確に意識したく地域連携型キャリア教育として発展させ、将来の地域社会の発展を担う＜創造人材＞（課題解決型・価値創造型専門人材）の育成をめざす。

★研究面・・・地域課題解決（主として新潟・長岡地域）に関する本学教員の調査・研究は、国（科学研究費等）や自治体（受託調査研究等）等の研究資金を確保して展開されてきた（教員個人、地域研究センター等）。個々の教員の県内地域課題の調査研究（産業等）成果の地域への還元は、情報発信等（公開シンポジウム、研究年報等）の形で毎年行っている。同時に、地域課題解決型の受託調査研究（国の M O T 人材育成教育、新潟県の起業家教育等競争的資金）が、新たな社会貢献事業（社会人学び直しイノベーション人材養成講座、地域若者起業家塾）の開始につながり、継続し、企業の専門人材育成に役立っている。

今回は、この成果の上に立ち、長岡市等との問題意識の協議を経て地域課題解決研究テーマを設定する＜地域課題対応型連携研究＞を展開し、その成果を教育と地域社会に還元する。とくに、創造人材育成や人口減少への対応、産業競争力強化など、地域の発展に不可欠な課題解決テーマに取り組む。

★社会貢献面・・・本学独自の社会貢献組織（地域研究センター、生涯学習センター）により、地域の課題・ニーズに対応した自主研究、受託研究、人材育成講座及び情報発信（公開シンポジウム、講演会、研究年報等）を継続的に行い、高い評価を得てきた（大学の地域貢献度ランキング調査で全国上位にランクされる）。

今回は、まず、地域研究センターと生涯学習センターを再編・一本化した「地域連携研究センター」を設立し、社会貢献事業の推進組織面での強化、拡大を図る。その上で、上記の＜連携研究＞による地域還元の推進のほか、市民、企業人の＜創造人材＞育成に注力するとともに、本学総体での、様々な地域活性化の活動領域への積極的参加をめざすことで、＜地域活性化と人材育成＞を推進する。

3 対象地域と地域課題

当プログラムの対象地域は、新潟県長岡市である。長岡市は、平成 17～22 年の間に 11 市町村の合併により誕生した（長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、川口町の 11 市町村）。

本学の人的資源（経済経営系学部の人材）やこの間の地域活性化の取り組み実績を踏まえ、今回の申請による解決を図ろうとする長岡地域の課題を整理すると、次の通りである。

★まず第1の課題として、産業の活性化による地域経済の発展をあげなくてはならない。経済のグローバル化に伴う国内外の企業・産業大競争における生き残りをめざして、長岡地域の企業・産業の競争力の向上により、地域の就業機会を維持・拡大し、産業空洞化を回避しなければならない。同時に、創業・起業活性化による新産業を育成し、産業の新陳代謝による地域経済の発展を図る必要がある。その鍵は、価値を生む人材育成にあり、そこに焦点を絞って、産官学の連携で強力に推進する必要がある。

★第2は、市民協働による社会課題の解決である。少子高齢化や環境問題等に伴う市民生活上の社会諸課題の改善・解決である。高齢社会の進展に伴う健康（スポーツ等）、医療、福祉（介護制度等）の問題、地域社会活性化をリードする教育・文化（祭り、イベント等）、国際交流の促進、さらに深化する環境問題（3R、環境教育、環境経営、自然環境等）など、多様な市民生活上の課題解決への取り組みが求められている。行政の施策と連携した市民協働（ボランティア活動等）の広がりによる対応が不可欠であり、そうした課題解決を担う人材の育成が重要になる。

★第3に、地域・コミュニティの活性化をあげなくてはならない。少子高齢化の進行等による地域・コミュニティの人口減少（過疎化）傾向が拡大し、活力の劣化が見られる。合併による広域化も加わって、長岡市内の各地域・コミュニティの活性化は、喫緊の大きな課題となっている。各地の地域資源（歴史・文化・産業等）の発掘や地域間交流の活発化等による＜脱衰退・新しい活性化＞が、里山地域から中山間地域まで、求められている。市民協働活動の充実・拡大とボランティア人材の養成により、地域・コミュニティの活性化を推進する必要がある。

4 長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の概要は、図表1-1に示す通りである。

(1) 地域課題と創造人材

地域課題は、産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つに設定している。本プログラムは、こうした地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題に応えようとするものである。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指す。近年の研究（R. フロリダ等）で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされた。本申請では、本学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指すものとする。

(2) 教育面（地域連携型キャリア教育）

3つの地域課題に対応できる教育として、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目（キャリア教育）における社会人基礎力（社会人として通用する能力）等の養成、

の3つを行う。①は上級の情報や専門資格取得による専門人材育成、②は19科目から33科目に拡大、③は、ボランティア活動への参加（社会貢献）を通じたボランティア・スキルの養成、課題解決提案（社会貢献）を通じた社会人基礎力の養成などを行う。産業活性化の課題にたいしては、④学生起業人材の養成を行う。これにより、起業家予備人材の輩出と地域の学生の起業家精神の涵養をめざす。

教育面では、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

（3）研究面（地域課題対応型連携研究）

研究面では、①地域への研究成果の還元、②地域との共同研究、に取り組む。①は、3つの地域課題解明・解決に関する、創造人材・人口減少・ボランティア活動等の3つの共同研究、及び、産業活性化に資する産業競争力研究、にそれぞれ取り組み、その成果の地域還元（公開シンポジウム等）を行う。②は、本学教員の地域志向型教育研究による共同研究であり、これも活発化し、地域課題解決に資する。

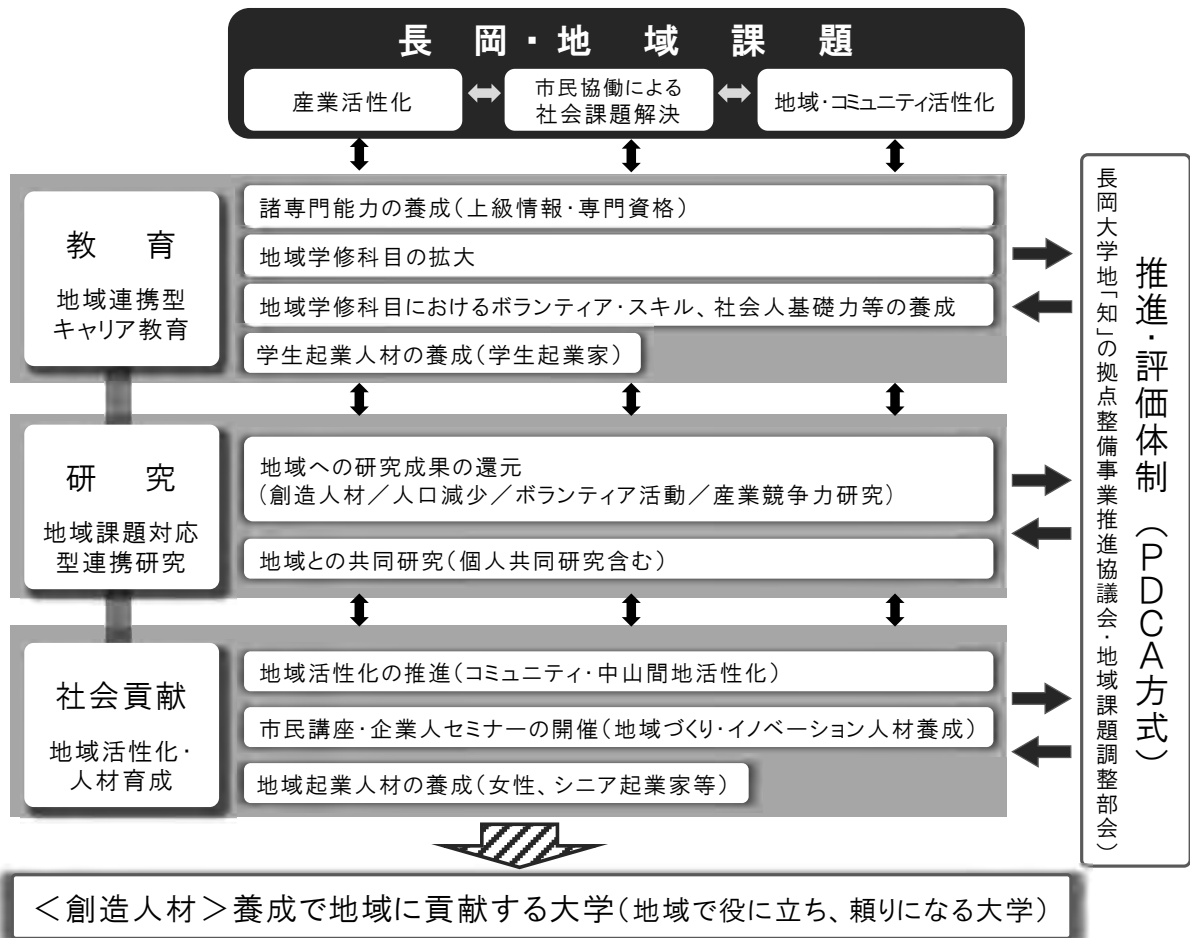
（4）社会貢献（地域活性化と人材育成）

社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民公開講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、の3つの事業に取り組む。①は3地域課題に対応して、教育面の学生の地域活性化・ボランティア活動と連携するとともに、本学立地地区（悠久山地区）の活性化等から他の地域活性化に拡大して、取り組む。②は、市民公開講座で課題解決をめざした地域づくり人材・ボランティア養成、企業人セミナーでイノベーション人材を養成し、企業価値創造・企業競争力強化に取り組む。③は女性・シニア含む起業家育成による創業・起業、ソーシャルビジネス起こしを促進し、新産業育成に資する。

（5）大学改革の方向

以上の事業の着実な推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと改革する。「地域に役立つ大学」は、長岡の伝統である＜米百俵の精神＞の現代における継承・実現でもある。そのため、カリキュラムの見直し・改革（地域学修科目、とくにボランティア科目、地域活性化科目、起業家塾の拡大・充実）の推進、地域連携（長岡市等）の強化、さらに、地域志向事業全般の推進・評価体制（地域連携研究センター設立等とPDCAの徹底）の確立を図る。

図表 1-1 長岡地域<創造人材>養成プログラム 全体図



II 事業推進体制と平成 25 年度経過報告

1 平成 25 年度助成額

平成 25 年度の文部科学省からの助成(補助金)は、32,231千円である。

2 事業推進体制

(1) 担当部門

- ・長岡大学のCOC事業全体企画・推進・点検(PDCAサイクル)を担うのは、長岡大学地域連携研究センターとする。

但し、教育分野事務は教務学生課、研究と社会貢献分野事務は総務課/地域連携室が担う。地域連携研究センターの事務局は地域連携室とする。

- ・事務担当者は、教務学生課(1Fに1名、3Fに1名)と地域連携室(3Fに3名=事務+コーディネーター2名)に配置する。
- ・COC関連広報機能は、広報会議(教員+事務担当者)を立ち上げ、学務・総務課と連携して地域連携室が担う。

(2) 地域連携研究センター

- ・長岡大学地域連携研究センターは、旧来の地域研究センターと生涯学習センターを統合再編する形で、「地域に役立つ大学」づくりを推進することを目的として、平成25年9月18日に設立された。同センター規程は図表2-1(10頁)を参照されたい。
- ・同センター所長は学長(内藤俊樹)、総括マネージャーは副学長(原田誠司)がそれぞれ、兼務する。

(3) 運営委員会

- ・「地(知)の拠点整備事業運営委員会」＝「地域連携研究センター運営委員会」とし、月1回、開催し進捗状況をチェックする。
- ・運営委員メンバー(各事業責任者)は次の通りである。月1回開催。
原田誠司(運営委員長)、高橋治道(教務委員長)、中村大輔(教務委員)、松本和明(学生委員長)、米山宗久(学生委員)、牧野智一(学生委員)、山川智子(学生委員)、鯉江康正(入学委員長)、村山光博(入学委員)、吉盛一郎(就職委員長)、小松俊樹(起業家塾等)、広田秀樹(FD委員長)、今瀬政司(地域活性化論等)、品川十英(事務局次長・12月から地域連携室長兼務)、南雲 渉(コーディネーター)、脇田妙子(コーディネーター)、井比 亨(教務学生課長)、三浦康弘(総務課長・11月まで地域連携室長兼務)、押見康雄(地域連携室)(以上19名)
- ・運営事務局会議メンバーは次の通りである。毎週火曜日に会議をもち、その結果を事務局会議通信として、全教職員に発信し、情報共有を図る。
原田誠司(運営委員長)、米山宗久(准教授)、品川十英(次長・地域連携室長)、井比亨(教務学生課長)、三浦康弘(総務課長)、山田満智子(書記)。必要に応じ、内藤学長、土田事務局長は参加。

(4) 推進協議会

- ・長岡市を始めとする地域連携機関との連携により、長岡大学COC事業の企画・展開・点検(PDCA)を推進する場として、「長岡大学地(知)の拠点整備事業推進協議会」を設置する。年1~2回開催。メンバーは次の通り。

会長／議長 内藤敏樹 長岡大学学長／教授

<連携機関等委員(敬称略)>

渡辺則道 長岡市市長政策室政策企画課長

竹田秀雄 長岡市商工部工業振興課長

長谷川和明 長岡商工会議所営業推進部長

伊藤定史 日本政策金融公庫長岡支店長

遠藤公一 株式会社北越銀行金融サービス部長

安藤明彦 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE事務局長

羽賀友信 NPO法人市民協働ネットワーク長岡理事長

山口壽道 公益社団法人中越防災安全推進機構業務執行理事

佐藤 勝 公益財団法人山の暮らし再生機構専務理事兼事務局長

<大学側委員>

*上記の長岡大学運営委員会委員が大学側協議会委員を務める

・地域課題調整部会

地域連携機関との連携を密にし、協同で事業推進を図るため、月1回、運営委員会の前後に調整部会を開催する。メンバーは、次の通りである。

鈴木武明 長岡市市長政策室政策企画課総括主査

植村 裕 長岡市商工部工業振興課工業振興係長

渡邊 聡 長岡商工会議所産業課工業係長

原田誠司、米山宗久、押見康雄（長岡大学側メンバー）

3 平成 25 年度経過報告

<平成 25 (2013) 年>

- ・ 4月18日(木)・・・平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」＝大学COC事業説明会(10:00～12:00、於：文部科学省)。原田、中山、三浦出席。
- ・ 5月20日(月)・・・COC申請書「長岡地域<創造人材>養成プログラム」完成(16:00)、21日(火)文部科学省に送付(締切り：23日)。
- ・ 7月1日(月)・・・COC申請書の面接審査決定(7月17日)との通知あり。書類審査合格。
- ・ 7月17日(水)・・・COC面接審査(10:00～10:40)。学長、原田、土田、中山、三浦、押見出席。
- ・ 8月2日(金)・・・本学のCOC事業「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が平成25年度文部科学省COC事業採択との連絡あり。
- ・ 8月7日(水)・・・採択大学等への平成25年度申請用説明会参加(16:00～、於：学術総合センター)、原田、三浦、中山出席。
- ・ 8月13日(火)・・・平成25年度調書および採択時別紙への対応状況シートを送付
- ・ 8月16日(金)・・・提出調書への質問事項＝「平成25年度大学改革推進等補助金調書(地(知)の拠点整備事業)確認事項」への回答要求あり。
- ・ 8月21日(水)・・・確認事項説明書および修正調書をメール送信。
- ・ 8月21日(水)・・・長岡大学COC第1回FD/SD会議開催(15:00～16:00、於：第5会議室)。経過報告及び学長方針表明(年内一杯、「長岡地域<創造人材>養成プログラム」＝長岡大学COC事業の進捗状況を教授会後の全教職員参加のFD(Faculty Development)/SD(Staff Development)会議でチェックする)。
- ・ 8月27日(火)・・・再・確認事項説明書および再・修正調書が最終的に承認される。平成25年度予算＝32,231千円に決定。
- ・ 9月11日(火)・・・秋田県立大学がCOCに関するヒアリングで来校
- ・ 9月18日(水)・・・教授会(13:00～)で、地域連携研究センター規程(案)を検討。9月18日付けで同研究センター設立、10月1日スタートを確認。運営委員会。運営事務局会議等推進体制も確認。ただし、この体制については、10月30日(水)の教授会で最終調整を行う。また、平成25年度長岡大学「地域志向教育研究」の推進方針を提示し、公募を開始。

- ・ 9月18日（水）・・・第2回FD／SD会議開催（15:00～、於・第5会議室）。平成25年度内定調書、事業推進体制、事業計画作成開始（10/30教授会締切）、当面のスケジュールを報告、確認。地域志向教育研究公募も開始（10/16締切）。
- ・ 9月20日（金）・・・長岡大学体育館竣工記念式典／記念パーティー開催。
 - *ブックレット37号「長岡大学地（知）の拠点整備事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」を作成、配布
- ・ 9月24日（火）・・・第1回運営事務局会議開催（11:00～12:00、於・第2会議室）。第2回から、毎週火曜日（9:00～10:00、於・第2会議室）で開催。
- ・ 10月1日（火）・・・運営事務局会議通信No.1、No.2発信、以後毎週、会議後メール発信。
- ・ 10月7日（月）・・・COC事業関連の事務職3名、コーディネーター2名勤務開始。
 - *職員配置→地域連携研究センターA－山田、久保、近藤、南雲、B－押見、恩田、脇田、C（学生用作業スペース）。
- ・ 10月16日（水）・・・第1回センター運営委員会開催（16:20～17:00、於・第4会議室）。
 - *地域志向教育研究公募締切り。
- ・ 10月23日（水）・・・第1回広報会議開催（9:00～10:00、於・第3会議室）。以後、原則月1回開催。
- ・ 10月23日（水）・・・第1回長岡大学地（知）の拠点整備事業推進協議会開催（15:30～17:00、於・第4会議室）。
- ・ 10月23日（水）・・・第1回地域課題調整部会開催（17:00～、於・第3会議室）。第2回から、長岡商工会議所で開催。
- ・ 10月30日（水）・・・第3回FD／SD会議開催（16:00～17:00、於・第5会議室）。
 - *講演・「長岡市の地域課題について」（長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村建史氏）により、地域課題の認識を深めた。
 - *運営委員会が立ち上がったので、当面のFD／SD会議は打ち切り。
- ・ 11月1日（木）・・・COC事業関連の教員1名勤務開始。
- ・ 11月19日（火）・・・第2回地域課題調整部会開催（16:00～17:00、於・長岡商工会議所）。
- ・ 11月20日（水）・・・第2回運営委員会開催（16:20～17:00、於・第4会議室）。
- ・ 11月22日（金）・・・長岡大学地域連携研究センター設立記念シンポジウム開催（14:00～17:00、於・226教室）。センター設立記念パーティー開催（17:30～、於・体育館学生食堂）。
- ・ 11月27日（水）・・・名古屋学院大学COC視察・来校（家本教授、井澤教授、杉山企画地域連携室補佐）（10:00～11:30、於・第2会議室）。本学は、学長、原田、三浦、品川、今瀬が参加。
- ・ 11月28日（木）・・・文部科学省COC広報パンフ原稿を作成、送信（11/29締切）。
- ・ 12月2日（月）・・・イノベーション人材養成講座「ものづくりマネジメント講座」開始（12月2日～2月17日までの8回講座、於・大学教室）。第1回公開講座「ものづくりとビジネスモデルの再構築」（講師・新宅純二郎東京大学教授）開催。
- ・ 12月3日（火）・・・イノベーション人材養成講座「商品企画」講座開始（12月3日～2月25日までの8回講座、於・大学教室。小松俊樹講師）。

- ・12月5日（木）・・・市民公開講座「初級簿記実践講座」（15回、於・まちなかキャンパス、中村大輔講師）開始。
- ・12月12日（木）・・・「さんぼう」の地（知）の拠点整備事業採択大学へのアンケート回答送信。
- ・12月14日（土）・・・平成25年度地域活性化プログラム成果発表会開催（13:00～17:00、於・ホテルニューオータニ長岡）。
- ・12月17日（火）・・・第3回運営委員会（平成25年度事業計画とりまとめ）（16:20～17:00、於・第4会議室）。
- ・12月19日（木）・・・第3回地域課題調整部会開催（16:00～17:00、於・長岡商工会議所）。

<平成26（2014）年>

- ・1月6日（月）・・・学生満足度調査実施（約2週間）
- ・1月16日（木）・・・ブックレット38号「長岡大学茶道部活動記録（2012年度）」を作成、配布
- ・1月21日（火）・・・第1回創造人材研究回開催（16:20～18:00、於・第3会議室）。
*講演・「今、企業に求められる人材とはー新潟県内企業を中心にー」株式会社ファインズ代表取締役社長 木津広美氏
- ・1月22日（水）・・・創業セミナー／創業支援メンター活用制度開始（毎回18:30～20:30、1月22日～3月12日までの8回講座、於・大学教室、小松俊樹講師他）。
- ・1月27日（月）・・・第4回地域課題調整部会開催（16:00～17:00、於・長岡商工会議所）。
- ・1月28日（火）・・・第4回運営委員会開催（16:20～17:00、於・第4会議室）。
- ・2月7日（金）・・・第1回長岡地域起業家塾運営会議開催（16:00～17:20、会場・第4会議室）
- ・2月7日（金）・・・長岡地域起業家塾ラウンドテーブル（17:30～19:00、会場・第4会議室）
- ・2月18日（火）・・・大学間連携共同教育推進事業選定取組全国シンポジウム参加（10:30～16:30、於・一橋講堂）
- ・2月24日（月）・・・京都産業大学（4名）、COC等事業視察で来校
- ・2月24日（月）・・・第5回地域課題調整部会開催（16:00～17:00、於・長岡商工会議所）。
- ・2月24日（月）・・・第6回地域課題調整部会開催（14:00～15:00、於・長岡商工会議所）
- ・2月25日（火）・・・第5回運営委員会開催（16:20～17:00、於・第4会議室）。
- ・2月26日（水）・・・ブックレット39号「学生による地域活性化プログラムの展開（平成24年度）」を作成、配布
- ・2月27日（木）・・・地域元気フォーラム（坂本光司教授基調講演等、於・ホテルニューオータニ長岡）
- ・2月28日（金）・・・産学官連携担当役員等説明会（13:30～16:30、於・一橋講堂）
- ・3月15日（土）・・・悠久山・東山フォーラムーみんなで、悠久山・東山地区を語ろうー（長岡大学地域交流ホール）

図表 2-1

長岡大学地域連携研究センター規程

平成 25 年 9 月 18 日 学長

(趣旨)

第 1 条 この規程は、長岡大学学則第 5 条第 2 項の規定に基づき、長岡大学地域連携研究センター（以下「センター」という。）について、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、長岡大学（以下「本学」という。）学内教育研究施設として、地域との連携活動を通して、地域ニーズに応える若者人材の育成、地域社会の諸課題の調査研究の推進とその成果の地域への還元、本学の知的資産の活用による学習機会の提供を行うとともに、地域活性化に取り組むことにより、本学の「地域に役立つ大学」づくりを推進することを目的とする。

(事業)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 学生の地域課題への取り組みや地域活動への参加等の支援・推進
- 二 地域課題解決にかかわる自主研究・調査および受託研究・調査
- 三 地域関連資料・データの収集・整理
- 四 公開講座、セミナー、研究会、講演会、シンポジウム等の開催
- 五 事業診断活動および専門人材の研修活動
- 六 地域活性化諸活動の支援・推進
- 七 『地域連携研究年報』の刊行、研究成果の公表
- 八 その他一から七に関連する一切の事業

(事業計画)

第 4 条 前条に定める諸事業は、年度ごとに、計画－実施－点検－改善（いわゆる P D C A）のサイクルで推進し、事業の成果と課題を明確にし、次年度計画へと発展させる。

(研究・調査)

第 5 条 第 3 条第 2 号に定める自主研究・調査は、個人研究・調査と共同研究・調査の双方を含み、責任者を明確にして、推進する。

(経費)

第 6 条 第 3 条の事業推進に係わる必要経費は、毎年度のセンター予算に則って、支出する。

(組織)

第 7 条 センターに次の職員を置く。

- 一 所長

- 二 総括マネジャー
- 三 コーディネーター
- 四 研究員
- 五 事務職員

- 2 所長は、本学学長とする。
- 3 総括マネジャー以下の職員は、学長が毎年度事業を踏まえて、年度当初に指名する。
- 4 総括マネジャーは、センター事業全般の円滑な推進を図る。
- 5 コーディネーターは専門性を有する外部有識者を当て、その専門性を活かして、担当各事業の充実、進化を図る。
- 6 研究員は、第3条第2項に定める調査・研究を担う本学教員を当てる。
- 7 事務職員は、センターの事務全般を担う。
- 8 上記職員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第8条 前条第1項に定める職員の他、センターの調査・研究活動の展開の際に、学外の専門家等を客員研究員として委嘱することができる。

- 2 客員研究員については、別に定める。

(運営)

第9条 所長はセンターの業務を統括する。総括マネジャーはこれを補佐するため、運営委員会を組織し、運営委員長として、業務の推進を図る。

- 2 運営委員会を構成する運営委員は、毎事業年度当初に、所長が委嘱する各事業の責任者を当て、毎月、事業計画の進捗を点検し、円滑な事業推進を図る。
- 3 各事業の推進に当たり、複数以上のメンバーの協働が必要な事業においては、各事業の責任者は運営部会を設けることができる。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターに関する必要事項については、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成25年9月18日から施行する。

Ⅲ <教育>における事業展開

0 <教育>の取組み

地域課題に対応できる<教育>の取組みの柱は、①諸専門的能力の養成（上級の情報・専門資格取得による専門人材育成）、②地域志向科目の拡大（19科目から33科目への拡大）、③地域志向科目における社会人基礎力等の養成（ボランティア・スキルの養成、課題解決提案やインターンシップを通じた社会人基礎力の養成）、さらに、④学生起業人材の養成（産業活性化対応）の4本である。教育面の取組みでは、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

1 諸専門能力の養成

（1）方針・目標

- ・資格対応専門教育プログラムにおいては、学卒生に求められる上級情報処理能力（ITパスポート、Excel/Word 1・2級等）と専門能力（日商簿記1・2級、販売士1・2級等）の取得を、正規授業に加えて、対策講座の充実により推進する。学生TAも十分に活用する。
- ・平成29年度には、情報資格の取得目標－卒業生数の60%、専門資格の取得目標－卒業生数の40%、をめざす。

（2）平成25年度方針・目標

- ・上級の情報（ITパスポート、Excel/Word 1・2級、Webクリエイターの6資格）および専門能力（日商簿記1・2級、販売士1・2級、経営学検定中級、福祉住環境コーディネーター2級の6資格）資格取得のための対策講座各試験の直前講座として開催する。
- ・平成25年度は、情報資格取得者各学年20%、専門資格取得者各学年10%をめざす。
- ・平成26年度に向けて、コースと対象資格、資格受験学習の仕方、資格試験日程、資格取得支援の方策（相談・指導等）など、総合的な資格取得の手引（ブックレット）を作成する。同時に、資格センターを設立し、資格対応型専門教育プログラムの成果があがる仕組みを確立する。

（3）計画

平成25年度の資格対策講座計画は、図表3-1「資格対策講座計画一覧」の通りである。

図表3-1 資格対策講座計画一覧

日商簿記検定2級対策講座（第135回対策）	担当教員：中村 大輔
検定試験に合格し、基礎的な株式会社社会計の知識を習得した人材としての証明を得ることで、地域企業等に貢献できる人材を育成します。受講者全員の合格を目指します。	平成25年11月07日（木）18:00～20:00
	平成25年11月12日（火）18:00～20:00
	平成25年11月14日（木）18:00～20:00
	平成25年11月16日（土）13:00～17:00
Word文書処理技能認定試験（1級）対策講座（11月試験対策）	担当教員：高梨 俊彦
「Word文書処理技能認定試験（1級）」の合格を目指し、ビジネス文書作成における効果的な資料、企画書などの作成能力を向上させ	平成25年11月13日（水）18:00～20:00
	平成25年11月18日（月）17:00～19:00
	平成25年11月20日（水）18:00～20:00

ます。	平成 25 年 11 月 25 日 (月) 17:00~19:00 平成 25 年 11 月 27 日 (水) 18:00~20:00
福祉住環境コーディネーター2 級対策講座 (11 月試験対策)	担当教員: 米山 宗久
「福祉住環境コーディネーター2 級に合格し、高齢者や障がい者が在宅で自立した生活が営めるように、医療・福祉・建築などの知識を身につけ、住宅に関する具体的な事例に対応できる人材を養成します。	平成 25 年 11 月 13 日 (水) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 18 日 (月) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 20 日 (水) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 18:00~20:00
薬学検定・美容薬学検定対策講座 (11 月実施)	担当教員: 山川 智子
製薬会社などの営業職等につながる内容である。一般薬や医薬品の概要を知り、健康に関する基礎知識を身につけることで、健康を守るセルフケアに寄与し、キャリアアップへとつなげてゆく。	平成 25 年 11 月 14 日 (木) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 16 日 (土) 13:00~16:00 平成 25 年 11 月 21 日 (木) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 23 日 (土) 13:00~16:00
経済学検定試験 (ERE) 対策講座 (12 月試験対策)	担当教員: 牧野 智一
経済学検定試験を受験し、上位ランクの成績を修めた経済学を理解する地域社会に貢献できる人材を育成します。B ランク以上の成績獲得を目標とします。	平成 25 年 11 月 14 日 (木) 18:00~20:30 平成 25 年 11 月 21 日 (木) 18:00~20:30 平成 25 年 11 月 28 日 (木) 18:00~20:30 平成 25 年 11 月 30 日 (土) 13:00~15:30
PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験 (上級) 対策講座 (12 月試験対策)	担当教員: 村山 光博
「PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験 (上級)」の合格を目指し、情報を他者に伝えるための効果的なプレゼンテーション資料作成能力を向上させます。	平成 25 年 11 月 26 日 (火) 18:00~20:00 平成 25 年 11 月 28 日 (木) 18:00~20:00 平成 25 年 12 月 03 日 (火) 18:00~20:00 平成 25 年 12 月 05 日 (木) 18:00~20:00
eco 検定 (環境社会検定) 試験対策講座 (12 月試験対策)	担当教員: 山川 智子
eco 検定試験に合格し、環境社会の知識をもつ地域社会に貢献できる人材を育成します。	平成 25 年 12 月 03 日 (火) 18:00~20:00 平成 25 年 12 月 05 日 (木) 18:00~20:00 平成 25 年 12 月 10 日 (火) 18:00~20:00 平成 25 年 12 月 12 日 (木) 18:00~20:00 平成 25 年 12 月 14 日 (土) 10:00~12:00
医療事務管理士対策講座 (前編)	担当教員: 大濱 晴美
2014 年 1 月 25 日の試験を受験し、学科試験の合格を果たした上で、3 月 22 日の実技試験に合格できるよう、2 段階に渡って当該試験の合格を目指す。	平成 25 年 12 月 05 日 (木) 10:40~12:10 平成 25 年 12 月 12 日 (木) 10:40~12:10 平成 25 年 12 月 19 日 (木) 10:40~12:10 平成 26 年 01 月 09 日 (木) 10:40~12:10 平成 26 年 01 月 16 日 (木) 10:40~12:10
3 級販売士検定試験対策講座 (第 73 回対策)	担当講師: 中村 泰三
販売士 3 級検定試験の学習を通じて、小売店舗運営に関わる基本的な仕組みや用語の理解と検定試験の合格を目的とします。受講者全員の合格を目指します。	平成 26 年 01 月 13 日 (月) 18:00~20:00 平成 26 年 01 月 14 日 (火) 18:00~20:00 平成 26 年 01 月 20 日 (月) 18:00~20:00 平成 26 年 01 月 27 日 (月) 18:00~20:00 平成 26 年 01 月 28 日 (火) 18:00~20:00
Word 文書処理技能認定試験 (1 級) 対策講座 (2 月試験対策)	担当教員: 高梨 俊彦
「Word 文書処理技能認定試験 (1 級)」の合格を目指し、ビジネス文書作成における効果的な資料、企画書などの作成能力を向上させます。	平成 26 年 01 月 20 日 (月) 17:00~19:00 平成 26 年 01 月 22 日 (水) 17:00~19:00 平成 26 年 01 月 27 日 (月) 17:00~19:00 平成 26 年 01 月 29 日 (水) 17:00~19:00 平成 26 年 02 月 10 日 (月) 17:00~19:00
Excel 表計算処理技能認定試験 (2 級) 対策講座 (2 月試験対策)	担当教員: 村山 光博
「Excel 表計算処理技能認定試験 (2 級)」の合格を目指し、作表、	平成 26 年 01 月 25 日 (土) 10:00~16:00 平成 26 年 02 月 08 日 (土) 10:00~16:00

グラフ、データ分析、マクロなどビジネスで必要とされる表計算の技術および知識を向上させます。	
医療事務管理士対策講座（後編）	担当教員：大濱 晴美
2014年1月25日の試験を受験し、学科試験の合格を果たした上で、3月22日の実技試験に合格できるよう、2段階に渡って当該試験の合格を目指す。	平成26年02月13日（木）13:00～16:10 平成26年02月20日（木）13:00～16:10 平成26年03月06日（木）13:00～16:10 平成26年03月11日（火）13:00～16:10 平成26年03月20日（木）10:40～16:10 平成26年03月13日（木）10:40～16:10
日商簿記検定2級対策講座（第136回対策）	担当教員：吉盛 一郎 / 中村 大輔（2/22のみ）
検定試験に合格し、基礎的な株式会社社会計の知識を習得した人材としての証明を得ることで、地域企業等に貢献できる人材を育成します。受講者全員の合格を目指します。	平成26年02月14日（金）18:00～20:00 平成26年02月14日（金）18:00～20:00 平成26年02月18日（火）18:00～20:00 平成26年02月21日（金）18:00～20:00 平成26年02月22日（土）13:00～17:00

(4) 展開

上記の計画を踏まえて、実施された講座は図表3-2「資格対策講座実施結果一覧」の通りであった。販売士3級とWord1級講座は、応募者がゼロのため、不開講になった。

図表3-2 資格対策講座実施結果一覧

講座名称	講座実施期間	担当教員	講座受講者数	平均出席率	検定受験者	合格者数
第135回日商簿記検定試験2級対策講座	11/7~11/16	中村大輔	7名	81%	7名	2名
Word文書処理技能認定試験1級対策講座	11/13~11/27	高梨俊彦	1名	60%	0名	0名
福祉住環境コーディネーター2級対策講座	11/13~11/22	米山宗久	4名	80%	2名	1名
薬学検定・美容薬学検定対策講座	11/14~11/23	山川智子	13名	40%	13名	7名
経済学検定試験（ERE）対策講座	11/14~11/30	牧野智一	5名	45%	1名	1名
PowerPointプレゼン技能認定試験上級対策講座	11/26~12/5	村山光博	6名	53%	5名	5名
eco検定（環境社会検定）対策講座	12/3~12/14	山川智子	3名	59%	1名	0名
医療事務管理士対策講座（前編）	12/5~1/16	大濱晴美	5名	84%		
Excel表計算処理技能認定試験2級対策講座	1/25~2/8	村山光博	5名	50%	5名	4名
医療事務管理士対策講座（後編）	2/13~3/20	大濱晴美	6名	16%		
第136回日商簿記検定試験2級対策講座	2/13~2/22	吉盛一郎 中村大輔	2名	50%	2名	1名
合計	—	—	57名	56%	36名	21名

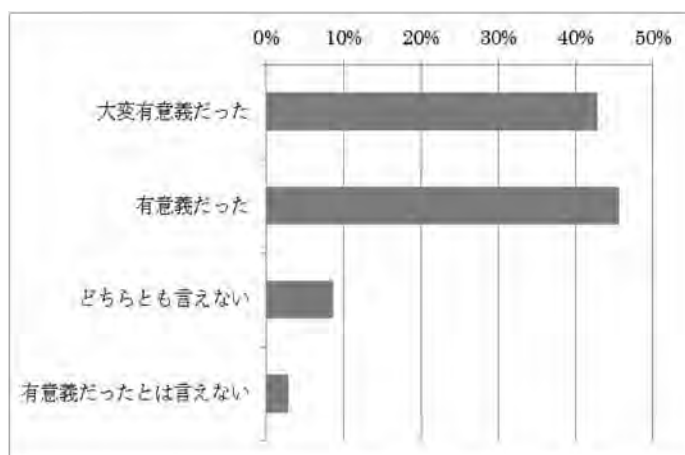
※平成26年3月17日時点

(5) まとめ—成果と課題—

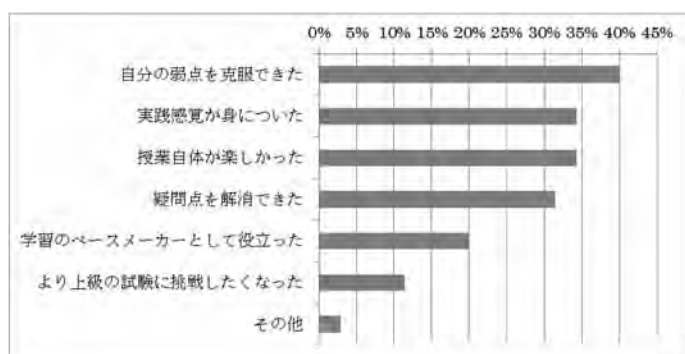
- ・講座の開講計画は、当初の平成 25 年度方針と比べ、PowerPoint 検定（上級）、Eco 検定経済学検定および薬学検定の 4 検定が新しく計画された。これは、当講座が後期開始ということもあり、当初方針を変更せざるをえなかったためである。次年度は年間計画になるので、今年度方針を踏まえて、新しい方針のもとで講座計画を作成する。
- ・販売士 3 級と Word 1 級講座の応募者がいなかったが、これも、後期開講という時期的な問題が影響したものと思われる。次年度は、年間計画なので、学生への広報をより丁寧に行い不開講講座をうまないように努力する必要がある。
- ・講座の成果をみると、講座受講者総数は 57 名、検定受験者率（検定受験者総数 36 名／講座受講者総数 57 名）63.2%、検定合格率（検定合格者数 21 名／検定受験者総数 36 名）58.3%であった。受講者数等量的には満足できる数字ではないが、検定受験者率、検定合格率等質的にはまあまあの数字の残したか。次年度は、年間でこれを量的にも質的にも上回る数字を達成することが望まれる。
- ・講座参加学生アンケート結果（図表 3－3 対策講座アンケート結果）をみると、平成 25 年度講座は、各講座において、学習目標が明確な学生層が中心であったことがわかる。

図表 3－3 対策講座アンケート結果

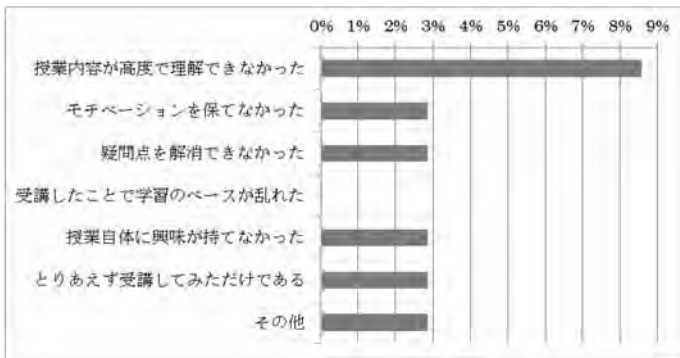
(1) 今回の講座は有意義であったか（問 1）（N=35）



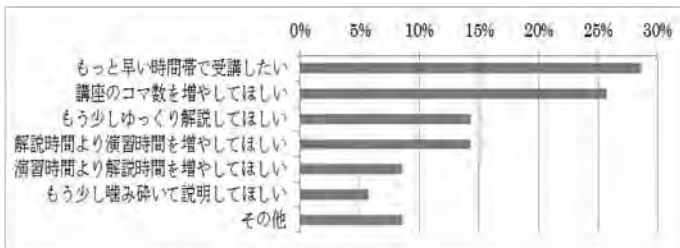
(2) 問 1 で、大変有意義だった、有意義だったと回答した者について、理由は何か（問 2）（N=35）



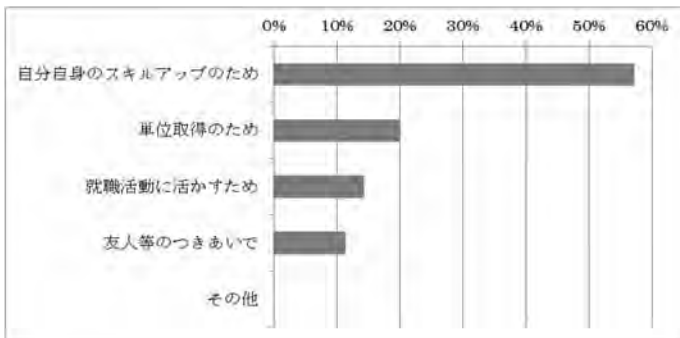
(3) 問2でどちらとも言えない、有意義だったはいえないと回答した者について、理由は何か
(問3) (N=35)



(4) 講座に対する意見 (問4) (N=35)



(5) 今回の検定の受験動機は何か (問5) (N=35)



- ・平成 25 年度の目標（上級情報資格取得者各学年 20%、上級専門資格取得者各学年 10%）の達成度をみると、図表 3-4 に示すように、目標達成にはいたらなかった。
- ・上級情報系資格においては、2 年生の資格取得率が 22.5%であり、部分的な目標達成を見ることができたが、平成 26 年度は本学カリキュラム進捗状況に合わせて資格取得推奨時期をアドバイスすることで、取得率向上を図ってゆく。
- ・また上級専門系資格においては、学生が早期にプランを立てて学習に取り組めるよう、資格取得支援センター（平成 26 年 6 月開設）において事前セミナーを実施し、その後継続した学習アドバイスを実施することで、取得率向上を図ってゆく。

図表 3-4 平成 25 年度上級情報・専門資格取得実績（学年別）

年度	検定名	受験者数	合格者数	1年生	2年生	3年生	4年生	合格率	学生数				
									337	60	71	84	122
									取得率				
									全体	1年生	2年生	3年生	4年生
2013	Word 文書処理技能認定試験1・2級	32	10	1	4	3	2	31.3%	3.0%	1.7%	5.6%	3.6%	1.6%
2013	Excel 表計算処理技能認定試験1・2級	28	18	1	5	8	4	64.3%	5.3%	1.7%	7.0%	9.5%	3.3%
2013	PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験上級	17	14		6	4	4	82.4%	4.2%		8.5%	4.8%	3.3%
2013	IT パスポート試験(シスアド)	1	1		1			100.0%	0.3%		1.4%		
	情報系資格	78	43	2	16	15	10	55.1%	12.8%	3.3%	22.5%	17.9%	8.2%
2013	日商簿記検定2級	17	5		2	3		29.4%	1.5%		2.8%	3.6%	
2013	販売士検定2級	3	0						0.0%				
2013	経営学検定中級	0	0						0.0%				
2013	経済学検定(ERE ミクロ・マクロ)	6	3		1	2		50.0%	0.9%		1.4%	2.4%	
2013	福祉住環境コーディネーター2級	7	6			6		85.7%	1.8%			7.1%	
2013	eco検定(環境社会検定試験)	3	3			3		100.0%	0.9%			3.6%	
2013	医療事務管理士(免除あり)	1	1				1	100.0%	0.3%				0.8%
	専門系資格	37	18	0	3	14	1	48.6%	5.3%	0.0%	4.2%	16.7%	0.8%

・合格率=合格者数/受験者数

・取得率=合格者数/学生数（学年ごとの取得率はその学年の学生数が分母）

- ・資格センターについては、検討の結果、次年度の平成 26 年 6 月に、「資格取得センター」を開設して、学生の資格取得、達成感の向上を図ることとした。その基本的な構想は、図表 3-5 に示すとおりである。

図表 3-5 資格取得支援センター構想の概要

(1) 基本的枠組み

呼称	長岡大学 COS (Center of Study/Student) ～学びの拠点～
目標	本学の目的「学生に〈充実感・達成感・満足感〉を！ビジネス展開能力と人間力を鍛える」のもと、資格取得支援において、学生が「社会に出てから仕事の幅を広げることができる」「資格の学習過程で実社会の一部を学ぶことができる」「資格取得を通して自分に自信をもつことができる」ことを目標として事業を推進してゆく。
業務概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 資格学習に係る相談・情報提供 ● 資格試験直前対策講座の企画・運用 ● 資格試験申込に係る業務 ● 当該事業に係る情報管理システムの企画・運用

設置場所	現・地域連携研究センターB を改修して設置する。
開室時間	大学開業日 9:00～17:00 とする。
開設時期	平成 26 年 6 月 1 日付で開設する。 ※物理的な設置は平成 26 年 3 月内に完了予定
発行物	ブックレット・リーフレット （平成 26 年 4 月発行予定）

(2) スケジュール

時期区分	H26 年 3 月	H26 年 4 月	H26 年 5 月	H26 年 6 月
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・センター事業計画 ・人員配置計画 ・配置換え（物的移動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理 DB 設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理 DB 構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス本稼働 (6 月 1 日稼働予定)
成果物	<ul style="list-style-type: none"> ・センター設置企画書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックレット *1 ・リーフレット *2 	<ul style="list-style-type: none"> ・各講座リーフレット *3 ・管理 DB 	

*1：資格取得の手引き *2：資格取得支援センターの紹介 *3：各講座の案内兼申込用紙

2 地域志向・学修科目

(1) 方針・目標

- ・新たな地域志向科目を大幅に拡大して、学生の現場感覚・知識の養成、社会人基礎力の充実をめざす。
- ・各コースの代表科目に地域学修を加え、地域志向・学修科目を拡大する。
- ・平成 29 年度には、地域志向科目 33 科目、履修学生 1,000 人（延べ）をめざす。

(2) 平成 25 年度方針・目標

- ・平成 25 年度後期には、14 の地域志向科目を設定する。
- ・平成 25 年度は、地域志向科目 19 科目、履修学生 680 人（延べ）をめざす。
- ・平成 26 年度の地域志向科目については、新たに検討を行い、再設定を行う。

(3) 計画

- ・平成 25 年度後期の地域志向科目は、次の 14 科目である（調書）。
 - * 1 年次科目→長岡・新潟県を知る、キャリア開発Ⅰ、ボランティア体験Ⅰ、経済・経営の現場を知るⅠ、同Ⅱ
 - * 2 年次科目→キャリア開発Ⅱ－2、起業家塾、企業経営研究 2、地域活性化プログラム
 - * 3 年次科目→キャリア開発Ⅲ、ゼミナールⅢ、インターンシップ
 - * 4 年次科目→ゼミナールⅣ、キャリア開発Ⅳ

(4) 展開

- ・COC 事業の対象となった平成 25 年度後期の実質の地域志向科目は、上記 14 科目のうち、「ボランティア体験Ⅰ」、「起業家塾」及び「インターンシップ」は 8～9 月の集中授業であり、「経済・経営の現場を知るⅠ、同Ⅱ」は授業内容が既定であり、「地域活性化プログラム」は他の事業（5「地域活性化プログラム」）に統合実施されたので、次の 8 科目となった。
 - * 1 年次科目→長岡・新潟県を知る、キャリア開発Ⅰ
 - * 2 年次科目→キャリア開発Ⅱ－2、企業経営研究 2
 - * 3 年次科目→キャリア開発Ⅲ、ゼミナールⅢ
 - * 4 年次科目→ゼミナールⅣ、キャリア開発Ⅳ
- ・しかし、初年度ということもあり、地域志向で企業講師等の招聘を希望する科目があれば申請可とするところ、「地方行政」と「マーケティング 2」が追加された。その結果、平成 25 年度後期の地域志向科目は、11 科目となった。

(5) まとめー成果と課題ー

- ・平成 26 年度の地域志向科目については、各教員の希望等踏まえ検討した結果、図表 1 の通りとなった。平成 26 年度は 125 頁に示した図表 6-1 の 35 科目を地域志向・学修科目として、企業講師授業等を実施する。

3 現場感覚・知識の養成

(1) 方針・目標

- ・地域志向科目において、3課題（産業活性化、社会課題解決、地域活性化）に対応した、企業講師授業や現場体験学修等の体験型授業を行い、学生の現場感覚・知識の養成を促進する。
- ・平成29年度には、地域志向科目33科目で、3限分の体験型授業実施－体験型授業数99回をめざす。

(2) 平成25年度方針・目標

- ・地域志向14科目（1年次＝長岡・新潟県を知る、キャリア開発Ⅰ、ボランティア体験Ⅰ、経済・経営の現場を知るⅠ、同Ⅱ、2年次＝キャリア開発Ⅱ－2、起業家塾、企業経営研究2、地域活性化プログラム、3年次＝キャリア開発Ⅲ、ゼミナールⅢ、インターンシップ、4年次＝ゼミナールⅣ、キャリア開発Ⅳ）で、企業講師・現場体験等授業を行う。
- ・平成25年度は、上記14科目（後期）で、各科目3限分の体験型授業（2限分企業講師、1限現場体験学修）実施する（体験型授業数42回）。
- ・毎授業ごとに、受講学生の評価アンケートを行い、成果を確認する。
- ・平成26年度に向けて、地域志向科目の再設定を行い、平成26年度シラバスに明記する。

(3) 計画

平成25年度の企業講師等授業計画は、図表3－6の通りである。


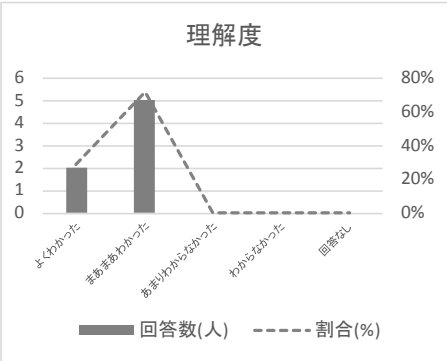
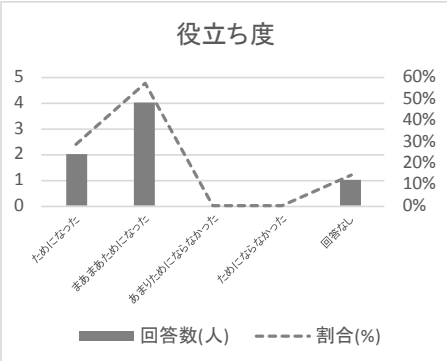
図表3－6 企業講師等授業計画一覧


日時	時限	科目名	担当教員	外部講師	講義テーマ
10月16日(水)	3	キャリア開発Ⅳ	岡 俊明	株式会社ティックス 企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	企業が求める人材
10月31日(木)	3	長岡・新潟県を知る －長岡学・新潟学序説－	松本 和明	新潟県立歴史博物館 参事 野堀 正雄 氏	江戸時代までの新潟県域の あゆみ
11月4日(月)	2	キャリア開発Ⅰ	松崎 陽子	アクシアルリテイリング(株) 吉田 陽平 氏	小売業で働くということ
11月5日(火)	3	企業経営研究2	岡 俊明	中小企業診断士中村公哉事務所 所長 中村 公哉 氏	スーパーマーケットに学ぶ 変化への対応
11月11日(月)	2	キャリア開発Ⅰ	松崎 陽子	丸福証券 笠原 成美 氏	証券会社の仕事
11月13日(水)	3	キャリア開発Ⅳ	岡 俊明	株式会社ティックス 企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	コミュニケーションについ て
11月14日(木)	2	キャリア開発Ⅱ	松崎 陽子	新潟大学農学部 キャリアアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏	新潟の就職状況
11月19日(火)	3	企業経営研究2	岡 俊明	中小企業診断士中村公哉事務所 所長 中村 公哉 氏	スーパーマーケットに学ぶ 変化への対応(財務編)
11月20日(水)	3	キャリア開発Ⅳ	岡 俊明	株式会社ティックス 企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	コンセンサスと人間関係づ くり
11月21日(木)	3	キャリア開発Ⅲ	吉盛 一郎	ウインズ・ビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策 氏 (ほか2名)	就職に向けての面接実習1


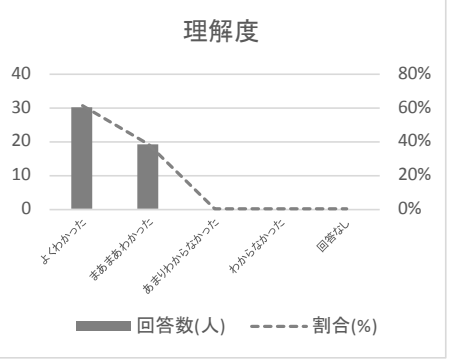
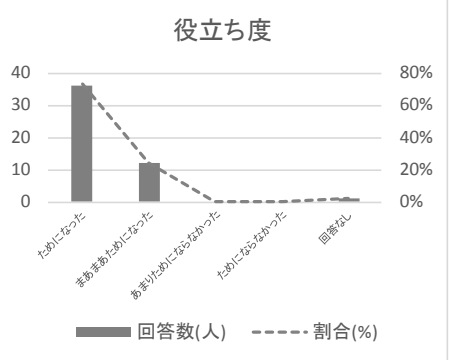
日時	時限	科目名	担当教員	外部講師	講義テーマ
11月21日(木)	3	長岡・新潟県を知る —長岡学・新潟学序説—	松本 和明	新潟県立歴史博物館 参事 野堀 正雄 氏	長岡・新潟県の「食」
11月27日(水)	3	キャリア開発Ⅳ	岡 俊明	株式会社テイクス 企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	チームワークを考える
11月28日(木)	3	長岡・新潟県を知る —長岡学・新潟学序説—	松本 和明	新潟県立歴史博物館 参事 野堀 正雄 氏	“すし”の文化誌
11月28日(木)	2	キャリア開発Ⅱ	松崎 陽子	ビジネスマナー講師 渋谷 千恵子 氏	効果的な自己表現Ⅰ
11月28日(木)	3	キャリア開発Ⅲ	吉盛 一郎	ウインズ・ビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策 氏 (ほか2名)	就職に向けての面接実習2
12月2日(月)	2	キャリア開発Ⅰ	松崎 陽子	新潟大学農学部 キャリアアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏	企業で働くということ(営業の仕事)
12月3日(火)	3	企業経営研究2	岡 俊明	中小企業診断士中村公哉事務所 所長 中村 公哉 氏	飲食業界の財務諸表
12月5日(木)	2	キャリア開発Ⅱ	松崎 陽子	ビジネスマナー講師 渋谷 千恵子 氏	効果的な自己表現Ⅱ
12月5日(木)	3	キャリア開発Ⅲ	吉盛 一郎	ウインズ・ビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策 氏 (ほか2名)	就職に向けての面接実習3
12月11日(水)	2	マーケティング2 商品開発講座	岡 俊明	MCHマーケティングコンセプトハウス 特別顧問 鈴木 章雄 氏	マーケットリサーチの概論
12月12日(木)	2	キャリア開発Ⅱ	松崎 陽子	新潟大学農学部 キャリアアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏	面接のコツとグループ面接 実践
12月12日(木)	3	キャリア開発Ⅲ	吉盛 一郎	株式会社ファインズ 取締役社長 木津 広美 氏	企業選択・企業研究について
12月16日(月)	2	キャリア開発Ⅰ	松崎 陽子	ビジネスマナー講師 渋谷 千恵子 氏	フリーで働くということ(ア ナウンサーの仕事)
12月18日(水)	2	マーケティング2 商品開発講座	岡 俊明	MCHマーケティングコンセプトハウス 特別顧問 鈴木 章雄 氏	マーケットリサーチと調査 設計
12月19日(木)	3	キャリア開発Ⅲ	吉盛 一郎	株式会社ファインズ 取締役社長 木津 広美 氏	就勝出発式
12月19日(木)	3	長岡・新潟県を知る —長岡学・新潟学序説—	松本 和明	株式会社新潟日報社 報道部記者 横山 志保 氏	新聞メディアから見た新潟 県の現状と今後
12月24日(火)	1	地方行政	内藤 敏樹	長岡市行政管理課 課長補佐 桜井 秀行 氏	自治体における行財政改革
1月7日(火)	1	地方行政	内藤 敏樹	長岡市地域振興戦略部 総括副主幹 佐山 靖和 氏	長岡市の市町村合併
1月9日(木)	3	長岡・新潟県を知る —長岡学・新潟学序説—	松本 和明	新潟県議会議員 大淵 健 氏	新潟県議会の役割と今後の あり方
1月13日(月)	2	キャリア開発Ⅰ	松崎 陽子	株式会社タイホーコーザイ 坂井 大助 氏	メーカーで働くということ
1月16日(木)	2	キャリア開発Ⅱ	松崎 陽子	新潟大学農学部 キャリアアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏	個人面接実践(模擬面接)
1月16日(木)	3	長岡・新潟県を知る —長岡学・新潟学序説—	松本 和明	新潟県議会議員 大淵 健 氏	新潟県の現状と課題および 今後の方向性
1月23日(木)	3	長岡・新潟県を知る —長岡学・新潟学序説—	松本 和明	一般財団法人 十日町地域地場産業振興センター 杉山 弘美 氏	十日町地域の現状と今後


(4) 展開


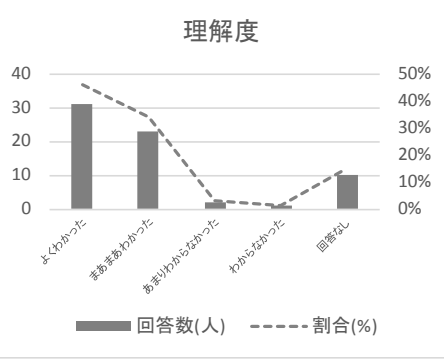
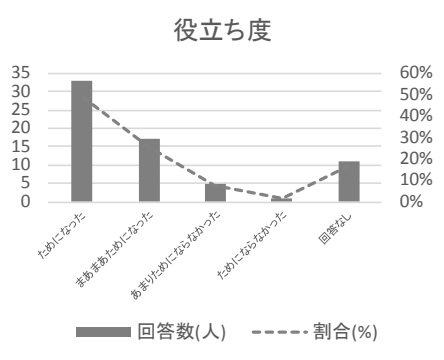
上記計画にもとづく各授業の概要、理解度、役立ち度および改善要望は、次の通りである。


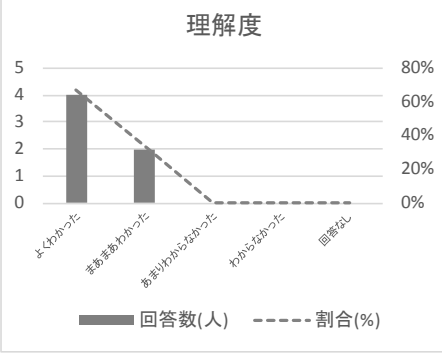
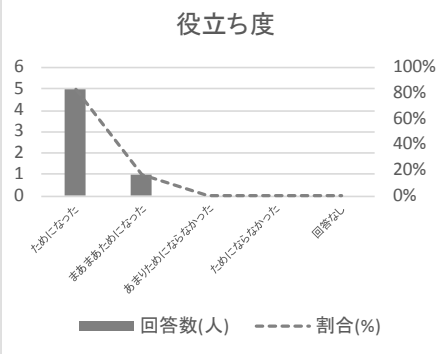
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅳ 2013年10月16日(水) 3限 215教室(岡 俊明)</p>	
<p>テーマ</p>	<p>企業が求める人材</p>	
<p>講師</p>	<p>株式会社テイクス 朝日 由香 氏</p>	
<p>概要</p>	<p>企業が求める人材とはどのような人材であるか学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 7 名</p>	
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。 ・企業は前向きで、チャレンジ精神のある人材を求めていることが分かった。 ・「主体性」「コミュニケーション」「チャレンジ精神」の3つが特に大切であると思った。</p> <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>	<p>理解度</p>  <p>n= 7</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 ・自分がどのようなタイプであるか、社会人になってよく知っておくべきであるということが分かり、ためになった。 ・企業が求める人材として、様々な要素が必要となることが分かり、ためになった。</p>	<p>役立ち度</p>  <p>n= 7</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>	


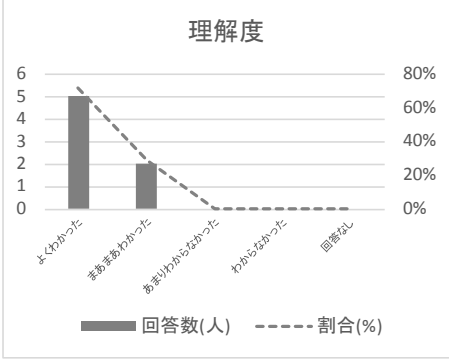
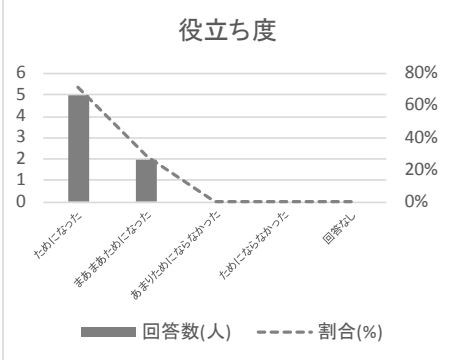
<p>科目</p>	<p>長岡・新潟県を知る 2013年10月31日(木) 3限 217教室(松本 和明)</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>江戸時代までの新潟領域のあゆみ</p>																		
<p>講師</p>	<p>新潟県立歴史博物館 野堀 正雄 氏</p>																		
<p>概要</p>	<p>古代～近世における新潟領域の諸相について学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 43 名</p> 																		
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーモアを交えた講義で、過去に受講した歴史の授業の中でも、大変分かりやすいものだった。 ・昔の新潟は、支配する人がよく代わり、不安定であったことが分かった。 ・米、金銀、織物など、新潟には豊富な資源があったことが分かった。 ・教科書に載らない新潟の歴史が分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、火焰土器が200年も続いたのか分からなかった。 ・中世頃の越後の様子があまりよく分からなかった。 ・「越の国」がなぜそう呼ばれたのか分からなかった。 ・全体的に難易度が高く、理解が大変であった。 <div data-bbox="943 757 1390 1115"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>15</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>非常に面白かった</td> <td>25</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td>あまり分からなかった</td> <td>3</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>1</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 43</p> </div>	理解度	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	15	35%	非常に面白かった	25	58%	あまり分からなかった	3	7%	わからなかった	1	2%	回答なし	0	0%
理解度	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	15	35%																	
非常に面白かった	25	58%																	
あまり分からなかった	3	7%																	
わからなかった	1	2%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の出身地について、知っておくことは良いことである。 ・土器は女性が作っていたことは、意外なことだった。 ・「越の国」の「越」が福井県地方を示していたことに感心した。 ・本物の金の見分け方が分かり、ためになった。 ・かつて新潟県は多くの藩に別れていたということが分かり、ためになった。 ・県民として、新潟県の成り立ちを知ることができ、ためになった。 ・新潟県立歴史博物館に行ってみたくなった。 ・新潟の歴史を知り、みんなにも伝えたくなった。 <div data-bbox="943 1261 1390 1619"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>役立ち度</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>17</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>非常に面白かった</td> <td>22</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>あまり役に立たなかった</td> <td>3</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>役に立たなかった</td> <td>1</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 43</p> </div>	役立ち度	回答数(人)	割合(%)	ためになった	17	39%	非常に面白かった	22	51%	あまり役に立たなかった	3	7%	役に立たなかった	1	2%	回答なし	0	0%
役立ち度	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	17	39%																	
非常に面白かった	22	51%																	
あまり役に立たなかった	3	7%																	
役に立たなかった	1	2%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC、プロジェクターの調子が良くなかったようだが、改善してほしい。 ・もう少し、部屋を暗くしてプロジェクターを投影してほしい。 ・パワーポイントのレジュメも配布してほしい。 ・もう少しユニークな面を見せてほしかった。 																		


<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅰ 2013年11月4日(月) 2限 226教室(松崎 陽子)</p>
<p>テーマ</p>	<p>小売業で働くということ</p>
<p>講師</p>	<p>アクシアルリテイリング株式会社 吉田 陽平 氏</p>
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 吉田氏のキャリアストーリー ● 原信での1日 ● 小売業を目指す人へのアドバイス <p>アンケート回答受講生数 49 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「わかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・小売業のやりがい、どんな人が業界に向いているか分かった。 ・入社前後では責任の大きさが変わってくる、自分の考えを相手に適切に伝えることができないと、時に大きな問題に繋がること分かった。 ・実際の資料などを見ることができ、売り場の裏側で何をしているかが分かった。 ● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・残業など、もう少しスケジュールについて聞きたかった。 <div style="text-align: right;">  <p>n = 49</p> </div>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が志望していない業界だが、自分では考えられない視点での話が聞いて今後の参考になった。 ・自分が抱えている職業イメージと実際の仕事では、かなり違いがあることが分かり参考になった。 ・企業説明会では一番前に座ろうと思う。 ・社会人の話はあまり聞く機会がないので、今回の講義はためになった。 <div style="text-align: right;">  <p>n = 49</p> </div>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は原信の話が多いように感じたので、小売業に関する話の割合を増やしてほしい。


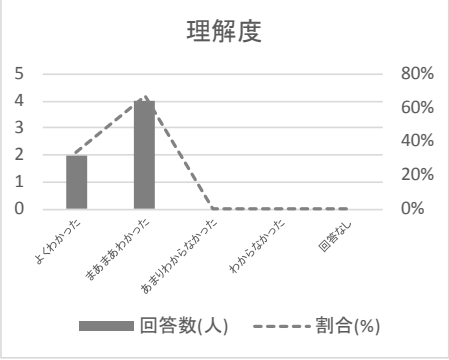
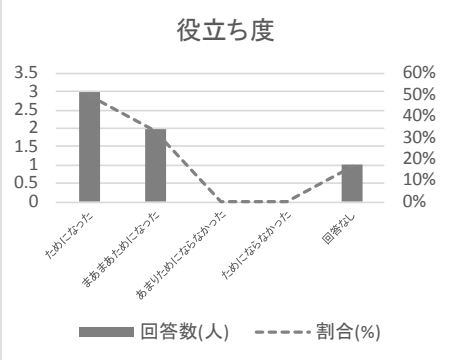
<p>科目</p>	<p>企業経営研究2 2013年11月5日(火) 2限 216教室(岡 俊明)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>スーパーマーケットに学ぶ変化への対応</p>																			
<p>講師</p>	<p>中小企業診断士中村公哉事務所 中村 公哉 氏</p>																			
<p>概要</p>	<p>スーパーマーケット業界を例に挙げ、事業環境の変化にどのように対応しているか講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 24 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業独自の単語を使っていることから、就活の際には言葉を調べて行くべきであることが分かった。 ・企業ごとの方針、営業方法の違いが分かった。 ・ブラック企業見分け方が分かった。 ・財務諸表からたくさんの方が見えてくること分かった。 ・スーパーマーケットの共通点分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模小売店舗立地法がよく理解できなかった。 ・ブラック企業とは何か、理解できなかった。 ・決算短信が理解できなかった。 <div data-bbox="938 757 1391 1160" style="float: right;"> <p>理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>7</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>14</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>2</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n= 24</p> </div>		回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	7	29.2%	まあまあわかった	14	58.3%	あまりわからなかった	2	8.3%	わからなかった	0	0%	回答なし	1	4.2%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	7	29.2%																		
まあまあわかった	14	58.3%																		
あまりわからなかった	2	8.3%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	1	4.2%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の経営方針を理解し、企業の求める人材でなければ、今はなかなか採用してもらえないことが分かった。 ・企業の売上げ・利益などの関係がよく渡ってきた。 ・就職活動の役に立ちそう。 ・自分の視野が広がった。 ・財務諸表の見方を学べ、大変役に立った。 <div data-bbox="938 1261 1391 1664" style="float: right;"> <p>役立ち度</p> <table border="1"> <caption>役立ち度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>13</td> <td>54.2%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>7</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>2</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>2</td> <td>8.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n= 24</p> </div>		回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	13	54.2%	まあまあためになった	7	29.2%	あまりためにならなかった	2	8.3%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	2	8.3%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	13	54.2%																		
まあまあためになった	7	29.2%																		
あまりためにならなかった	2	8.3%																		
ためにならなかった	0	0%																		
回答なし	2	8.3%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットのことだけでなく、様々な業界についての講義も聞いてみたい。 																			


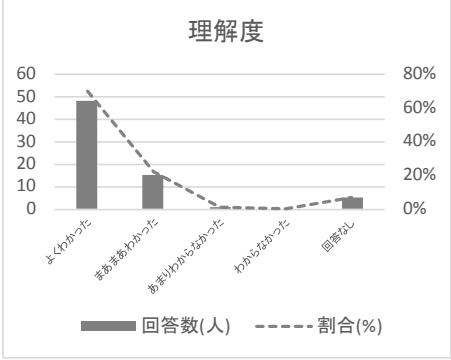
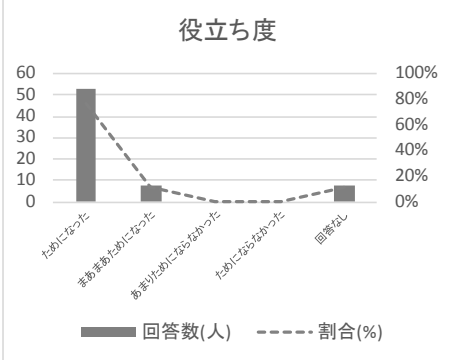
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅰ 2013年11月11日(月) 2限 226教室(松崎 陽子)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>証券会社の仕事</p>																			
<p>講師</p>	<p>丸福証券株式会社 笠原 成美 氏</p>																			
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 証券会社を志望した理由 ● 証券ウーマンの1日 ● 証券外務員資格の取得について <p>アンケート回答受講生数 67 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>● 「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人柄や信頼の重要性がよく分かった。 ・ 法令順守の大切さが分かった。 ・ 大学生の内からスキルを磨いておくことの大切さが分かった。 ・ 証券会社に勤務するにあたっては、証券外務員資格が必要であることが分かった。 <p>● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 笠原氏の今後の抱負を伺ってみたい。 	<p>理解度</p>  <table border="1"> <caption>理解度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>30</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>22</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>2</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>1</td> <td>1.5%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>10</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 67</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	30	45%	まあまあわかった	22	33%	あまりわからなかった	2	3%	わからなかった	1	1.5%	回答なし	10	15%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	30	45%																		
まあまあわかった	22	33%																		
あまりわからなかった	2	3%																		
わからなかった	1	1.5%																		
回答なし	10	15%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記を勉強しておこうと思った。 ・ 今後の就職を考えるにあたって、一つの選択肢になった。 ・ どんな仕事でも失敗は早い段階で経験した方が良いと分かりためになった。 ・ 金融業界は個人的にプラスイメージはなかったのだが、講義を受けて偏見はかなりなくなった。 ・ 講義を受けて、就職活動の業界選択が広がった。 ・ 大学の授業で何を受けておくと良いか、授業選択における参考になった。 ・ 金融会社について理解を深めることができた。 	<p>役立ち度</p>  <table border="1"> <caption>役立ち度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>32</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>18</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>5</td> <td>7.5%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>2</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>10</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 67</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	32	48%	まあまあためになった	18	27%	あまりためにならなかった	5	7.5%	ためにならなかった	2	3%	回答なし	10	15%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	32	48%																		
まあまあためになった	18	27%																		
あまりためにならなかった	5	7.5%																		
ためにならなかった	2	3%																		
回答なし	10	15%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																			


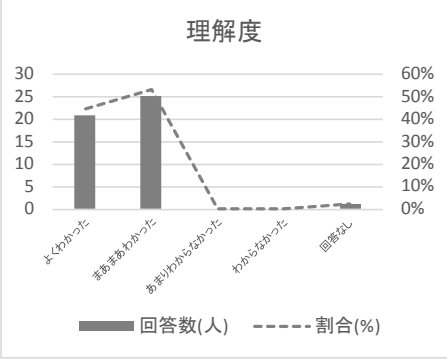
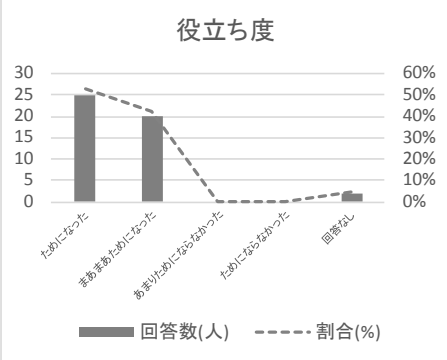
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅳ 2013年11月13日(水) 3限 215教室(岡 俊明)</p>	
<p>テーマ</p>	<p>コミュニケーションについて</p>	
<p>講師</p>	<p>株式会社テイクス 朝日 由香 氏</p>	
<p>概要</p>	<p>企業で必要とされるコミュニケーションとはどのようなものであるか学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 6 名</p>	
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。 ・企業でどのようなコミュニケーションをとればよいかということが分かった。 ・エゴグラムを活用し、自分がどのようなタイプの人であるか分かった。 ・自分の長所・短所が分かった。</p> <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p> <div data-bbox="938 757 1391 1160" style="text-align: right;"> <p>理解度</p>  <p>n = 6</p> </div>	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 ・自分の性格が客観的に分かり、ためになった。 ・開かれた質問の重要性が分かり、ためになった。 ・コミュニケーションにおける大切なポイントが分かり、ためになった。 ・自分が今後どのようなコミュニケーションをとれば良いか勉強になった。 ・エゴグラムによって自分の課題が分かり、ためになった。</p> <div data-bbox="938 1261 1391 1664" style="text-align: right;"> <p>役立ち度</p>  <p>n = 6</p> </div>	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>	


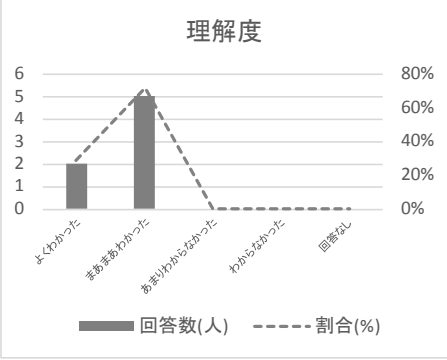
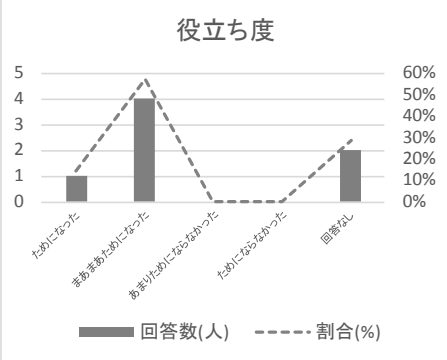
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅱ 2013年11月14日(木) 2限 225教室(松崎 陽子)</p>
<p>テーマ</p>	<p>新潟の就職状況</p>
<p>講師</p>	<p>新潟大学農学部キャリアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏</p>
<p>概要</p>	<p>新潟の就職状況について講義する。</p>  <p>アンケート回答受講生数 7 名</p>
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。 ・就職活動に必要な3つの要素が、自己分析、業界研究、筆記試験だということが分かった。 ・どのような自己PR、自己分析をしたらよいか分かった。</p>  <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。 ・業界と業種の違いが分からなかった。</p> <p style="text-align: right;">n = 7</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 ・情報収集元の具体例が聞いてためになった。 ・就職に向けてこれからできることについて考えを深めることができた。 ・企業研究、筆記試験のやり方が分かりためになった。</p>  <p style="text-align: right;">n = 7</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>

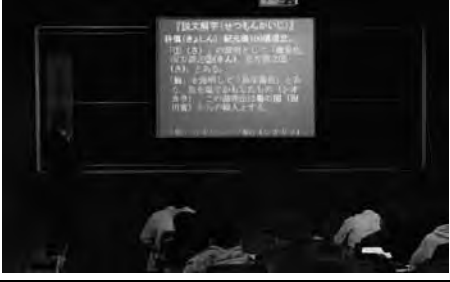
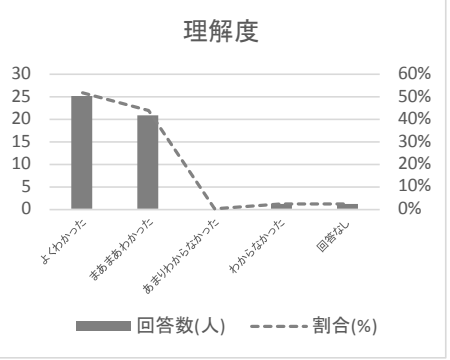
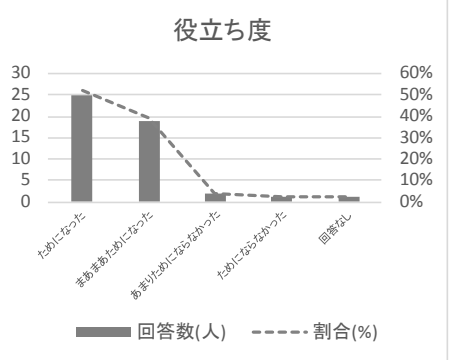
<p>科目</p>	<p>企業経営研究2 2013年11月19日(火) 2限 216教室(岡 俊明)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>スーパーマーケットに学ぶ変化への対応(財務編)</p>																			
<p>講師</p>	<p>中小企業診断士中村公哉事務所 中村 公哉 氏</p>																			
<p>概要</p>	<p>スーパーマーケット業界を例に挙げ、事業環境の変化にどのように対応しているか、財務面に着目して講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 21 名</p>																			
<p>アンケート(1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業を診る、様々な分析方法が分かった。 ・良い会社の基準が分かった。 ・財務分析の計算式について理解できた。 ・財務諸表の見方が分かった。 ・事例企業の両者の違いが分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己資本比率について理解できなかった。 <div data-bbox="938 757 1393 1160"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>10</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>10</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>1</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 21</p> </div>		回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	10	48%	まあまあわかった	10	48%	あまりわからなかった	1	5%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	10	48%																		
まあまあわかった	10	48%																		
あまりわからなかった	1	5%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		


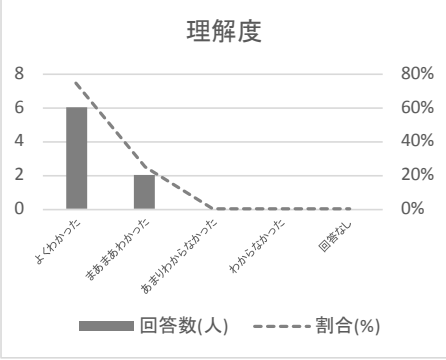
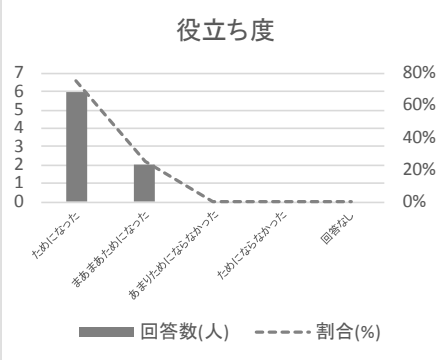
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅳ 2013年11月20日(水) 3限 215教室(岡 俊明)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>コンセンサスと人間関係づくり</p>																			
<p>講師</p>	<p>株式会社テイクス 朝日 由香 氏</p>																			
<p>概要</p>	<p>コンセンサス(同意)を得るための人間関係づくりについて学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 6 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセンサスを取ることは難しい一方、非常に大切であることが分かった。 ・他のメンバーとの考え方の違いが分かった。 ・他のメンバーの意見を比べながら考えることの重要性が分かった。 ・自分の意見、相手の意見をまとめることの大切さがよく分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>	<p style="text-align: center;">理解度</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>2</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>4</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n = 6</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	2	33.3%	まあまあわかった	4	66.7%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	2	33.3%																		
まあまあわかった	4	66.7%																		
あまりわからなかった	0	0%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークは様々な意見が聞けて、大変興味深く、ためになった。 ・意見の落としどころの見定めが難しく、いかに調整すべきか考えることができてためになった。 ・人間関係づくりにおける礼節、挨拶の重要性が分かり、ためになった。 	<p style="text-align: center;">役立ち度</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>3</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>2</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>1</td> <td>16.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n = 6</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	3	50%	まあまあためになった	2	33.3%	あまりためにならなかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	1	16.7%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	3	50%																		
まあまあためになった	2	33.3%																		
あまりためにならなかった	0	0%																		
ためにならなかった	0	0%																		
回答なし	1	16.7%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																			


科目	キャリア開発Ⅲ 2013年11月21日(木) 3限 241教室ほか(吉盛 一郎)
テーマ	就職に向けての面接実習1
講師	産業カウンセラー 大期 豊子 氏 他
概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 採用面接の基本について実習を行う。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> アンケート回答受講生数 69 名 </div> 
アンケート (1)	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「わかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・面接は見ているのと実際にやってみるとでは、全く違うということが分かった。 ・模擬面接を通じて、自分が早口であることに気づいた。 ・一つ一つ丁寧に正しい姿勢で動作を行うことが大切であると分かった。 ・面接での動作、言葉遣いが分かった。 ● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。 <div style="text-align: right;">  <p>n = 69</p> </div>
アンケート (2)	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・今回の模擬面接を通じて、大方の雰囲気がかためてためになった。今後も面接練習を続けてゆきたい。 ・面接練習を通じて、自分の直した方が良い点をしることができ、ためになった。 ・自分の苦手なところが分かり、他者の改善例も見ることができてためになった。 <div style="text-align: right;">  <p>n = 69</p> </div>
アンケート (3)	<p>【3】もっと知りたかったことなど、自由にご記入ください。</p>


<p>科目</p>	<p>長岡・新潟県を知る 2013年11月21日(木) 3限 217教室(松本 和明)</p>
<p>テーマ</p>	<p>長岡・新潟県の「食」</p>
<p>講師</p>	<p>新潟県立歴史博物館 野堀 正雄 氏</p>
<p>概要</p>	<p>長岡・新潟県の食のあり方、風土、ビジネスについて学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 47名</p> 
<p>アンケート(1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリが他ブランドに追いつかれつつあることが分かった。 ・コシヒカリブランドに頼り、ライバルを過小評価している現状を知った。 ・海外での販売・普及が進んでいることが分かった。 ・製菓企業は県内に多い一方、県内消費量が少ないことが分かった。 ・清酒の出荷額が減少しているという実態を知った。 ・県内にこれほど多くの酒蔵が存在するを知った。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>  <p>n = 47</p>
<p>アンケート(2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡野菜について知ることができた。 ・おいしいだけでは売れない現状を知ることができた。 ・食用菊は全国共通の食文化でないことに驚いた。 ・清酒を好むのは30代以上の人が多い点が興味深かった。 ・酒造会社一覧が参考になった。自分も飲んでみたい。 ・新潟の課題点の明確な解説がためになった。 ・長岡がどのように特色を出そうとしているか理解でき、ためになった。 ・新潟でも日本一が取れることに感心した。 ・コシヒカリの抱える課題が分かりためになった。  <p>n = 47</p>
<p>アンケート(3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し部屋を暗くして、スライド投影をしてほしい。 ・できるだけレジュメの順に解説してほしい。 ・スライドもレジュメとして配ってほしい。


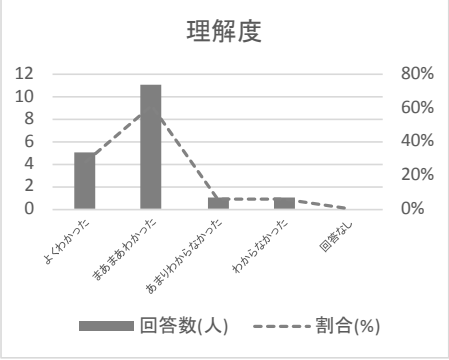
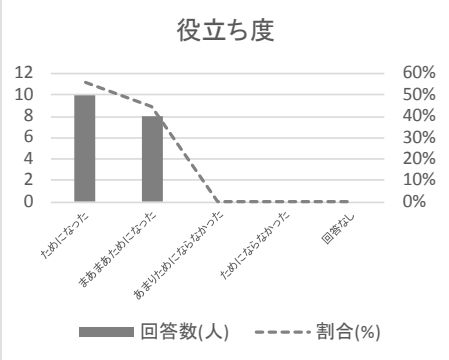
科目	キャリア開発Ⅳ 2013年11月27日(水) 3限 215教室(岡 俊明)
テーマ	チームワークを考える
講師	株式会社テイクス 朝日 由香 氏
概要	<p>企業におけるチームワークとはどのようなものが学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 7 名</p> 
アンケート (1)	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と計画の立案がいかに大切か分かった。 ・組織で動くにあたっては、一人で抱え込まずに上司に相談することの重要性が分かった。 ・仕事のスケジュールをしっかりとしておくために、優先順位を明確にしておくべきであることが分かった。 ・仕事でミスをした際、どのように対処すべきか分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>  <p style="text-align: right;">n = 7</p>
アンケート (2)	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客は自分の顧客でなく、「会社の顧客」であることが理解でき、ためになった。 ・会社全体を考えることの重要性が分かり、ためになった。 ・製造業にとって時間が重要であり、厳重なスケジュールが大切であることが分かり、ためになった。 ・信頼されることの重要性を理解できた。 ・計画立案はすぐにできると、自分を過信している部分があったが、欠けている点を確認できて、ためになった。 ・ケーススタディの主人公の葛藤が、自分に重なる点があり、参考になった。  <p style="text-align: right;">n = 7</p>
アンケート (3)	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>


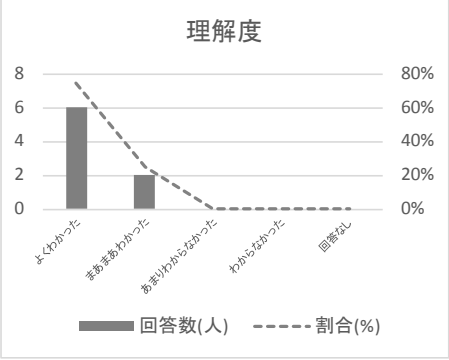
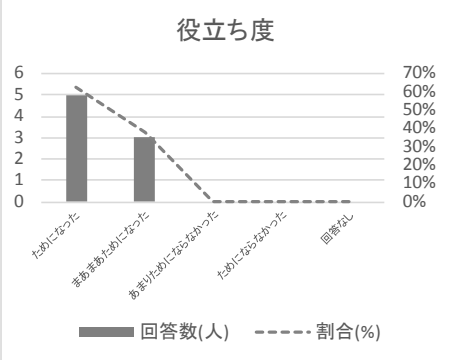
科目	長岡・新潟県を知る 2013年11月28日(木) 3限 217教室(松本 和明)
テーマ	“すし”の文化誌
講師	新潟県立歴史博物館 野堀 正雄 氏
概要	<p>寿司の諸側面の文化・民俗誌的考察を行う。</p> <p>アンケート回答受講生数 48名</p> 
アンケート (1)	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各都道府県のご当地食材を使用した寿司がたくさんあることが分かった。 米を食べない寿司があることが分かった。 東南アジア生まれの寿司が中国を経て日本に伝来し、その後独自の発展をして日本食になった経緯が分かった。 新潟県にも様々な寿司があることが分かった。 スシという感じがたくさんあることが分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の寿司がどのようなものか知りたかった。 いつ頃から寿司が流行したのか知りたかった。 「ちらし寿司」や「助六寿司」の始まりも聞いてみたい。 <div style="text-align: right;">  <p>n = 48</p> </div>
アンケート (2)	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漬物も寿司の仲間であること。 自分の地域の食文化を見直すきっかけになった。 地域ごとに様々な寿司があり、長い歴史の中で多様な変化をとげていることが分かった。 米と魚の組み合わせだけが寿司ではないということが知れてためになった。 寿司のルーツが日本ではないことが分かったためになった。 寿司が思っているよりも昔からあったことを知れたこと。 <div style="text-align: right;">  <p>n = 48</p> </div>
アンケート (3)	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>


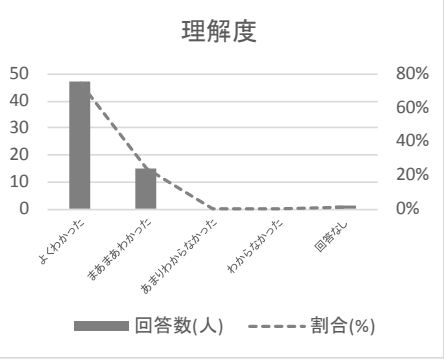
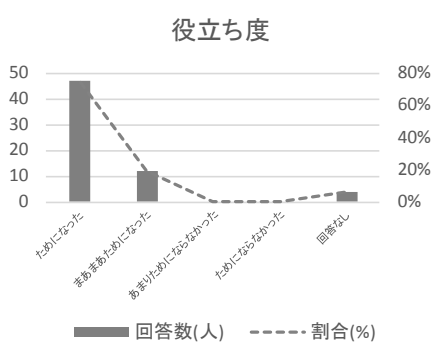
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅱ 2013年11月28日(木) 2限 225教室(松崎 陽子)</p>
<p>テーマ</p>	<p>効果的な自己表現Ⅰ</p>
<p>講師</p>	<p>ビジネスマナー講師 渋谷 千恵子 氏</p>
<p>概要</p>	<p>(「効果的な自己表現Ⅱ」と2コマに渡り講義) ・滑舌を良くする ・面接で問われるものは? ・社会に出てから必要となるマナー ・敬語の知識 ・お辞儀の仕方、入退出のマナー他</p> <p>アンケート回答受講生数 8 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お辞儀の仕方、滑舌の改善方法がよく分かった。 ・自分の第一印象はどのようなものか、早めに知っておくことの重要性が分かった。 ・口の形で声の出方が随分変わること気づかされた。 ・敬語の使い分けがよく分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>  <p style="text-align: right;">n = 8</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声練習を普段学んだことがないだけに、やり方がわかって良かった。良かった。 ・礼の種類(角度)や発生方法がためになった。 ・様々な場所での言葉遣い、対応の仕方がためになった。 ・発生方法と正しい姿勢について、大変ためになった。  <p style="text-align: right;">n = 8</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思っておりますか。</p>


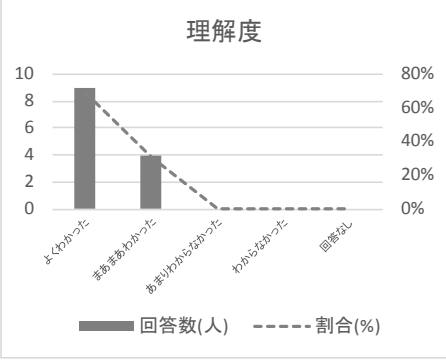
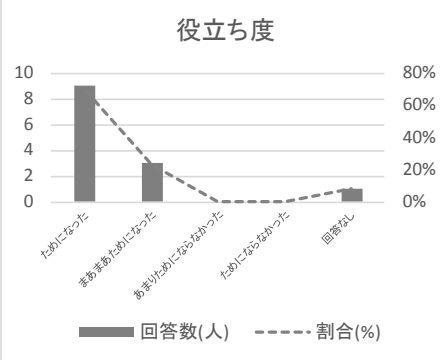
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅲ 2013年11月28日(木) 3限 241教室ほか(吉盛 一郎)</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>就職に向けての面接実習2</p>																		
<p>講師</p>	<p>ウインズ・ビジネスアカデミー代表 宮原 晋策 氏 他</p>																		
<p>概要</p>	<p>● 採用面接の自己アピールについて実習を行う。</p> <p>アンケート回答受講生数 58 名</p> 																		
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>● 「わかった」点は?具体的に記入してください。 ・面接を通して、もう少しゆっくりと話したほうがよいことが分かった。 ・自分では気づかない点を周囲が指摘してくれたので、改善点がよく分かった。 ・グループ面接の一通りの流れが分かった。</p> <p>● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p> <div data-bbox="946 757 1396 1160"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度 (n=58)</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>45</td> <td>77.8%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>10</td> <td>17.2%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>2</td> <td>3.4%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>1</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	45	77.8%	まあまあわかった	10	17.2%	あまりわからなかった	2	3.4%	わからなかった	1	1.7%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	45	77.8%																	
まあまあわかった	10	17.2%																	
あまりわからなかった	2	3.4%																	
わからなかった	1	1.7%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 ・他人のエピソードが参考になった。 ・周りの人に見られながら面接練習する機会は多くないので、自分の苦手なところや他の人の動作を参考することができ、ためになった。 ・面接の緊張を味わうことができてためになった。 ・予測していない質問をされると、頭が真っ白になる経験をした。</p> <div data-bbox="946 1261 1396 1664"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p> <table border="1"> <caption>役立ち度 (n=58)</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>52</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>5</td> <td>8.6%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>1</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	52	90%	まあまあためになった	5	8.6%	あまりためにならなかった	1	1.7%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	52	90%																	
まあまあためになった	5	8.6%																	
あまりためにならなかった	1	1.7%																	
ためにならなかった	0	0%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 もっと知りたかったことなど、自由にご記入ください。 ・だいたい、面接ではどれくらい話せばよいのか、もう少し知りたかった。</p>																		


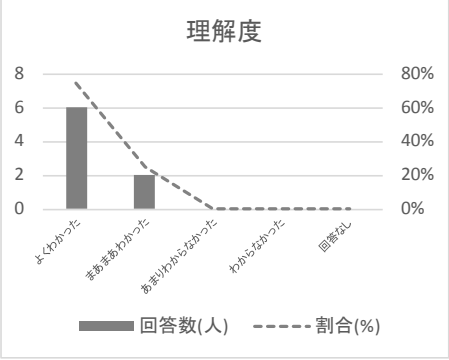
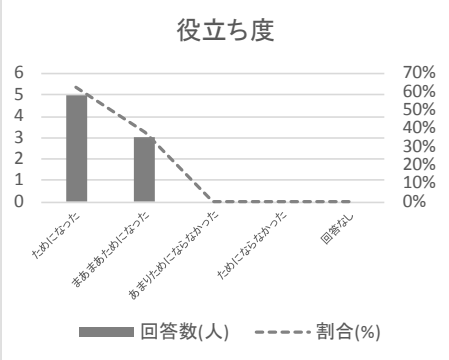
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅰ 2013年12月2日(月) 2限 226教室(松崎 陽子)</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>企業で働くということ(営業の仕事)</p>																		
<p>講師</p>	<p>新潟大学農学部キャリアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏</p>																		
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業の仕事について ● 古俣氏のキャリアヒストリー(ソニー時代) ● 新潟県の就職について <p>アンケート回答受講生数 51 名</p> 																		
<p>アンケート(1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「わかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに気持ちを切り替えること、失敗を引きずらないことが営業の素養として大切だと分かった。 ・営業はつらいことばかりでなく、顧客をサポートすることで感謝されることも多いことが分かった。 ・営業の仕事とは、顧客がメリット・利益を得られるようにサポートすることだと分かった。 ● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。 <div style="text-align: right;"> <p>理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>27</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>18</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>3</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>1</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 51</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	27	53%	まあまあわかった	18	35%	あまりわからなかった	3	6%	わからなかった	1	2%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	27	53%																	
まあまあわかった	18	35%																	
あまりわからなかった	3	6%																	
わからなかった	1	2%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート(2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が何を軸にして働きたいか考える時間を与えてもらい、それを再確認させてもらえた。 ・自分が営業職に持っていたイメージは、現実と大きく異なっていたことが分かり、ためになった。 ・自分はもしかしたら営業職に向いているかもしれないと思わせてくれた。 <div style="text-align: right;"> <p>役立ち度</p> <table border="1"> <caption>役立ち度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>30</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>12</td> <td>24%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>5</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>1</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 51</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	30	59%	まあまあためになった	12	24%	あまりためにならなかった	5	10%	ためにならなかった	1	2%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	30	59%																	
まあまあためになった	12	24%																	
あまりためにならなかった	5	10%																	
ためにならなかった	1	2%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート(3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークをする際には、席をランダムに指定しておいた方がよい。友人としか話さない人がいると話し合いにならないと思うので。 ・もう少しゆっくりとスライドを送ってほしい。 																		


<p>科目</p>	<p>企業経営研究2 2013年12月3日(火) 2限 216教室(岡 俊明)</p>
<p>テーマ</p>	<p>飲食業界の財務諸表</p>
<p>講師</p>	<p>中小企業診断士中村公哉事務所 中村 公哉 氏</p>
<p>概要</p>	<p>飲食業界を題材に、財務諸表について学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 18 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業は外からみただけでは分からないことも多いと知った。 ・連結損益計算書の見方が分かった。 ・事例企業2社を比較して、各社の取り組みが分かった。 ・具体的な計算方法はもちろん、そこから何が読み取れるか理解できた。 ・企業がどのように資金をやり繰りしているか分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p>  <p style="text-align: right;">n= 18</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動時の企業の見方が分かってためになった。 ・自分のアルバイト先が事例企業として挙がっていて、詳しく知ることができてよかった。  <p style="text-align: right;">n= 18</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勘定科目が分かりづらく、もう少しゆっくりと説明して欲しかった。


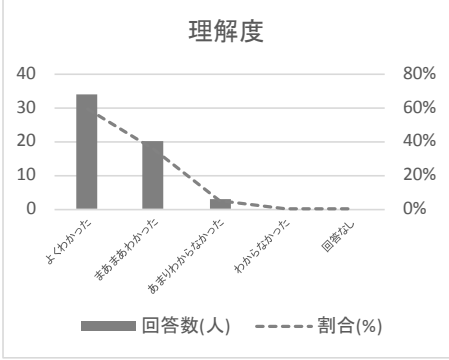
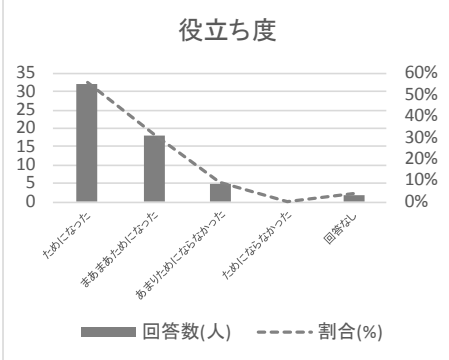
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅱ 2013年12月5日(木) 2限 225教室(松崎 陽子)</p>
<p>テーマ</p>	<p>効果的な自己表現Ⅱ</p>
<p>講師</p>	<p>ビジネスマナー講師 渋谷 千恵子 氏</p>
<p>概要</p>	<p>(「効果的な自己表現Ⅰ」と2コマに渡り講義) ・滑舌を良くする ・面接で問われるものは? ・社会に出てから必要となるマナー ・敬語の知識 ・お辞儀の仕方、入退出のマナー他</p> <p>アンケート回答受講生数 8 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹式呼吸を意識するとよいことが分かった。 ・面接時の作法、話し方が分かった。 ・口を大きく開けることで、よい発声になることが分かった。 ・滑舌の改善方法が分かった。 ・胸式呼吸と腹式呼吸では声の出方が全く異なることが分かった。 ・お辞儀の角度、敬語の使い方などが分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>  <p style="text-align: right;">n = 8</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に1対1で話をする際、プレッシャーでいつもできる事ができなくなるという体験がためになった。 ・実際に面接をして、自分の改善点を発見できた。 ・自分中心の世界にならないように注意しようと思った。 ・個人面接の作法、表情の出し方がためになった。  <p style="text-align: right;">n = 8</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>


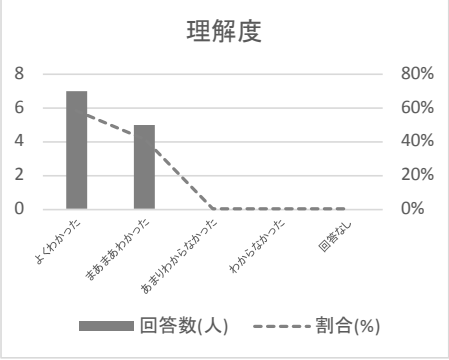
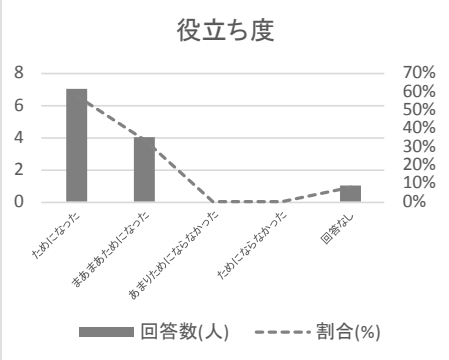
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅲ 2013年12月5日(木) 3限 241教室ほか(吉盛 一郎)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>就職に向けての面接実習3</p>																			
<p>講師</p>	<p>ウインズ・ビジネスアカデミー代表 宮原 晋策 氏 他</p>																			
<p>概要</p>	<p>● 採用面接のグループワークについて実習を行う。</p> <p>アンケート回答受講生数 63 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>● 「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を理解することの大切さが分かった。 ・企業が求めるコミュニケーション能力の高い人とは何か分かった。 ・意見を言わないとグループの議論が活性化せず、ディスカッションにならないことが分かった。 ・気の合わない人とも話せることがコミュニケーション能力の高さであると分かった。 <p>● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>	<p>理解度</p>  <table border="1"> <caption>理解度 (n=63)</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>45</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>15</td> <td>23.8%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>2</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>1</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n= 63</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	45	71.4%	まあまあわかった	15	23.8%	あまりわからなかった	2	3.2%	わからなかった	1	1.6%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	45	71.4%																		
まあまあわかった	15	23.8%																		
あまりわからなかった	2	3.2%																		
わからなかった	1	1.6%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換をする中で、それぞれの個性が出ていて面白かった。 ・決められた時間の中でいかにスムーズにディスカッションを進め、まとめられるかが大事であると実感した。 ・他のチームの人の発表の仕方などを見て、参考になった。 ・自分が大切だと思っていることとは違う意見を聞いて、ためになった。 ・自分だけでは気づかないことが見えてきて、ためになった。 	<p>役立ち度</p>  <table border="1"> <caption>役立ち度 (n=63)</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>45</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>15</td> <td>23.8%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>2</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>1</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n= 63</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	45	71.4%	まあまあためになった	15	23.8%	あまりためにならなかった	2	3.2%	ためにならなかった	1	1.6%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	45	71.4%																		
まあまあためになった	15	23.8%																		
あまりためにならなかった	2	3.2%																		
ためにならなかった	1	1.6%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 もっと知りたかったことなど、自由にご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表が上手くなるにはどのようにすればよいか知りたい。 ・自分の話の引き出しを増やしたい。 																			


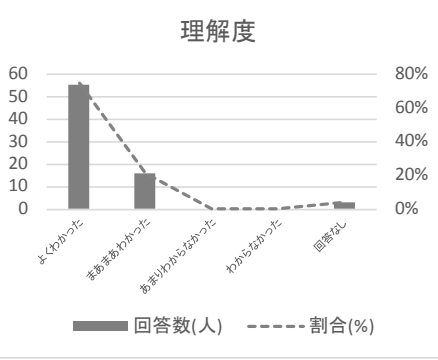
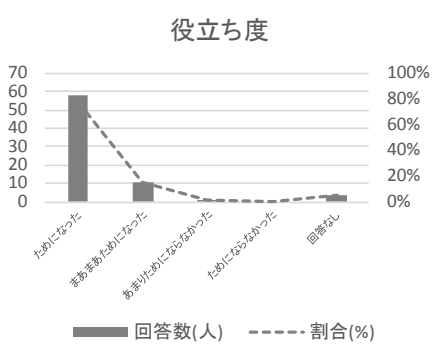
<p>科目</p>	<p>マーケティング2 2013年12月11日(水) 2限 251教室(岡 俊明)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>マーケットリサーチの概論</p>																			
<p>講師</p>	<p>株式会社MCHマーケティングコンセプトハウス プロジェクトリーダー 鈴木章雄 氏</p>																			
<p>概要</p>	<p>マーケットリサーチの概論について解説。</p> <p>アンケート回答受講生数 13 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売することの難しさを認識できた。 ・アンケートの実施方法が分かった。 ・コンセプトが明確でないと、相手に商品の良さを伝える際に上手くいかないことが分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>	<p style="text-align: center;">理解度</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>理解度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>8</td> <td>61.5%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>4</td> <td>30.8%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>1</td> <td>7.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 13</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	8	61.5%	まあまあわかった	4	30.8%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	1	7.7%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	8	61.5%																		
まあまあわかった	4	30.8%																		
あまりわからなかった	0	0%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	1	7.7%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発に携わりたいと思った。 ・調査には様々な種類があり、それぞれに長所と短所があることが分かり、ためになった。 ・市場調査は大変なことであるが、商品が売れるために必要不可欠であるということを知れてためになった。 ・定量調査の具体的な方法が知れてためになった。 ・具体的な調査事項が分かりためになった。 	<p style="text-align: center;">役立ち度</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>役立ち度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>8</td> <td>61.5%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>3</td> <td>23.1%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>2</td> <td>15.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 13</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	8	61.5%	まあまあためになった	3	23.1%	あまりためにならなかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	2	15.4%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	8	61.5%																		
まあまあためになった	3	23.1%																		
あまりためにならなかった	0	0%																		
ためにならなかった	0	0%																		
回答なし	2	15.4%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																			


<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅱ 2013年12月12日(木) 2限 225教室(松崎 陽子)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>面接のコツとグループ面接実践</p>																			
<p>講師</p>	<p>新潟大学農学部キャリアジム運営センター コーディネーター 古俣 清勝 氏</p>																			
<p>概要</p>	<p>面接の臨む心構えと、主に問われること答え方のコツなどの講義の後、実際に模擬グループ面接を実施。</p> <p>アンケート回答受講生数 8 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接時の正しい言動、自己PRの方法が分かった。 ・面接時の自分の課題点が分かった。 ・話したいことが話せる以上に、見た目が大切であることが分かった。 ・面接官がどのように被面接者を見ているか分かった。 ・面接の流れが分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>	<p>理解度</p>  <table border="1"> <caption>理解度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>6</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>2</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 8</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	6	75%	まあまあわかった	2	25%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	6	75%																		
まあまあわかった	2	25%																		
あまりわからなかった	0	0%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接を実際に体験できてためになった。 ・就活への一歩として、実際に練習できてよかった。 ・緊張したときの自分の弱みに気づくことができた。 ・面接における正しい姿勢、質問の仕方についてためになった。 ・見た目の重要性を認識できた。 ・視線の置き所が分かりためになった。 	<p>役立ち度</p>  <table border="1"> <caption>役立ち度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>5</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>3</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 8</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	5	62.5%	まあまあためになった	3	37.5%	あまりためにならなかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	5	62.5%																		
まあまあためになった	3	37.5%																		
あまりためにならなかった	0	0%																		
ためにならなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																			


<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅲ 2013年12月12日(木) 3限 226教室(吉盛 一郎)</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>企業選択・企業研究について</p>																		
<p>講師</p>	<p>株式会社ファイブズ 取締役社長 木津 広美 氏</p>																		
<p>概要</p>	<p>就職活動のスタートにあたり、企業選択の視点、企業研究の方法について講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 68 名</p> 																		
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとは、目的ではなく手段であること、他者と共生する能力であることが分かった。 ・インターンシップの意義を理解できた。 ・就職活動ではプランが大切になってくることが分かった。 ・自分がどのように企業を選び、エントリーして行けばいいのかが分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の定義は難しいと感じた。 <div data-bbox="941 757 1391 1115"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>40</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>多少理解がわかった</td> <td>22</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>6</td> <td>9%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 68</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	40	59%	多少理解がわかった	22	32%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	6	9%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	40	59%																	
多少理解がわかった	22	32%																	
あまりわからなかった	0	0%																	
わからなかった	0	0%																	
回答なし	6	9%																	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力は、今まで「話し上手」「聞き上手」だと思っていたが、今回の講義で「雑談力」など多くの見方があることを聞いて良かった。 ・これからの企業選択において、どのような要素で選べばよいか基準がよく分かりためになった。 ・営業の商品は「人」とであると分かりためになった。 ・就職活動はパンフレットや担当者の話ばかりでなく、OBやOGなどから真実を聞き出すことの大切さが分かり、ためになった。 ・自分の生活を直すことも就職活動の一歩であると思った。 <div data-bbox="941 1261 1391 1619"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p> <table border="1"> <caption>役立ち度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>50</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>多少役立ちためになった</td> <td>18</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>あまり役にたつてなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>役にたつてなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>10</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 68</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	50	74%	多少役立ちためになった	18	26%	あまり役にたつてなかった	0	0%	役にたつてなかった	0	0%	回答なし	10	15%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	50	74%																	
多少役立ちためになった	18	26%																	
あまり役にたつてなかった	0	0%																	
役にたつてなかった	0	0%																	
回答なし	10	15%																	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																		


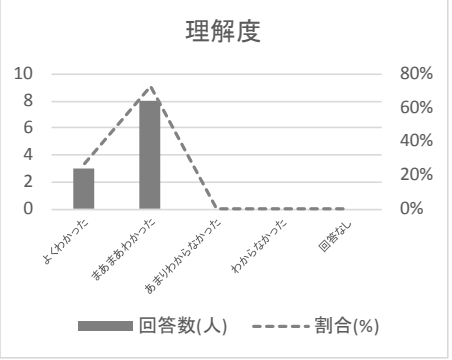
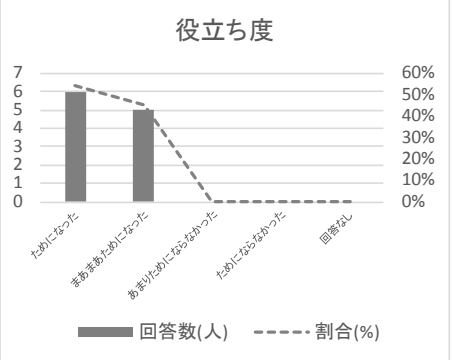
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅰ 2013年12月16日(月) 2限 226教室(松崎 陽子)</p>
<p>テーマ</p>	<p>フリーで働くということ(アナウンサーの仕事)</p>
<p>講師</p>	<p>ビジネスマナー講師 渋谷 千恵子 氏</p>
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アナウンサーの仕事 ● 渋谷さんのキャリアストーリー ● フリーの仕事が向いているのはどんな人? <p>アンケート回答受講生数 57 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「わかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・「フリー」と付くわりに自由ではないことが分かった。 ・人付き合いが仕事を得るための大要素であることが分かった。 ・仕事をいかに好きになれるかが大事だと分かった。 ・芸能色の強い業界は非常にシビアであることが分かった。 ・コンプレックスは強い武器になることが分かった。 ・華やかな仕事に見えるが、裏では大変なことが沢山あることが分かった。 ● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・理不尽なクレームを出す人の考え。 ・自分の志向性にあう内容でなく、話を飲み込みきれなかった。  <p style="text-align: right;">n = 57</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・普段接することのないアナウンサーについて知ることができ、ためになった。 ・声を安定して出すコツは今後の面接に使える。 ・特殊な業界の話題であったので、よい勉強になった。 ・「この仕事に就きたい」と思えるのは、いつなのか分かるものでないということを知った。 ・色々なことをすることで、そこから可能性が広がるということを知った。 ・就活にも役立つことが多くあり、参考にしたい。 ・あまり知らない仕事を知れて、とても貴重な話だった。 ・自分の仕事が好きでなければ、続かないし努力できない。 ・自分は声優志望だが、仕事の内容や適性について理解できた。  <p style="text-align: right;">n = 57</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターと話の内容がずれていた。 ・スライドに掲載している項目を話してほしい。 ・個人的に話が前後し過ぎかと思った。


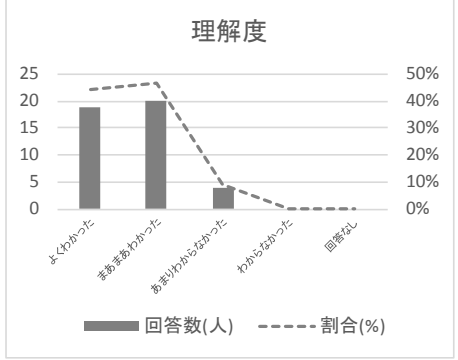
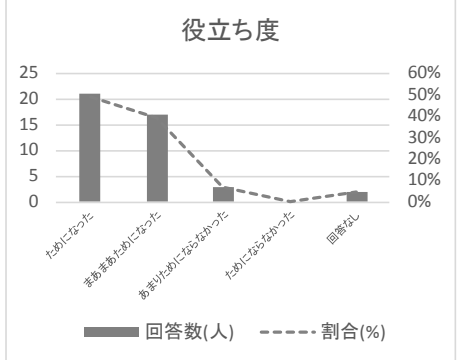
<p>科目</p>	<p>マーケティング2 2013年12月18日(水) 2限 251教室(岡 俊明)</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>マーケットリサーチと調査設計</p>																		
<p>講師</p>	<p>株式会社MCHマーケティングコンセプトハウス プロジェクトリーダー 鈴木章雄 氏</p>																		
<p>概要</p>	<p>マーケットリサーチの調査設計方法について解説。</p>  <p>アンケート回答受講生数 12 名</p>																		
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品サンプルのアンケートの実施方法が分かった。 ・アンケートの具体的なやり方が分かった。 ・比較することの重要性が分かった。 ・数値化する重要性が分かった。 <p>●「わからなかった」点は?具体的に記入してください。</p>  <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>7</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>5</td> <td>41.7%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n= 12</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	7	58.3%	まあまあわかった	5	41.7%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	7	58.3%																	
まあまあわかった	5	41.7%																	
あまりわからなかった	0	0%																	
わからなかった	0	0%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは?具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に調査デモをやり、自分にとってプラスの経験となった。 ・実際に調査を経験できて良かった。 ・各社ポテトチップスの明確な違いが分かりためになった。  <table border="1"> <caption>役立ち度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>7</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>4</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>1</td> <td>8.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n= 12</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	7	58.3%	まあまあためになった	4	33.3%	あまりためにならなかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	1	8.3%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	7	58.3%																	
まあまあためになった	4	33.3%																	
あまりためにならなかった	0	0%																	
ためにならなかった	0	0%																	
回答なし	1	8.3%																	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																		

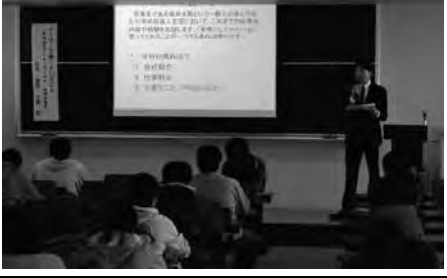
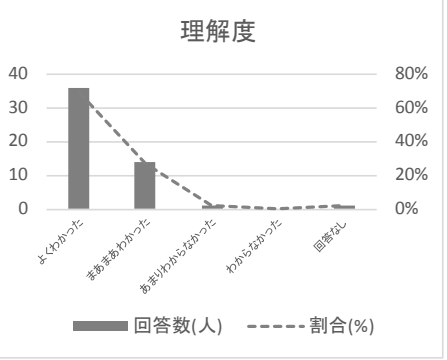
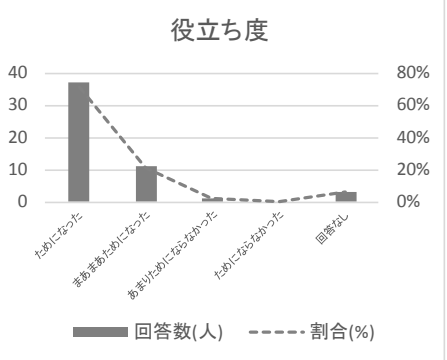
<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅲ 2013年12月19日(木) 3限 226教室(吉盛 一郎)</p>	
<p>テーマ</p>	<p>就勝出發式</p>	
<p>講師</p>	<p>株式会社ファインズ 代表取締役 木津 広美 氏</p>	
<p>概要</p>	<p>就職活動に向かうにあたって、就職活動の基本を学ぶと共に、本学3年生と教職員一同が一丸となって就職戦線に臨むための決起の場として開催する。</p> <p>アンケート回答受講生数 74 名</p>	
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことは質問をし、自分の目で確かめることの大切さが分かった。 ・大手企業は変化を求め人を欲していることが分かった。 ・見た目の重要性について理解できた。 ・面接の最初数分が合否を分けることが分かった。 ・週活を本気で意識するようになれば、情報を集め企業研究をよくするようになると実感した。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p>	<p>理解度</p>  <p>n = 74</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が働きたい会社は自分の頭や足を使って情報を入手しようと思う。 ・「がんばる」とは「一定期間内に最善を尽くすこと」だと分かりためになった。 ・出發式をすることにより、気持ちが高まった。 ・やりたいことが曖昧であるので、自分が何をやりたいか考えて行きたい。 ・失敗した理由やそこから学んだことなども、就職活動では活かして行けることが分かりためになった。 ・就勝出發式を機に、どんどん活動のスピードを上げて行きたいと思った。 ・問題解決力とは、先の見えない状況や正解のない問題に対して様々な事実と情報から自分ならばどうするかという答えを見つけたことであると分かりためになった。 	<p>役立ち度</p>  <p>n = 74</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>	


<p>科目</p>	<p>長岡・新潟県を知る 2013年12月19日(木) 3限 217教室(松本 和明)</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>新聞メディアからみた新潟県の現状と今後</p>																		
<p>講師</p>	<p>株式会社新潟日報社 横山 志保 氏</p>																		
<p>概要</p>	<p>15年に亘り県内外を取材し続けている経験を踏まえ新潟県の現状を分析するとともに、今後のありがたを展望する。</p> <p>アンケート回答受講生数 40 名</p> 																		
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線ができたときに新潟県が受ける影響について分かった。 ・「新潟県」という1つのテーマを見ても、様々な視点からアプローチできる事がわかった。 ・新潟各地の特徴や気質が分かった。 ・新潟は新幹線が通って便利である一方、観光地としては未熟であることが分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性が働くことについて、もう少し知りたかった。 ・どんなライフスタイルか、聞いてみたかった。 <div data-bbox="938 757 1394 1115"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>28</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>10</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>2</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 40</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	28	70%	まあまあわかった	10	25%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	2	5%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	28	70%																	
まあまあわかった	10	25%																	
あまりわからなかった	0	0%																	
わからなかった	0	0%																	
回答なし	2	5%																	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県が生き残ってゆくためには、個々の意識改革が必要なのだと感じた。 ・新聞社の視点が分かり、新聞をより深く理解することができた。 ・新聞1部が新書1冊とほぼ同じだけの文字量があること。 ・新聞、ニュースはその日のうちに見ないと意味がないこと、1日、2日見ただけで分かるものでなく、習慣にすべきことを実感した。 ・想像をより膨らませることは、社会に出てとても大切になることが分かり、ためになった。 ・2015年は転機の年になると思った。新潟・長岡について、もっと考えようと思った。 <div data-bbox="938 1261 1394 1619"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p> <table border="1"> <caption>役立ち度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>27</td> <td>67.5%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>10</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>3</td> <td>7.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n= 40</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	27	67.5%	まあまあためになった	10	25%	あまりためにならなかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	3	7.5%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	27	67.5%																	
まあまあためになった	10	25%																	
あまりためにならなかった	0	0%																	
ためにならなかった	0	0%																	
回答なし	3	7.5%																	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の予告とゲストの話をもう少し統一させた方がよい。 																		


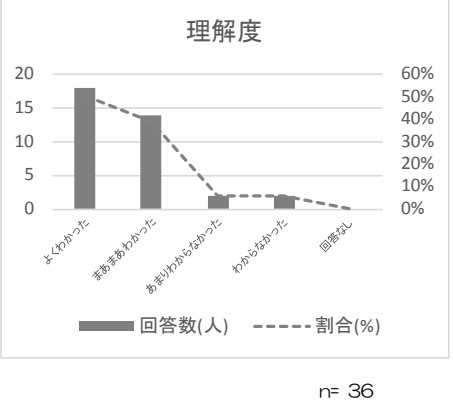
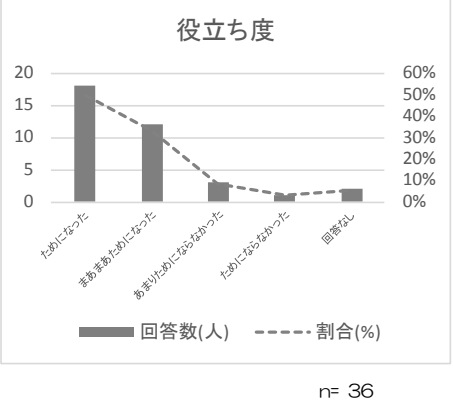
<p>科目</p>	<p>地方行政 2013年12月24日（火） 1限 225教室（内藤 敏樹）</p>																		
<p>テーマ</p>	<p>自治体における行財政改革</p>																		
<p>講師</p>	<p>長岡市行政管理課 課長補佐 桜井 秀行 氏</p>																		
<p>概要</p>	<p>自治体における行財政改革について講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 8名</p> 																		
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少の進行と新しい地方自治のあり方、市民協働とその例について分かった。 ・長岡市が高速道路の充実が強みであると考えていることが分かった。 ・長岡市は子育てをしている夫婦に対して、手厚い支援をしていることが分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公私二分論について、理解ができなかった。 ・中心地以外の地域とその地域の今後について、もっと知りたかった。 <div data-bbox="943 757 1396 1160"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <table border="1"> <caption>理解度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>2</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>6</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n = 8</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	2	25%	まあまあわかった	6	75%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
よくわかった	2	25%																	
まあまあわかった	6	75%																	
あまりわからなかった	0	0%																	
わからなかった	0	0%																	
回答なし	0	0%																	
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働が少しずつ進んでいることについて、今後も注目して行こうと思う。 ・長岡に住んでいても自分で知ろうとしないと、長岡のことは知れないのだと気づきました。 ・長岡地域における地方団体やNPO等の地域活性化の取り組みについて学ぶことができ、ためになった。 <div data-bbox="943 1261 1396 1664"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p> <table border="1"> <caption>役立ち度</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>2</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>5</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならないかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>1</td> <td>12.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n = 8</p> </div>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	2	25%	まあまあためになった	5	62.5%	あまりためにならないかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	1	12.5%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																	
ためになった	2	25%																	
まあまあためになった	5	62.5%																	
あまりためにならないかった	0	0%																	
ためにならなかった	0	0%																	
回答なし	1	12.5%																	
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できればプロジェクターを用いて講義してほしかった。 																		


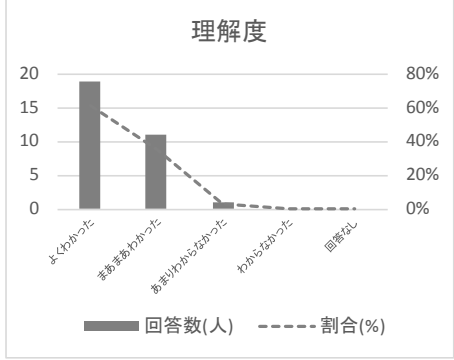
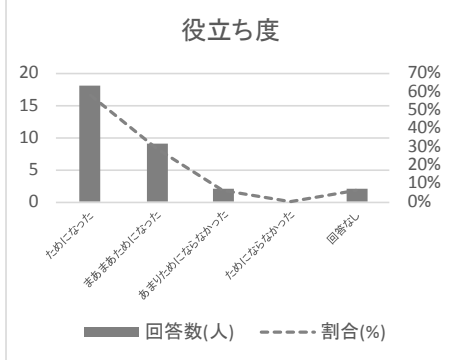
<p>科目</p>	<p>地方行政 2014年1月7日（火） 1限 225教室（内藤 敏樹）</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>長岡市の市町村合併</p>																			
<p>講師</p>	<p>長岡市地域振興戦略部 総括副主幹 佐山 靖和 氏</p>																			
<p>概要</p>	<p>長岡市の市町村合併について講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 11 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政は市民の気持ちを第一に、一生懸命働いていることが分かった。 ・長岡市の合併の経緯、特に栃尾、寺泊などの周辺事情まで詳しく分かった。 ・合併＝吸収というイメージが強かったが、必ずしも吸い取られるイメージではないことが分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併するときの旧長岡市の声や意見をもっと知りたかった。 	<p>理解度</p>  <table border="1"> <caption>理解度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>3</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>8</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 11</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	3	27%	まあまあわかった	8	73%	あまりわからなかった	0	0%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	3	27%																		
まあまあわかった	8	73%																		
あまりわからなかった	0	0%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村合併をあまり知らずに暮らしてきたので、その仕組みを知れてよかった。 ・長岡市の合併の経緯、合併手順などニュースだけでは知らないことが分かりためになった。 	<p>役立ち度</p>  <table border="1"> <caption>役立ち度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>6</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>5</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 11</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	6	55%	まあまあためになった	5	45%	あまりためにならなかった	0	0%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	6	55%																		
まあまあためになった	5	45%																		
あまりためにならなかった	0	0%																		
ためにならなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>																			

<p>科目</p>	<p>長岡・新潟県を知る 2014年1月9日(木) 3限 217教室(松本 和明)</p>
<p>テーマ</p>	<p>新潟県議会の役割と今後のあり方</p>
<p>講師</p>	<p>新潟県議会議員 大淵 健 氏</p>
<p>概要</p>	<p>新潟県議会議員としての活動を踏まえ、議会のあり方および新潟県の方向性について講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 43 名</p> 
<p>アンケート(1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟県県政・県議会3択クイズで、議会・行政の理解ができた。 予算は知事が作成・提案し、議会が決議することが分かった。 議会が県政において、どのような動きをしているか分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p>  <p style="text-align: right;">n = 43</p>
<p>アンケート(2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の仕事、県議会議員の数などが分かり、ためになった。 条例は知事と議会の両方が提案できることが分かり、ためになった。 私たちのために議会・知事が具体的にどう動いているのか、知れてためになった。 県職員の見方が少し変わった。 日ごろ、知る機会の少ない分野の話が聞けてためになった。 自分の意見をしっかりと持とうと思った。  <p style="text-align: right;">n = 43</p>
<p>アンケート(3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> もう少し、版書やパワーポイントを使用してほしい。

<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅰ 2014年1月13日(月) 2限 226教室(松崎 陽子)</p>																			
<p>テーマ</p>	<p>メーカーで働くということ</p>																			
<p>講師</p>	<p>株式会社タイホーコーザイ 坂井 大助 氏</p>																			
<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● メーカーでの仕事 ● なぜ就職先にメーカーを選んだか ● 私の一日 <p>アンケート回答受講生数 52 名</p>																			
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】 本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「わかった」点は?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・営業職としての姿勢、製品の良さ等を顧客に伝える大切さについて理解できた。 ・営業は会社の顔であり、様々な人と交わりがあることが分かった。 ・営業にあたっては、話題づくりのために趣味などは持っておいた方がよいことを知った。 ● 「わからなかった」点は?具体的に記入してください。 	<p style="text-align: center;">理解度</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>理解度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よくわかった</td> <td>35</td> <td>67.3%</td> </tr> <tr> <td>まあまあわかった</td> <td>15</td> <td>28.8%</td> </tr> <tr> <td>あまりわからなかった</td> <td>2</td> <td>3.8%</td> </tr> <tr> <td>わからなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n = 52</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	よくわかった	35	67.3%	まあまあわかった	15	28.8%	あまりわからなかった	2	3.8%	わからなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
よくわかった	35	67.3%																		
まあまあわかった	15	28.8%																		
あまりわからなかった	2	3.8%																		
わからなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】 本日の講義はためになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「ためになった」ことは?具体的に記入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・営業職について、詳しくリアルな話を伺ってとても興味が湧いてきた。 ・目の前のチャンスは無駄にしないこと、目の前の仕事を文句を言う前にしっかりやること、・・・とてもためになった。 ・チャンスはどこにあるか分からない、取引先の様々な人と話してみる大切さが分かり、ためになった。 ・どのような姿勢で仕事をされているか伺い、自分もそういう風になりたいと思った。 ・転職にマイナスイメージがあったが、転職を経験された方の話を伺って、イメージが覆った。 	<p style="text-align: center;">役立ち度</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>役立ち度データ</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>回答数(人)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ためになった</td> <td>35</td> <td>67.3%</td> </tr> <tr> <td>まあまあためになった</td> <td>15</td> <td>28.8%</td> </tr> <tr> <td>あまりためにならなかった</td> <td>2</td> <td>3.8%</td> </tr> <tr> <td>ためにならなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>回答なし</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">n = 52</p>	回答内容	回答数(人)	割合(%)	ためになった	35	67.3%	まあまあためになった	15	28.8%	あまりためにならなかった	2	3.8%	ためにならなかった	0	0%	回答なし	0	0%
回答内容	回答数(人)	割合(%)																		
ためになった	35	67.3%																		
まあまあためになった	15	28.8%																		
あまりためにならなかった	2	3.8%																		
ためにならなかった	0	0%																		
回答なし	0	0%																		
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】 この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドに記載してあること以外についても、話を聞いてみたい。 																			

<p>科目</p>	<p>キャリア開発Ⅱ 2014年1月16日(木) 2限 225教室(松崎 陽子)</p>
<p>テーマ</p>	<p>個人面接実践～模擬面接～</p>
<p>講師</p>	<p>新潟大学農学部キャリアジム運営センター コーディネーター 古侯 清勝 氏</p>
<p>概要</p>	<p>一人ずつ模擬個人面接を行い、評価・フィードバックを行う。</p> <p>アンケート回答受講生数 8名</p> 
<p>アンケート(1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。 ・自分の書いた文章をなぞるように話しても、相手に伝わりやすいことがよく分かった。 ・自分の希望する会社の具体的な事業内容などを調べるポイントと履歴書の書き方などが分かった。</p> <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="943 757 1390 1115"> <p style="text-align: center;">理解度</p> <p style="text-align: right;">n = 8</p> </div> <div data-bbox="327 1216 938 1720"> <p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。 ・実際に面接をしてもらい、良い点、改善点をアドバイスして頂けてよかった。 ・面接に対する自信がついた。 ・1対1の面接の雰囲気になれる為の有意義な練習になった。 ・面接での質問の返し方、出入りの仕方、返答における改善点が多くなった。 ・履歴書の書き方を具体的に教えて頂き、ためになった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="943 1256 1390 1615"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p> <p style="text-align: right;">n = 8</p> </div> </div> </div> </div>
<p>アンケート(3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>

<p>科目</p>	<p>長岡・新潟県を知る 2014年1月16日(木) 3限 217教室(松本 和明)</p>
<p>テーマ</p>	<p>新潟県の現状と課題および今後の方向性</p>
<p>講師</p>	<p>新潟県議会議員 大淵 健 氏</p>
<p>概要</p>	<p>新潟県議会議員としての活動を踏まえ、議会のあり方および新潟県の方向性について講義する。</p> <p>アンケート回答受講生数 36 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県と連携することの大切さが分かった。 ・新潟県は酒で有名だが、日本酒の生産量は全国3位であることが分かった。 ・日照時間が政策に大いに影響することが分かった。 ・新潟県の政策について知ることができた。 ・医療問題についての解説が分かりやすく、非常に共感できた。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟の酒をどのように海外にアピールして行けばよいかを知りたい。 ・2014年問題をもう少しじっくり聞きたかった。 <div data-bbox="943 757 1398 1160"> <p style="text-align: center;">理解度</p>  <p style="text-align: right;">n= 36</p> </div>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟の抱える問題や新潟県の政策について知ることができ、ためになった。 ・大淵先生のお話の仕方が勉強になった。 ・より多くのことに自分の意見をもつ必要があると分かり、ためになった。 ・県政の中央部にいる議員の方の話を伺い、新潟県の実態を知ることができた。 <div data-bbox="943 1261 1398 1664"> <p style="text-align: center;">役立ち度</p>  <p style="text-align: right;">n= 36</p> </div>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>

<p>科目</p>	<p>長岡・新潟県を知る 2014年1月23日(木) 3限 217教室(松本 和明)</p>
<p>テーマ</p>	<p>十日町地域の現状と今後</p>
<p>講師</p>	<p>一般財団法人十日町地域地場産業振興センター 杉山 弘美 氏</p>
<p>概要</p>	<p>十日町地域の現状と今後のあり方について、「十日町ビジネスコンテスト」の意義と方向性を含めて学習する。</p> <p>アンケート回答受講生数 31 名</p> 
<p>アンケート (1)</p>	<p>【1】本日の講義内容はよくわかりましたか。</p> <p>●「わかった」点は？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の地域に行くことで、自分が住んでいるところの見方が変わることが分かった。 ・人があまりやらないことが人生を変えるかもしれないということが分かった。 ・やりたいことは出来るだけすべてやっておくべきということが分かった。 <p>●「わからなかった」点は？具体的に記入してください。</p>  <p style="text-align: right;">n= 31</p>
<p>アンケート (2)</p>	<p>【2】本日の講義はためになりましたか。</p> <p>●「ためになった」ことは？具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度外に出てみることで、新しい発見があるということを知り、勉強になった。 ・可能性は無限大であると感じた。自分から動いてゆくことで世界は広がってゆくと思った。 ・講師の経歴が自分にとって刺激的だった。 ・十日町の高校に通っていたので、懐かしかった。クロスステッチに行ってみようと思った。 ・自分の地元を見つめ直そうと思った。 ・就職に関して不安があったが、講義を聞いて様々なことに挑戦してみようと思った。 ・人生は何が原因で、どう変わるかわからないことを知り、ためになった。  <p style="text-align: right;">n= 31</p>
<p>アンケート (3)</p>	<p>【3】この講義で改善した方がよいと思うことがありますか。</p>

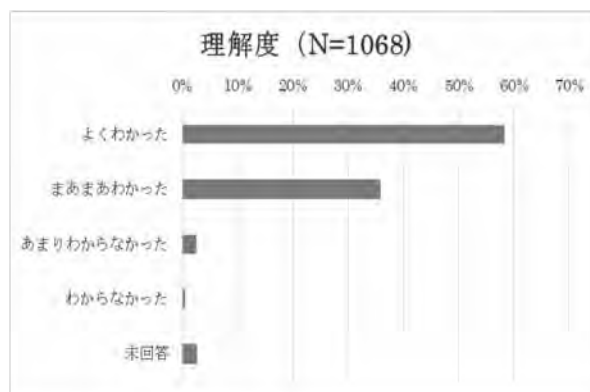
(5) まとめ—成果と課題—

- ・まとめると、キャリア開発Ⅰ、Ⅱ、Ⅲが各5名、同Ⅳが3名、長岡・新潟県を知るが7名、企業経営研究2、マーケティング2及び地方行政が各2名の企業・外部講師による授業を行った。当初の平成25年度方針と比べると、やや地域志向・学修科目が異なるが、当科目の趣旨（学生が多くの科目で地域を学習するという）には合致したものと評価できよう。
- ・学生の授業の理解度と役立ち度をまとめると、図表3-7、8に示すとおりである。理解度は94%が「わかった」（「よくわかった」58%+「わかった」36%）と回答し、非常に理解度は高かった。また、役立ち度も90%が「役立った」（「ためになった」63%+「まあまあためになった」27%）と感じている。企業講師等授業は学生に十分受け入れられていると評価できよう。
- ・平成26年度は地域志向科目数を35科目（ 頁）を増やして、充実を図る予定である。

図表3-7

企業講師等授業アンケート全体結果・理解度

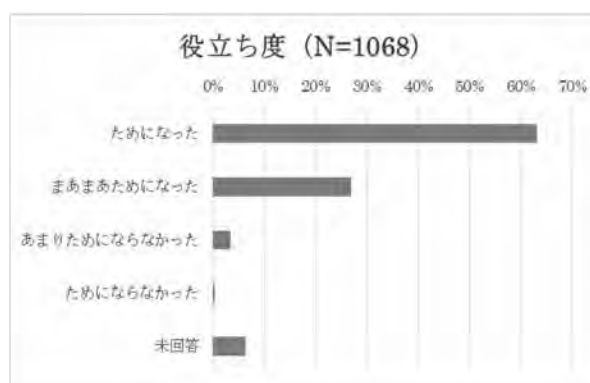
理解度(回答総数：1068名)				
よくわかった	まあまあわかった	あまりわからなかった	わからなかった	未回答
58%	36%	3%	1%	3%



図表3-8

企業講師等授業アンケート全体結果・役立ち度

役立ち度(回答総数：1068名)				
ためになった	まあまあためになった	あまりためにならなかった	ためにならなかった	未回答
63%	27%	3%	0%	6%



4 ボランティア・スキルの養成

(1) 方針・目標

- ・3課題に対応したボランティア関係の授業科目等の充実・仕組み構築を図り、卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成する。
- ・＜ボランティア大学＞のイメージを定着させる。
- ・平成29年度は、ボランティア体験履修学生割合目標として、卒業生の80%をめざす。

(2) 平成25年度方針・目標

- ・仕組み・・・自治体等の「ボランティア活動リスト」に沿って、ボランティア体験Ⅰ（1年次）、Ⅱ（2年次以上）履修学生（部活含む）が取組活動を選び、ポイント制（ポイントカード）と活動報告で単位取得を可能にし、社会人として必須のボランティア・スキルを身につける。学生リーダー養成研修、ボランティア・コーディネーターを配置する。
- ・平成25年度は、ボランティア体験授業等で、学生リーダーや学生のボランティア活動スキルの養成を行う。ボランティア・コーディネーター配置により、ボランティア授業単位取得学生を拡大する（20名）。

(3) 計画

- ・平成25年度前期に、ボランティア論、ボランティア体験の授業を開講した。特に、ボランティア体験は集中授業として、夏休み等を活用して、長岡まつりの清掃活動、高齢者支援活動さらには地域活性化活動等へのボランティア参加を計画した。

(4) 展開

- ・長岡まつり清掃活動・・・平成25年8月2～3日の長岡まつりは市外から約80万人もの観光客が押し寄せるが、それに伴い、道路や広場の清掃活動が例年通り行われた。ボランティア体験を受講する学生が、JR長岡駅周辺の清掃活動に、ボランティアで参加した。
- ・高齢者支援活動・・・同年8月6日に長岡市小国地域総合センターで、地域の福祉活動の一環として、高齢者の足湯活動へのボランティア参加を行い、感謝された。
- ・地域活性化活動・・・同年8月4日～7日の4日間、長岡市川口地区の木沢集落において、シャッターアートづくりのボランティア活動に参加した。このプロジェクトは平成23年から始まった木沢集落の主要道路沿いのシャッターに四季の絵を描いて地域活性化を図ることをめざした活動である。本学学生は毎年参加し、毎年、木沢の春、夏、冬、秋をシャッターに描き、平成25年に完了した。

(5) まとめー成果と課題ー

- ・平成25年度はボランティア関係の授業が前期に開講されたため、後期にはCOC事業で対象とする授業は開講されなかった。次年度は、平成25年度の前期授業を参考にしながらも、より計画的な授業を開講する努力が必要である。
- ・より具体的には、ボランティア・リーダーの養成、後述の社会貢献分野の地域活性化活動（ 頁）との密接な連携による学生ボランティア活動の充実、を図る。

5 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）

（1）方針・目標

- ・3・4年ゼミ等の地域活性化プログラムの充実・拡大を図り、卒業後も通用する社会人基礎力の養成を推進する。
- ・＜社会人基礎力養成大学＞のイメージを定着させる。
- ・平成29年度には、ゼミ数・参加卒業生数割合目標－3・4年ゼミ数14（80%）、参加学生割合80%。「社会人基礎力育成グランプリ」決勝大会入賞をめざす。

（2）平成25年度方針・目標

- ・地域活性化プログラムの取組みゼミ（8ゼミ8課題）の活動を計画的に、展開する。中間レビュー（9～11月）、および最終報告会（12月）を開催する。最終報告会は広く市民の参加を呼びかける。
- ・平成25年度は、3・4年ゼミナール（2年生希望者含む）の地域活性化プログラムで、地域課題の調査・分析・提言等実施－8ゼミ8課題、参加学生割合40%をめざす。
- ・同プログラムの成果をブックレット等の形で、積極的に情報発信を行う。
- ・平成26年度に向けて、地域課題リスト、取組ゼミ・グループの応募・検討、進め方、広報方策、さらに、成果の評価方法・指標などを検討し、地域活性化プログラムの新しい方向をまとめる。地域志向科目のなかでの位置づけ（目玉授業等）も明確に。

（3）計画

- ・平成25年度の地域活性化プログラムの取組みは、図表3-9に示す8取組が計画された。

図表3-9 地域活性化プログラムの取組ゼミとテーマ

ゼミ名	テ ー マ
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割
米山 宗久 ゼミ	高齢者の買い物支援 －地域のつながり再構築－
広田 秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション －草の根・地域からの地球一体化推進－
鯉江 康正 ゼミ	新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を知らせよう！
高橋 治道 ゼミ	地域の魅力発信による絆結び －神谷の魅力をつなげ・ひろげる－
吉盛 一郎 ゼミ	長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
小千谷活性化 プロジェクトチーム	小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言

(4) 展開

- ・当プログラムの実施経過は、図表3-10の通りである。

図表3-10 平成25年度地域活性化プログラム取組の経過

4月18日	平成25年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催（以後、毎月1回開催）
5月16日	平成25年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月6日	平成25年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
6月26日	平成25年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
7月11日	平成25年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
9月12日	平成25年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
9月17日	中間レビュー：村山ゼミ
9月30日	中間レビュー：吉盛ゼミ
10月10日	平成25年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
10月15日	中間レビュー：高橋ゼミ
10月22日 10月29日	中間レビュー：米山ゼミ
10月26日 10月27日	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
10月29日	中間レビュー：広田ゼミ
11月14日	平成25年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
11月29日	中間レビュー：鯉江ゼミ
12月4日	中間レビュー：権ゼミ
12月14日	地域活性化プログラム平成25年度成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月18日	平成25年度第2回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
1月16日	平成25年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催

・また、同地域活性化プログラムの推進体制は、図表3-11の通りである。

図表3-11 平成25年度地域活性化プログラム推進体制

<総合アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
長岡市市長政策室政策企画課	課長	渡辺 則道
株式会社品川鋳造	会長	品川 十英

<地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
長岡市市民協働部市民協働推進室	主任	木村 圭介
まちなか駅ナールみつけ	駅長	中川 一男
株式会社たかの	取締役会長	高野 雅
株式会社たかの	元常務	樋熊 捷平
長岡歯車資料館	館長	内山 弘
ながおかまちなかの駅	駅長	太刀川 喜三
神谷地区	区長	白井 湛
NPO法人ながおか生活情報ねっと	理事長	桑原 眞二
自営	ITコンサルタント	David Boudreau
コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク	代表	大出 恭子
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE	情報化コーディネーター	杉浦 聡
長岡市市長政策室政策企画課	主査	林 智和
財団法人長岡市企業公社 東山ファミリーランド 長岡市営スキー場	施設長	和田 行夫
長岡東山フェニックスグループ 長岡市営スキー場 東山ファミリーランド 東山テニス場 八方台いこいの森	施設長	桑原 一頼
長岡市福祉保健部長寿はつらつ課	主査	綿貫 哲夫
社会福祉法人長岡市社会福祉協議会本部事務局 地域福祉課	課長	本間 和也

<学内推進委員>

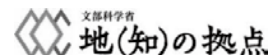
学 長	内藤 敏樹	教 授	運営委員	広田 秀樹	教 授
運営委員長	鯉江 康正	教 授	運営委員	村山 光博	教 授
運営委員	権 五景	准教授	運営委員	吉盛 一郎	教 授
運営委員	高橋 治道	教 授	運営委員	米山 宗久	准教授

・各取組みの概要は、図表3-12～18の通りである。

図表3-12 企業の情報発信とホームページの役割 (村山ゼミ)



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成25年度 学生による地域活性化プログラム 企業の情報発信とホームページの役割

■担当教員

村山光博 教授

■ゼミ学生

4年生：袁苗、小田優、胡礼橋、関匠、深澤修三、山口真代、山本心美、叶静

3年生：猪俣陵、神田美典、黒崎修平、佐々木貴章、布川尊也、喻彬

■アドバイザー：NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE 情報化コーディネーター 杉浦聡氏

取組の目的

○企業が自社ホームページで発信している情報がターゲットに向けた適切な内容であるか、また情報を効果的に伝える仕組みになっているかを調査し、改善案を策定する。

○企業ホームページを改善することにより、地域企業の特徴や強みをPRする。

今年度の取り組み

① ホームページ診断および改善案の策定

株式会社システムスクエアのホームページ診断と改善案の策定を実施した。ゼミ学生全員で同社のホームページを開覧し、「コンテンツ診断シート」および「システム診断シート」で評価を行った。また、ゼミ学生の意見収集・整理することで「優れている点」と「改善を期待する点」をまとめた。これらの診断結果と改善案を平成25年10月に同社に提出した。

同社のホームページは、同じく10月に全面リニューアルされた。

② ホームページデザイン案の策定

長岡電子株式会社のホームページ開設に向けて、ホームページデザイン案の策定を行った。

デザイン案の策定に先立って、同社の工場見学やヒアリングを通して事業の概要や特徴の理解を深めた。

ゼミ学生のグループが検討したメニュー構成とホームページデザインの1次案を同社に提案し、今後も検討を進めていくことを確認した。

③ ホームページ活用事例調査

株式会社システムスクエアとマコー株式会社の2社に対して、各社のこれまでの自社ホームページ改善の取り組みに関するヒアリング調査を行い、ホームページの優れた活用事例として文書にまとめた。

ヒアリング・工場見学の様子

(株)システムスクエア

長岡電子(株)



マコー(株)

(株)システムスクエア

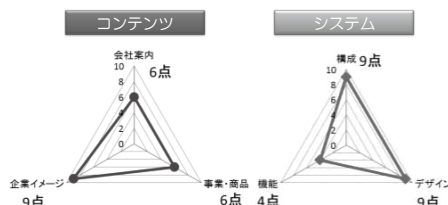


① ホームページ診断および改善案の策定 株式会社システムスクエア

1. ホームページ診断時のトップページ



2. ホームページ診断の結果



3. 改善を期待する点

- よくある質問をまとめたページを追加してはどうか。
- 【お問合せ】のページに連絡先の電話番号やファックス番号も記載したほうが良い。
- 【お問合せ】のページに、個人情報保護に関する記述を追加したほうが良い。
- トップページに本社の住所、電話番号、FAX番号などの情報を掲載したほうが良い。
- 左サイドのメニュー下の余白部分を活用して情報を掲載できないか。
- 【ダウンロード】のメニューはそのままでは意味がわからないので、【製品情報】の中に【カタログダウンロード】という表示を行って、カタログファイルを掲載してはどうか。
- 会社紹介VTRと製品紹介の動画ファイルの形式を変えることはできないか(ユーザーのPC環境によって見られない場合がある)。→YouTubeの利用を検討してはどうか
- クリックしたリンクの色が変わるようにしたほうが良い。(掲載されている製品の数が多いため、どれを見てどれを見ていないのかを知りたい)
- 文字サイズ変更ボタンをつけてほしい。
- サイト内検索窓をつけてほしい。

(順序不同)

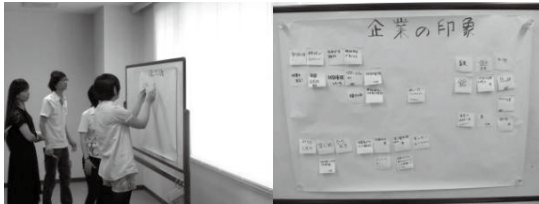


平成25年度 学生による地域活性化プログラム 企業の情報発信とホームページの役割

②ホームページデザイン案の策定 長岡電子 株式会社

1. ホームページ作成方針の検討

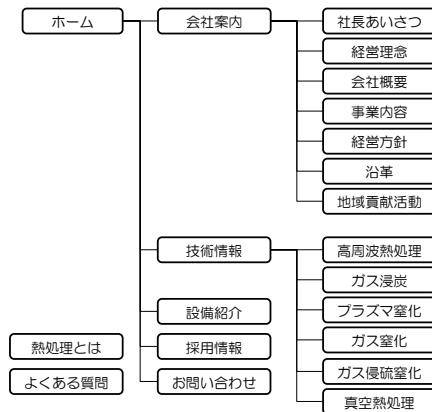
長岡電子（株）のヒアリング結果を踏まえて、ゼミ内で意見を出し合い、同社ホームページの作成方針やゼミ活動の進め方などを検討した。



2. メニュー構成案の検討

ゼミ学生のグループが検討したメニュー構成とホームページデザインの1次案を同社に提案し、今後も検討を進めていくことを確認した。

同社ホームページのメニュー構成案では、「ホーム」の下に「会社案内」、「技術情報」、「設備紹介」、「採用情報」、「お問い合わせ」などの項目を配置し、さらにその下に細かく項目を分けている。また、熱処理に関するわかりやすい説明を掲載する「熱処理とは」という項目や、熱処理に関して同社に多く寄せられる問合せなどを集めた「よくある質問」という項目も配置することを考えた。



ホームページデザイン案の一例



③ホームページ活用事例調査 マコー 株式会社の事例



同社のホームページは、閲覧する顧客側の視点でつくることを念頭に置いていた。企業側の伝えたい情報と、顧客側の知りたい情報が必ずしも同じとは限らないからである。また、掲載する情報の内容や量についても、ただ膨大なデータベースを載せるだけでは一般の人には見てもなかなか分かりづらいという問題点があるため、検索機能に工夫を施していた。情報量と検索機能とのバランスがとれているため非常に見やすく、情報を探しやすいホームページとなっていた。

ホームページ作成に必要なのは、伝えたい情報の明確化、顧客の求める情報の明確化、情報の簡潔化及び整理を行うことであると考え。検索ワードにも注意を払うことで閲覧者の増加を狙うことができるかもしれない。ホームページの有効活用にはこれらに注意を払う必要がある。

株式会社システムスクエアの事例



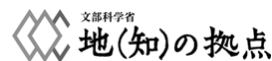
ホームページ運用では、部分的に外部の業者に委託することも可能である。しかし、外部の業者に委託してホームページを開発しても、それでホームページが完成したわけではない。顧客が自社ホームページに何を求めているのか、ニーズを常に把握して反映していくことがとても重要である。

顧客が書き込みをしやすい問合せページを設置すると、ホームページからの問合せ数の増加に繋がる。同社は問い合わせ件数が思ったように伸びないことを受け、これまでは自由記述方式になっていたお問合せページのレイアウトを、あらかじめ想定される質問項目を並べた中から顧客が問合せたい項目にチェックを付けるレイアウトに変更した。その結果、問い合わせ件数が著しく増加した。このようなPDCAが質の高いホームページ制作への礎になっている。

図表 3-1-3 高齢者の買い物支援（米山ゼミ）



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム

高齢者の買い物支援
—地域のつながりの再構築—

◆担当教員
米山宗久 准教授

■ゼミ学生 4年生：斎藤郁美、菅原伸悟、高野憲和、高橋将貴、豊岡 文、前山倫世、山倉恵莉
3年生：小野澤泰介、川津敬永、小林美穂、坂井愛優、酒井直也、福原寛生

■アドバイザー：本間和也氏（社会福祉法人長岡市社会福祉協議会本部事務局地域福祉課 課長）
綿貫哲夫氏（長岡市福祉保健部長寿はつらつ課 主査）

取組の目的

- 少子高齢化や過疎化に伴い、商店や公共交通機関等の日常生活に不可欠な「生活インフラ」が弱体化している。
- 高齢者は年齢を重ねるごとに、身体的、精神的、住環境的、経済的要因によって買い物機会を失われつつある。
- 小売店の減少と反比例するように大規模小売店が規制緩和を受け、郊外に出店している
- 本研究では、今後の買い物支援のあり方を見つめ直し、新たな支援策を提言することを目的とする。

研究の意義

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1 地域福祉の推進 | ： 地域住民の支えあい | ⇒ 地域の活性化 |
| 2 買い物支援 | ： 食の確保・健康維持 | ⇒ 経済波及 |
| 3 コミュニケーション | ： 地域住民の交流 | ⇒ 生きがいの創出 |
| 4 地域振興 | ： 経済効果・起業喚起 | ⇒ 雇用拡大 |

取組の流れ

- | | |
|-------------------------|---|
| ① 長岡市の高齢福祉施策の学習 | ⇒ 長寿はつらつ課職員から高齢福祉施策の講義を受ける |
| ② 長岡市社協実施のボランティア銀行の学習 | ⇒ 社会福祉協議会職員からボランティア銀行の利用動向の講義を受ける |
| ③ 車いす試乗及び介助体験 | ⇒ 車いすを使い、大学校舎内や坂道で介助体験を行い、高齢者や障がい者行動を理解する |
| ④ 経済産業省の買い物支援の検証 | ⇒ 「店を作る」、「商品を届ける」、「出かけやすくする」の3つの支援を検証する |
| ⑤ ボランティア銀行協力会員へのヒアリング | ⇒ 買い物支援を行っている4名の協力会員から支援内容や高齢者の要望を聞く |
| ⑥ ボランティア銀行依頼会員へのヒアリング | ⇒ 買い物支援を依頼している3名の高齢者から依頼理由や買い物目などを聞く |
| ⑦ 栖吉地区高齢者お茶会への参加 | ⇒ 元気高齢者との交流を行い、買い物動向や生きがい活動などを聞く |
| ⑧ 現行の買い物支援と高齢者の買い物要望の精査 | ⇒ 現行の買い物支援策やヒアリングから支援策の検証をする |
| ⑨ 新たな買い物支援の提案 | ⇒ 個別に具体的な支援策を提案し、その中から新たな支援策を協議して決める |

新たな買い物支援策

〈空き家を使った移動販売型買い物支援(市場併用)〉

- ◆ **近所での買い物**
歩いていける、友人知人と一緒になる、買ったものも持ち帰れる、買い物代行も頼みやすい、買い物時に会話をする
- ◆ **商品を目で見れる**
好きなものが見える、視覚で商品を選べる、予算を考える、頭を使う、認知症予防につながる。
- ◆ **コミュニケーションができる**
地域住民間の会話の促進、世代間交流の機会拡大、地域のイベントに参加、若者との会話の場や相談の機会
- ◆ **交流の場の拡大**
地域コミュニティ活動の活性化、世代間交流の機会拡大、近隣住民との関係づくり
- ◆ **空き家の解消**
空き家の再生利用、地域の安全確保、安心できる場所の確保、地域で気軽に集まれる場所の確保



高齢者ヒアリング



ボランティア銀行の講義



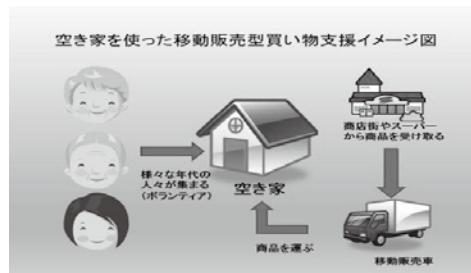
高齢者ヒアリング



車いす体験

実施に向けた方策

- | | |
|------------|--------------------|
| ○モデル地区での検証 | → デモ地域での実施検証 |
| ○意向調査・利用調査 | → 高齢者の意向や利用希望の調査実施 |
| ○ボランティアの確保 | → 買い物支援へのボランティアの協力 |
| ○空き家の確保 | → 借用できる空き家の検証 |
| ○小売店の参入 | → スーパーなどの事業協力の意向調査 |



図表3-14 グラスルーツグローバルゼーション (広田ゼミ)



平成25年度 学生による地域活性化プログラム
グラスルーツグローバルゼーション
一草の根・地域からの地球一体化推進一

◆担当教員
広田秀樹 教授

■ゼミ学生名 4年生 : 王偉志・松川貴之・李又輝・鹿又幸太
3年生 : 間野宏樹

■アドバイザー : 大出恭子氏(コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表)
デビット=ブズロー氏(ITコンサルタント)

グローバルゼーションとは?



あらゆる点で、世界的交流が盛んになり、世界全体が一体化していくこと。

「グラスルーツグローバルゼーション」の定義

草の根・地域からグローバルゼーション(地球一体化)を平和的に進めその過程を地域活性化に役立てることを志向する活動を、グラスルーツグローバルゼーション(草の根・地域からの地球一体化推進)と定義

私達の目標

世界のどこの出身の人が来ても歓迎されるような地域の構築!

グラスルーツグローバルゼーションの活動方法

- 1) Study : グローバリゼーションに関する学習
- 2) Invite : 外国人の方等をゼミに招待し交流
- 3) Visit : 外国人の方が集まる場等への訪問
- 4) Donate : 学園祭に出店し利益を世界に寄附

1) Study : グローバリゼーションに関する学習

本年度は、「グローバルゼーションの世界的レベルでの恩恵」
「グローバルゼーションを地域の活力にするには?」
「グローバルゼーションに反対する勢力について」
「グラスルーツグローバルゼーションの展開」
という4つのメインテーマを決め学習を行った。

2) Invite : 外国人の方等をゼミに招待し交流

世界から地域にやってきた外国人の方や国際交流で活動する方を招待し、対話・交流しさまざまなことを学んだ。

3) Visit : 外国人の方が集まる場等への訪問

世界から来られている外国人技能実習生の会合に出席し交流した。
長岡市内にある母国料理を提供する外国の方のお店を訪問した。

4) Donate : 学園祭に出店し利益を世界に寄附

世界の子供たちを応援する目的でお店を開いた。
少しでも世界の商品を知ってもらうことを考え、毎年世界からの輸入品を扱っている。
得た収益の全てを『ユニセフ』に寄附している。

コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表
大出恭子氏を迎えての意見交換会



カメルーンからの留学生
レイナー=タバンド氏との交流



外国人技能実習生と交流

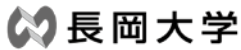


ユニセフへ寄附

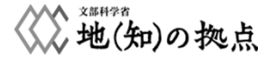


**Yokoso ! Welcome to Nagaoka !
Nice to Meet You !**

図表3-16 十分杯で長岡を知らせよう！（権ゼミ）



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成25年度 学生による地域活性化プログラム
十分杯の広報活動



◆ゼミ教員
権五景准教授

■ゼミ学生名 4年生：宇尾野大樹 佐藤旭 3年生：三國弦
■アドバイザー：内山弘氏（長岡歯車資料館 館長）
太刀川喜三氏（ながおかまちの駅 駅長）

取組みの目標

長岡ゆかりの十分杯の認知度を高めることで、十分杯やその教え（足るを知る）を地域社会に広げることが当面の目標として取り組んだ。長期的目標としては、十分杯をモチーフとした長岡土産を開発することで少しでも長岡の活性化につなげることを目標としている。

活動の意義

地域の由緒ある文化遺産であるが、知名度が低いため評価してもらえなかったものを地道な広報活動で認知度を高めたことが地域文化の再発見という意味において大きな意義がある。

主な広報活動

1. 長岡大学学食入り口に十分杯を展示
2. わかりやすいパネル製作
3. 長岡と十分杯にかかわる文献研究
4. 大学祭で展示
5. 十分杯の認知度調査
6. 十分杯ホームページ作成
7. 越後長岡酒の陣で展示
8. 新潟日報に掲載

長岡と十分杯の関わり

長岡藩を根底から支えていた精神は二つあったと言われている。一つが常在戦場（常に戦場にいる心構えを持って生き、ことに処す）の精神であり、もう一つが十分杯（戒め、節儉）の精神であるが、現在では十分杯の精神はあまり知られていない。

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公（まきのただとき 1665-1722）の時代にまで遡る。

忠辰公以前からも武士は簡素な生活を旨としていた。ところが、元禄時代（1688-1704年）になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華やかな生活をするようになった。長岡も例外ではなかったかもしれない。そこで忠辰公はこれを憂い、文武の奨励や制度の改定をして、藩士の引き締めをはかった。

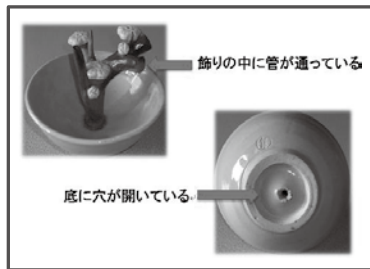
その象徴が十分杯だった。「満つれば欠く」という処世訓を示したものである。

忠辰公が塚越という領民（おそらく庄屋）の持参した十分杯に感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになった。

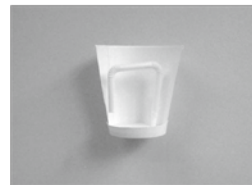
今後の目標

- ◇十分杯をモチーフとした長岡土産製作
- ◇十分杯めぐり観光コースの開発
- ◇十分杯フォーラムの開催

<十分杯の仕組み>

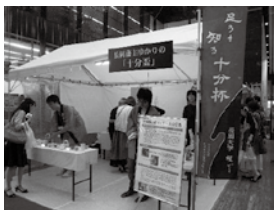


<のぼり>



権ゼミオリジナル
の紙コップ十分杯

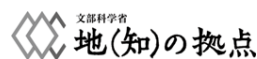
<アオーレ長岡での広報活動の様子>



図表3-17 地域の魅力発信による絆結び（高橋ゼミ）



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成25年度 学生による地域活性化プログラム

地域の魅力発信による絆結び —神谷の魅力をつなげ・広げる—

◆担当教員
高橋治道 教授

■学生名 4年生：阿部亮太 上野晋矢 大沢健介 佐山奈津美 高橋達郎 早川祐也
3年生：伊藤健宏 太田愛実 國松優樹 古田島夏希 羽賀雄介 星田周哉
水品拓郎 大山真実

■アドバイザー：白井湛氏（長岡市 神谷区長）
桑原真二氏（NPO 法人ながおか情報交流ねっと 理事長）

取組み目的

長岡市神谷地区（旧越路町神谷地区）をモデルとして、地域に残る文化や歴史などの資産を守りながら地域の活性化を図る方策を試みる。今年度は、これまでゼミで取り組んできた活動を地域住民が主体となった取り組みへと継続・発展させ、魅力をつなげ・広げてゆくための足がかりを作ることを目的とした。

取組みの意義

神谷地域に残る有形無形の歴史的建造物や伝統文化等を生かした地域活性化策を考える中で、自分が生まれ育った地域を新たな視点で見つめなおし、地域コミュニティに参加して行く姿勢を学ぶことができる。また、取り組みの企画・実行、陳地域住民との交流を通して、陳キング力、アクション力、コミュニケーション力などを身に付けることができる。

取組みの成果

- 新潟県初のチューリップ開花地をアピールするチューリップ植栽を行い、国道を通る人にアピールした。
- eコミュニティ・プラットフォームを使った「越後長岡神谷のサイト」を作り、ネット上に神谷を紹介するサイトを作った。
- 神谷の自然を子供たちに伝えるために、eボートを使った川下りを企画し、実施に向けた準備を進めている。

<活動の成果>

チューリップの植栽



越後長岡神谷のサイト



Eボート現地調査



活動の枠組みと方法

メンバーが話し合った結果、4年生は24年度の取り組みを継続発展させるために、24年度の班構成のまま活動することになった。3年生は、全員で新たなテーマで取り組みを行うことにした。設定したテーマは、次の3つとした。

- ①「神谷の魅力を創り引き出す」
- ②「神谷の魅力を他の場所へアピール」
- ③「神谷の自然を知り、伝える」

このテーマに沿って3つの班を設定し、各班が独自に活動を行うと共に、地域の行事には積極的に参加し、神谷の人たちとの交流を深める活動を行う。

活動の概要

第1班

- ・新潟県初のチューリップ開花地であることをアピールするためのチューリップ植栽を行い、今年はすべての球根の開花を目指した。
- ・チューリップ植栽を神谷地域に定着させ、神谷の住民が主体となって、チューリップ植栽を神谷地域に定着させることを目的に、「花壇づくり」、「球根植栽」を知らせるチラシを回覧板で回覧し、参加を呼びかけた。

第2班

- ・神谷の歴史と伝統を住民のみならず広く知らせるためにeコミュニティ・プラットフォームを使った「越後長岡神谷のサイト」作りに取り組み。公開した。
- ・作成・公開した「越後長岡神谷のサイト」を恒常的に運営してゆくための運営システムの提案を目指した。

第3班

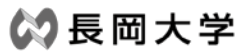
- ・神谷の自然を知り、自然と親しむ楽しさを子供たちに伝えることを目指し、昔は子供たちの夏の水遊び場であるとともに荷物の運搬にも使われていた「須川」の川下りに向けた計画に取り組んだ。
- ・「須川」の川下りに安全性の高いeボートを使うこととし、計画実現に向けて活動を継続している。

その他

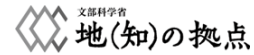
- ・観桜会、どろんこ田植え、ボート作りと進水式、秋祭りの演芸カラオケ大会、神谷区民運動会、収穫祭などの行事へ参加し、神谷の人たちとの交流を深めた。



図表3-18 長岡市東山地域の自然、歴史、分化をエコウォークで楽しむ（吉盛ゼミ）



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成25年度 学生による地域活性化プログラム

長岡市東山地域の
自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ

◆ゼミ教員名
吉盛一郎 教授

■ゼミ生名 3年生 : 渡邊孝志・池田隆祥・小田勇太・謝吉詰・長橋賢和
Baavlai Badralmaa・湊井要
2年生 : 須田一聖

■アドバイザー : 林智和氏(長岡市市長政策室政策企画課 主査)
和田行夫氏(〔財〕長岡市企業公社 東山ファミリーランド・長岡市営スキー場 施設長)
桑原一頼氏(長岡東山フェニックスグループ 長岡市営スキー場・東山ファミリーランド・東山テニス場・八方台いこいの森 施設長)

取組みの目的

東山地域は、長岡市の信濃川を挟んで東部に属する地域であり、山古志地域、栃尾地域も含んでいるが、本年度の活動地域は、東山ファミリーランド地区と悠久山地区に限定している。長岡市政策企画課が主催する「東山つうしん会議」に参加して、参加メンバーとの交流から地域の発展に貢献することを目的とする。

活動の意義

東山ファミリーランド地区にある、スキー場、ファミリーランド、農作業体験、植樹会等の各団体の主催する行事に参加する学生の活動によって地域の活性化に繋げる。

アンケートに寄せられた意見

- ① 全般的に自然環境がよいが、PR 不足、もっと人が来ないとけない。
- ② トレッキングに良いコースが何コースもあるので、ハイキングも楽しい。
- ③ ファミリーランドが好きな施設である。子供がうさぎに触れられるので。
- ④ 牛を放牧してところや、夜空の星がきれいなところが好きである。
- ⑤ 東山の名称は聞かぬが、イベント、いろいろな施設のことなど、聞かない。
- ⑥ このままでよい。

アンケート結果からの提案

多くの長岡市民が、東山地域に来て、ファミリーランド、ふれあい農業公園やスキー場を利用している。景色が良く、家族が楽しめて、運動にもよく、そして癒せる場所のようである。

ただ、夏場の暑い日には、屋根付きの休憩場、自販機や売店が有ってほしい。農業公園のトイレ施設を改善してほしい。また、東山地区の情報発信が足りないのではないかの意見もある。

また、東山ファミリーランド地域のエコウォークの散策コース名として、「コスモスの道」や、「悠久の道」、「天空の道」、悠久山の散策コース名として「長岡偉人の道」を挙げてみた。散策コースに名称があれば楽しく散策できると考えるからである。

活動の枠組みと方法

- ① 長岡市の東山地域の活性化に向けた取組みに参加すること
- ② 東山地域の自然・歴史・文化を学習すること
- ③ 悠久山公園と東山ファミリーランド地区のエコ・健康マップを作成すること
- ④ 東山地域の行事に参加すること
- ⑤ 東山地域の活性化に向けてのアンケート調査と分析からの提案
- ⑥ 第5回全国エコツーリズム学生シンポジウム(東大会場)に参加して、エコツーリズム大賞(環境省)に応募すること

(活動) 植樹会とエコウォーク



・平成25年度成果発表会は、図表3-19の通り開催された。

図表3-19 平成25年度地域活性化プログラム成果発表会案内

長岡大学

文部科学省
地(知)の拠点

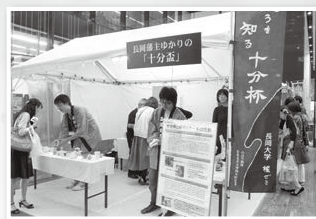
平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)採択
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

学生による地域活性化プログラム 平成25年 成果発表会

プログラム

- ◆村山 光博ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割
- ◆米山 宗久ゼミ：高齢者の買い物支援 ―地域のつながり再構築―
- ◆広田 秀樹ゼミ：グラスルーツグローバルイゼーション ―草の根・地域からの地球一体化推進―
- ◆鯉江 康正ゼミ：新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
- ◆権 五景ゼミ：十分杯で長岡を知らせよう!
- ◆高橋 治道ゼミ：地域の魅力発信による絆結び ―神谷の魅力をつなげ・ひろげる―
- ◆吉盛 一郎ゼミ：長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
- ◆小千谷活性化プロジェクトチーム：小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言(鯉江 康正)

【総評】 長岡市市長政策室政策企画課長 渡辺 則道 氏
株式会社品川鑄造会長 品川 十英 氏



日時 平成25年 12月14日(土)
13:00～17:00 (受付開始 12:30)

会場 ホテルニューオータニ長岡
「NCホール」

※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

定員 250名 入場無料
申込締切/12月6日(金)

◆主催/長岡大学
◆後援/長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所
公益財団法人 いいがた産業創造機構
NPO法人 長岡産業活性化協会 NAZE

お問い合わせ・お申込み

FAX: 0258-39-9566
TEL: 0258-39-1600

〒940-0828 長岡市御山町80-8
http://www.nagaokauniv.ac.jp
e-mail: porev@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学教務学生課
地域活性化プログラム担当: 恩田

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

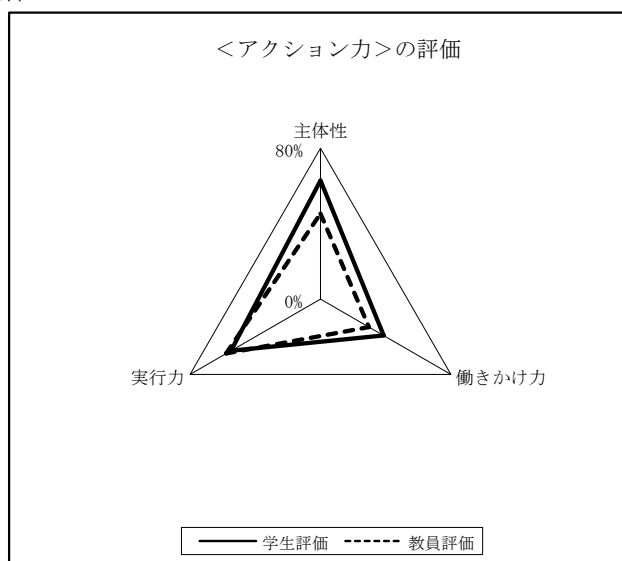
(5) まとめ—成果と課題—

・成果発表会は約 180 名の参加をえて、盛況であった。地域活性化プログラムの目的である「学生の社会人基礎力の向上」は、図表 3-20 に示すとおりである。学生も、教員も全体的に、社会人基礎力の向上を共通して確認している。アクション力では<働きかけ力>、シンキング力では<創造力>、チームワーク力では<発信力>がそれぞれ上昇度の認識が低くなっており、これらの諸力の向上が今後の課題といえる。

なお、「小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言」については、非公開の情報が含まれており、不掲載とした。

図表 3-20 社会人基礎力の上昇度合い（自己認識）

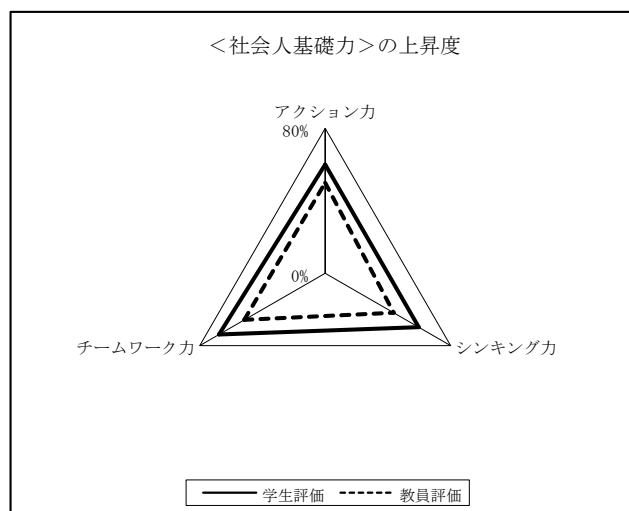
(1) 社会人基礎力全体



<アクション力>の評価

		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組んだ学生の割合	62.9%	45.3%
働きかけ力	積極的に働きかけた学生の割合	38.7%	29.7%
実行力	確実に実行できた学生の割合	54.8%	57.8%

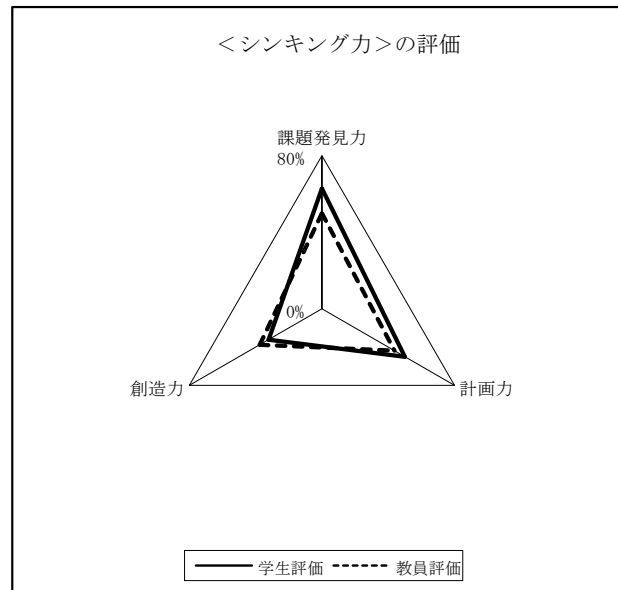
(2) アクション力の評価



<社会人基礎力>の上昇度

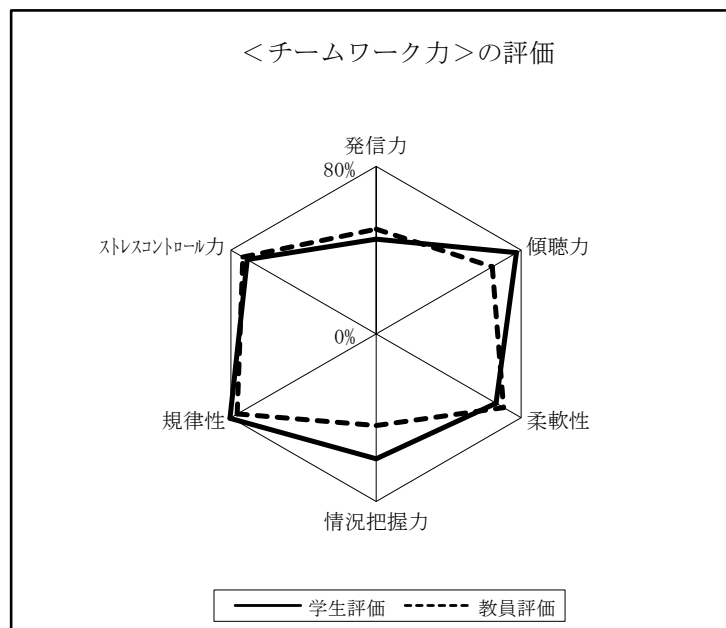
		学生評価	教員評価
アクション力	上昇した学生の割合	60.0%	50.0%
シンキング力	上昇した学生の割合	59.7%	43.8%
チームワーク力	上昇した学生の割合	67.7%	51.6%

(3) シンキング力の評価



＜シンキング力＞の評価		学生評価	教員評価
課題発見力	明らかにできた学生の割合	62.9%	50.0%
計画力	準備できた学生の割合	50.0%	43.8%
創造力	十分出せた学生の割合	32.3%	37.5%

(4) チームワーク力の評価



＜チームワーク力＞の評価		学生評価	教員評価
発信力	十分伝えられた学生の割合	45.2%	50.0%
傾聴力	十分開けた学生の割合	77.4%	64.1%
柔軟性	十分理解した学生の割合	66.1%	70.3%
状況把握力	十分理解した学生の割合	59.7%	43.8%
規律性	守った学生の割合	80.6%	76.6%
ストレスコントロール力	うまく解消できた学生の割合	71.0%	73.4%

6 社会人基礎力の養成（課題解決型インターンシップ）－教育⑥－

（1）方針・目標

- ・従来の職場体験型（集中型）インターンシップ（インターンシップⅠ）に加えて、課題解決型インターンシップ（インターンシップⅡ）を新設し、社会人基礎力の一層の充実養成を図る。
- ・平成29年度は、インターンシップⅡ学生参加率20%、インターンシップⅠ参加率60%。同上全国大会入賞めざす。＜インターンシップ大学＞のイメージを定着させる。

（2）平成25年度方針・目標

- ・仕組み・・・従来の夏期集中型はインターンシップⅠとし、インターンシップⅡ（半期、2単位）を新設する。企業等の「インターンシップ課題リスト」に沿って、履修学生が取組企業等を選び、職場体験を行いながら（ポイント制）、課題解決提案を行う。個人、グループ可。評価は受入企業が行う。
- ・平成25年度は、後期に、仕組みを具体化し、平成26年度には、課題解決型インターンシップ＝インターンシップⅡ科目の新設をめざす（2単位）。
- ・そのため、現在の本学インターンシップの仕組みと課題・改善点、課題解決型インターンシップの事例研究、本学のインターンシップの方向、本学の課題解決型インターンシップの仕組み・特徴、受入企業の意向と実施方式等を検討する。文献調査、ヒアリング等実施する。

（3）計画

- ・平成25年度の夏季集中型インターンシップは、8月～9月の夏季休暇中に、10日間集中して、就業体験を行う計画であった。
- ・インターンシップ受入れ企業・機関は、34機関（受入人数70名）に上った。内訳は、1週間受入が16機関（26名）、2週間受入が18機関（44名）であった。
- ・平成26年度以降の課題解決型インターンシップの方向性について、調査研究を行い、実施の準備を進める。

（4）展開

- ・平成25年度のインターンシップは、図表3-21に示すスケジュールで進められた。
- ・学生が応募したインターンシップ先企業・機関は、図表3-22に示すように、20研修機関、研修人数27名にとどまった。学生の応募がなく、研修を辞退した機関は14機関にのぼった。内訳は、1週間受入が9機関（16名）、2週間受入が5機関（13名）であった。

（5）まとめ－成果と課題－

- ・平成25年度の集中型インターンシップの問題は、学生を送れなかった受入企業・機関が14にものぼったことである。これは学生の参加数の減少（23名）と参加率の低下（31.8%、平成22年度までは40%台）に因っている。次年度は、参加率40%台回復の努力が不可欠である。
- ・課題解決型インターンシップについては、一定の検討は行ったが、成案をえるまでに至らな

かった。次年度再度検討する必要がある。

図表 3-21 平成 25 年度インターンシップスケジュール

日程	内容
4月2日(火)	3年生オリエンテーション インターンシップ希望先予備調査
4月11日(木)～17日(水)	履修登録
5月30日(木)	研修受け入れ受諾機関の掲示
6月5日(水)	研修先選択説明会 (12:20～ 216教室)
6月12日(水)	研修先希望申請書の提出締切 (17:00までに)
6月19日(水)	研修先発表・事前手続説明会 (12:20～ 216教室)
6月21日(金)～27日(木)	誓約書(企業・大学宛)・履歴書の提出、賠償保険の加入
6月25日(火)	研修先へ研修学生及び指導教員の連絡
7月1日(月)～7月26日(金)	指導教員と研修先事前訪問(研修課題の設定、業務内容等調整)
7月26日(金)	研修先の企業研究シート提出期限 (17:00までに)
7月31日(水)～9月1日(日)	各研修先でインターンシップ実地研修
9月18日(水)	修了レポート作成説明会 (12:20～ 216教室)
10月16日(水)	修了レポート(初稿、紙ベース)提出期限 (17:00までに)
10月16日(水)～31日(木)	指導教員より修了レポート(初稿)の添削を受け、最終稿を作成
11月1日(金)	修了レポート最終稿の提出(USBまたはメール添付で提出)及び 研修日誌の提出 (17:00までに)

※ キャリア開発Ⅲ(社会人講座)にて企業研究やビジネスマナーの講習を行う予定なので、必ず出席すること。

※ 研修日誌はレポート作成に必要なので、研修中に毎日行った業務を日誌に記入しておくこと。

※ 9月中に実地研修が行われる場合があるので、9月18日以降の日程については、確定ではありません。

図表 3-2-2 平成 25 年度インターンシップ研修先・研修期間等

研修先	参加学生数	指導教員	研修期間
(株)アークベル (長岡ベルナール)	1名	高橋 治道	8月16日～8月30日
(株)ウオロク 見附店	1名	小松 俊樹	8月1日～8月12日
越後製菓(株) 片貝工場	1名	鯉江 康正	8月19日～8月23日
(株)エフエムラジオ新潟 (FMにいがた)	1名	松本 和明	8月12日～8月23日
	1名		8月19日～8月30日
(株)オオミヤ (オオミヤスポーツ)	1名	牧野 智一	8月5日～8月9日
(株)オーシャンシステムチャレンジャー北長岡店	1名	牧野 智一	8月1日～8月14日
(株)オーシャンシステムチャレンジャー巻店	1名		8月15日～8月29日
(株)コープビル (ホテルニューオータニ長岡)	1名	西俣 先子	8月16日～8月29日
	1名		
(株)米百俵本舗	1名	西俣 先子	7月31日～8月13日
	1名		
三条市役所 市民部生涯学習課	1名	太田 恵子	8月19日～8月30日
NPO 法人 地域循環ネットワーク	1名	山川 智子	8月15日～8月17日
			8月28日～8月30日
中越高等学校	1名	中村 大輔	8月5日～8月9日
			8月19日～8月23日
長岡市役所 市民協働推進室	1名	西俣 先子	8月22日～8月24日
長岡商工会議所	1名	小松 俊樹	8月19日～8月30日
(株)ハードオフコーポレーション 三条店	1名	広田 秀樹	8月5日～8月17日
(株)ハードオフコーポレーション 長岡川崎店	1名		
原信ナルスホールディングス(株) 原信四日町店	1名	小松 俊樹	8月19日～8月30日
原信ナルスホールディングス(株) 原信四日町店	1名	西俣 先子	
(株)ひらせいホームセンター 荒川店	1名	太田 恵子	8月7日～8月20日
(株)北越銀行	1名	太田 恵子	8月26日～8月30日
	1名		
見附染工(株)	1名	山川 智子	8月19日～8月30日
村上市役所 環境課	1名	山川 智子	8月5日～8月9日
山崎醸造(株)	1名	鯉江 康正	8月26日～8月30日

7 学生起業人材の養成

(1) 方針・目標

- ・従来の起業家塾（夏期集中、2単位、長岡技術大学、長岡造形大学、長岡大学の単位互換科目）を基礎に、通年の長岡地域の学生起業家塾へと発展させ、長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。
- ・＜学生ベンチャーの長岡＞のイメージを定着させる。
- ・平成29年度には、長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。年間参加学生数100名、全国のビジネスプラン・コンテストに応募・入賞をめざす。

(2) 平成25年度方針・目標

- ・仕組み・・・夏期集中の起業家塾を後述する「長岡起業家塾」の一環に組み込んだ「学生起業家塾」（8月集中）として位置づけ直し、春（5～6月）に準備セミナー、秋（9月）にコンテスト応募ブラッシュアップ・セミナー、冬（1月）に振り返りセミナーを開催し、学生起業人材の養成を図る。
- ・平成25年度は、8月起業家塾のビジネスプランのブラッシュアップを行い、新潟県のキャンパスベンチャー・コンテストに応募する。
- ・2月に次年度向けの起業家塾セミナーを開催し、平成26年度には通年の長岡地域の学生起業家塾開講をめざす。参加学生30名（従来25名）、新潟県キャンパスベンチャー優勝。

(3) 計画

平成25年度の夏季集中の起業家塾（2単位）のプログラムは、次の通りであった。

.....

平成25年度長岡大学「起業家塾」プログラム

<第1日>8月19日（月）

I 開講にあたって

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------------|
| ・起業家塾開講にあたって | 担当教員：特任教授小松俊樹 | * 225教室
9:30～ 9:45 |
| ・社会人基礎力事前評価 | | 9:45～10:00 |
| ・プログラムの進め方について | 担当教員：小松俊樹 | 10:00～10:30 |

II プログラム展開

- | | | |
|-------------------------|--|-------------|
| | | * 225教室 |
| 1 チーム編成と役割検討 | | 10:40～12:00 |
| 2 ビジネスプランとその作成方法 | | 13:00～16:10 |
| * 特別講演・夢の実現をめざしてー創業とはー | | 15:00～16:10 |
| マコー創業者／株式会社パルメソ社長 松原 亨氏 | | |

<第2日>8月20日（火）

- | | | |
|-----------------------------------|--|-----------------------|
| 3 アイディア出しの方法と作業 | | * 225教室
9:00～12:00 |
| 4 アイディア2案の中間発表と1案への絞り込み | | 13:00～16:10 |
| * 誰に（顧客）、何を（商品・サービス）、どのようにして提供するか | | |

(提供方法) の3つ (ビジネスモデル) を明確に

<第3日> 8月21日 (水) * 225教室
 5 絞り込み案のニーズ等調査 9:00~12:00
 6 ビジネスプランのとりまとめ 13:00~16:10

<第4日> 8月22日 (木) * 225教室
 7 発表用ビジネスプランの作成 (図解) 9:00~12:00
 * 226教室
 8 ビジネスプランの発表、講評、表彰、社会人基礎力事後評価 13:00~16:30

* 審査委員・・・最後のビジネスプランは次の審査委員が審査し、表彰します。

株式会社パルメソ社長 松原 亨氏
 長岡技術科学大学教授/テクノインキュベーションセンター長 田辺 郁男氏
 ながおか新産業創造センター長 有本 匡男氏
 産業デザイナー/前長岡造形大学教授 松丸 武氏
 長岡大学長 内藤 敏樹

(4) 展開

- ・平成 25 年 7 月 2 日に、3 大学 1 高専 (長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校) に、ポスター (図表 3-23) を掲示し、4 月時点の履修登録の追加登録の形で、起業家塾への参加学生の募集を開始した。
- ・その結果、長岡大学学生 9 名、長岡工業高等専門学校 3 名、計 12 名の学生が参加することとなった。
- ・チームは、GHQ、田遠神北、とじよぷろ、空間会社ラウムが組織され、テーマ各社の役割は下表の通りであった。

会社名	事業内容	役割	氏名	大学名	学年
GHQ	サイエンスショー ～はばたけ未来のエンジニア～	社長	渡辺 将司	長岡工業高等専門学校	4年
		経理	小川 広太郎	長岡工業高等専門学校	4年
		販売	吉藤 郁弥	長岡工業高等専門学校	4年
田遠神北	新潟の地場産業・伝統工芸の情報発信事業	社長	神田 健太郎	長岡大学	2年
		販売	遠藤 俊一	長岡大学	3年
		経理	北澤 佳祐	長岡大学	3年
		販売	田村 一恵	長岡大学	4年
とじよぷろ	地域密着型イベント事業	社長	東條 仁美	長岡大学	3年
		経理、運営	志田 尚斗	長岡大学	3年
		制作	王 偉志	長岡大学	4年
空間会社ラウム	子供の「心身の成長」と母親の「有意義な時間」をサポートする事業	社長	清水 淳一	長岡大学	3年
		販売、経理	金子 大揮	長岡大学	3年

- ・各チームは図表 3-24 のようなビジネスプランを作成、最終日にプレゼンテーションを行った。厳正な審査の結果、次のような表彰を行った。

*最優秀賞	GHQ
優秀賞	空間会社ラウム
コンテンツ賞	田遠神北
地域振興賞	とじよぷろ

- ・これらビジネスプランのうち、GHQチームがブラッシュアップ作業を行って、新潟県のキャンパスベンチャーに応募したが、受賞を逃した。残念でした。
- ・また、とじよぷろは、十日町市のとうコン（十日町コンテスト）に応募したが、新潟県予選 3位にとどまり、本選に進めなかった。これも残念でした。

(5) まとめー成果と課題ー

- ・まず、夏季集中授業で、かつ 3 大学の単位互換科目にもかかわらず、参加学生数が前年を大きく下回ったことは大いに反省しなければならない（前年は 22 名）。高専は毎年参加いただき感謝しているが、これも前年に比べ減少している。ポスター等掲示時期を前倒しして、広く、長期に、広報する必要がある。
- ・第 2 に、新潟県のキャンパスベンチャー・コンテスト、十日町市のとうコンへの応募は前年同様に継続できたが、結果は残念なものであった。前年は最優秀賞、優秀賞を受賞しており残念な結果となった。今後は、参加人数を増やすとともに、ビジネスアイデアを多数検討できる工夫を考える必要がある。次年度に期待したい。
- ・第 3 に、平成 25 年度は、COC の採択前の授業であったため、その後の対応が十分にできなかったが、次年度からは、社会人の創業セミナー等（長岡地域起業家塾）との融合を検討し、参加学生を拡大する努力が必要である。

新潟県「2013ビジネスグランプリ」新潟編（NB-1グランプリ）に応募します！

長岡大学

長岡地域の
学生諸君！



起業家塾

「モノづくり」「から」「アト」へ、
わくわくビジネスプランをつくってみよう！




8月集中授業 追加募集


8/19(月)~22(木)4日間 締切り 7/26(金)

1	科目	起業家塾（2単位、単位互換科目）長岡大学 226 教室 *各日とも9時~17時
2	目標	起業家精神、社会人基礎力、人間力を養成します。
3	プログラム	数名で会社を立上げ（チーム編成）、ビジネスアイデア出しを行い、調査を踏まえてアイデアを絞り込み、ビジネスプランを作成し、発表します。 ※このプランをベースに「NB-1 グランプリ」に応募します。
4	特別講演	夢の実現をめざしてー創業とはー マコー創業者/株式会社バルメソ社長 松原 亨氏 
5	講師陣	長岡大学特任教授/経営コンサルタント 小松俊樹、長岡大学教授 原田誠司
6	ビジネスプラン審査員	松原 亨 氏 株式会社バルメソ社長 田辺 郁男 氏 長岡技術科学大学教授 有本 匡男 氏 ながおか新産業創造センター長 松丸 武 氏 産業デザイナー/前長岡造形大学教授 内藤 敏樹 長岡大学長 

申込み：7月26日（金）まで、教務学生課で受付中

図表 3-24 ビジネスプランの概要

事業名：サイエンスショー～はばたけ未来のエンジニア～ 会社名：GHQ		
社長	渡辺 将司(長岡工業高等専門学校4年)	
経理	小川 広太郎(長岡工業高等専門学校4年)	
販売	吉藤 郁弥(長岡工業高等専門学校4年)	
コンセプト：はばたけ未来のエンジニア 対象顧客：子を持つ親 提供価値：サイエンスに興味を持つ 子供たちの育成		

事業名：新潟の地場産業・伝統工芸の情報発信事業 サイト名：TEKK 会社名：田遠神北		
社長	神田 健太郎(長岡大学2年)	
販売	遠藤 俊一(長岡大学3年)	
経理	北澤 佳祐(長岡大学3年)	
販売	田村 一恵(長岡大学4年)	
コンセプト：伝統工芸の良さをあなたのそばに 対象顧客：全国の50～80代 贈り物等を探している方 提供価値：新潟県内の伝統工芸のすべてがわかる このサイトでしか手に入らない商品がある		

事業名：地域密着型イベント事業 会社名：とじょぶろ		
社長	東條 仁美(長岡大学3年)	
経理、運営	志田 尚斗(長岡大学3年)	
制作	王 偉志(長岡大学4年)	
コンセプト：ファン・参加者交流型アマチュアバンド支援事業 対象顧客：音楽が好きな人 周りに音楽をしている人がいる人 提供価値：バンドやアイドルと触れあえ、楽しい気分で始まり 楽しい気分で終わる		

事業名：子供の「心身的な成長」と母親の「有意義な時間」をサポートする事業 会社名：空間会社ラウム		
社長	清水 淳一(長岡大学3年)	
販売、経理	金子 大揮(長岡大学3年)	
コンセプト：母と子の癒しと成長の家 対象顧客：子供を持つ親 子供 提供価値：安らぎ 子供の成長		

8 学生満足度調査の実施

(1) 方針・目標

- ・学生満足度調査を、当事業の評価項目を加えて、リニューアルし、より満足度の高い教育内容・方法への改善（FD／SDのベース・評価の改善）を行う。

(2) 平成 25 年度方針・目標

- ・平成 25 年度満足度調査を、平成 26 年 1 月に実施し、とりまとめる（3月）。
- ・実施の前に、満足度調査に意義・位置づけ、調査項目の見直し・検討を行う（COCアンケート項目を付加）。FD／SD会議等で検討する。

(3) 計画

- ・平成 25 年度の学生満足度調査＝「第 9 回長岡大生の生活と大学に関する調査」を、全学生を対象にして、平成 26 年 1 月に実施する。
- ・アンケート調査票は、当初、文部科学省のCOCに関する学生の評価等調査と合わせて実施する計画であったが、文部科学省のアンケート項目が遅れたので、COC関連項目を除いて、実施することとした。

(4) 展開

- ・学生アンケート調査は、平成 26 年 1 月 6 日（月）～17 日（金）の後期最終授業の 2 週間に、ゼミ対象に、実施した。
- ・アンケート集計は、外部の専門企業に依頼し、3 月 5 日に、集計結果を受領した。

(5) まとめー成果と課題ー

- ・集計結果は、概要を印刷し（50 部）、関係者に配布する。他方で、アンケート分析・とりまとめを行い、次年度にブックレット等で、情報発信を行う。
- ・なお、本報告書においては、単純集計結果のみの結果数値を挿入した調査票を報告しておく。

図表 3-25 調査票と単純集計結果

■大学生活への評価について

(n=283)

Q 1. あなたは、現在の大学生活にどの程度満足していますか。

18.0	満 足	60.1	やや満足	15.5	やや不満	5.7	不 満	0.7	無回答
------	-----	------	------	------	------	-----	-----	-----	-----

(n=232)

[2年生以上の人に] SQ 1. 昨年と比べて大学生活の満足感は上がっていますか、下がっていますか。

24.6	昨年より上がっている	59.5	昨年と変わらない	14.7	昨年より下がっている	1.3	無回答
------	------------	------	----------	------	------------	-----	-----

(n=283)

Q 2. では、つぎの a～g の点について、あなたは現在どの程度満足していますか。 (それぞれ○は1つだけ)

	満 足	や や 満 足	や や 不 満	不 満	無 回 答
a) 設備・施設	23.7	47.3	19.8	8.8	0.4
b) 授業科目	22.3	54.8	19.8	3.2	—
c) 教員	34.3	55.1	9.5	1.1	—
d) 事務職員	51.9	42.4	3.5	1.4	0.7
e) クラブ・サークル	24.7	48.8	20.1	6.0	0.4
f) 学校の雰囲気	20.5	47.3	24.7	6.7	0.7
g) 学生間の人間関係	27.6	50.9	17.0	4.2	0.4

(n=283)

Q 3. あなたは、現在の大学生生活はどの程度充実している (有意義に過ごしている) と感じていますか。

20.5	充実している	52.3	やや充実している	21.2	あまり充実していない	6.0	充実していない
------	--------	------	----------	------	------------	-----	---------

(n=232)

[2年生以上の人に] SQ 1. 昨年と比べて大学生活の充実感は上がっていますか、下がっていますか。

29.3	昨年より上がっている	56.0	昨年と変わらない	13.4	昨年より下がっている	1.3	無回答
------	------------	------	----------	------	------------	-----	-----

(n=283)

Q 4. 大学生になってから達成・向上したいと思っていたことが、現在あなたはどの程度達成・向上できたと感じていますか。

12.4	かなり達成・向上できたと感じている	59.4	やや達成・向上できたと感じている	21.9	あまり達成・向上できたと感じていない	6.4	達成・向上できたと感じていない
------	-------------------	------	------------------	------	--------------------	-----	-----------------

(n=232)

[2年生以上の人に] SQ 1. 昨年と比べて達成・向上感は上がっていますか、下がっていますか。

30.6	昨年より上がっている	59.9	昨年と変わらない	8.2	昨年より下がっている	1.3	無回答
------	------------	------	----------	-----	------------	-----	-----

■あなたの変化について

(n=283)

Q5. 過去1年間のあなたの変化について、次のa～fのことはどの程度あてはまりますか。

(それぞれ○は1つだけ)

	よくあてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答
a) 卒業後の目標が大きく変わった	22.3	34.6	35.0	8.1	—
b) 就職について具体的に考えるようになった	40.6	38.2	14.5	6.0	0.7
c) 卒業後に進みたい方向が段々と固まってきた	28.3	36.4	29.3	6.0	—
d) 大学での勉強の面白さを感じるようになった	16.6	44.5	28.3	10.2	0.4
e) 授業の内容と自分が将来やりたいことの結びつきを感じるようになった	15.5	34.6	41.0	8.8	—
f) 自分の興味・関心にしたがって、自主的に学ぶようになった	22.3	46.3	26.5	4.9	—

(n=283)

Q6. つぎのa～iの能力は、在学中にどの程度伸びたと思いますか。また、自分の実力はどの程度あると思いますか。

	能力はどの程度伸びたか (それぞれ○は1つだけ)					自分の実力は (それぞれ○は1つだけ)				
	伸びた	ある程度伸びた	あまり伸びていない	伸びていない	無回答	十分である	まあ十分である	やや十分である	不十分である	不十分である
a) 論理的に文章を書く力	11.3	48.1	35.0	5.7	—	5.3	25.4	45.2	17.7	6.4
b) 人にわかりやすく話す力	13.8	45.6	32.2	8.1	0.4	6.0	29.0	43.5	14.8	6.7
c) ものごとを分析的・批判的に考える力	16.6	48.4	29.7	5.3	—	7.8	41.7	35.3	8.5	6.7
d) 問題を見つけ、解決方法を考える力	15.9	53.0	26.5	4.6	—	6.7	39.9	35.0	12.0	6.4
e) 幅広い知識、ものの見方	19.4	48.8	26.5	4.9	0.4	10.6	36.0	36.4	10.2	6.7
f) 外国語の力	8.1	22.6	33.9	35.0	0.4	4.2	13.4	28.6	47.3	6.4
g) 将来の職業に関連する知識や技能	11.0	47.0	33.6	8.5	—	4.9	31.1	42.0	14.8	7.1
h) 専門分野での知識・理解	12.4	44.2	34.3	9.2	—	4.2	31.1	42.8	15.5	6.4
i) 専門分野の基礎となるような理論的 理解・知識	8.8	43.5	37.5	9.9	0.4	4.9	28.3	46.6	13.4	6.7

■勉学と目標について

(n=283)

Q7. あなたは勉強が好きですか、それとも嫌いですか。

11.0	好き	36.7	やや好き	29.3	やや嫌い	21.9	嫌い	1.1	無回答
------	----	------	------	------	------	------	----	-----	-----

(n=283)

Q8. この1年間、どのようなことに力をいれましたか。また、そこから得たものをどう評価しますか。

	力をいれたか (それぞれ〇は1つだけ)					得たもの (それぞれ〇は1つだけ)				
	力をいれた	ある程度 入れた	あまり 入れた	入れなかった	入れなかった	無回答	大きい	ある程度 大きい	あまりない	あまりない
a) 教養科目	155	54.1	20.1	102	—	10.6	52.3	24.0	9.5	3.5
b) 専門科目	21.9	55.1	17.3	5.3	—	17.7	50.2	21.9	6.0	4.2
c) 語学学習	12.0	36.0	32.2	18.7	1.1	9.5	31.8	39.6	14.5	4.6
d) ゼミ活動	32.5	49.1	15.5	2.8	—	28.3	44.9	18.4	3.5	4.9
e) 資格取得の学習	17.0	33.9	24.0	25.1	—	14.8	30.0	27.2	24.4	3.5
f) 海外経験 (旅行も含む)	6.4	12.4	11.3	70.0	—	6.4	10.2	11.3	68.2	3.9
g) インターンシップ	9.5	10.2	13.1	65.4	1.8	9.2	10.6	10.6	65.4	4.2
h) ボランティア活動 (カリキュラム外も含む)	10.2	17.7	23.3	48.4	0.4	12.7	17.3	19.4	47.0	3.5
i) サークル・同好会活動	22.6	27.9	23.7	25.4	0.4	23.0	26.1	22.6	25.1	3.2
j) アルバイト	36.7	29.0	10.2	23.7	0.4	33.9	26.9	11.3	24.4	3.5
k) 友達づきあい	37.1	39.9	17.3	5.3	0.4	36.4	38.2	16.3	4.9	4.2
l) (4年生のみ) 進学の準備 (n=101)	27.7	22.8	6.9	39.6	3.0	20.8	20.8	11.9	37.6	8.9
m) (4年生のみ) 就職活動 (n=101)	49.5	28.7	11.9	8.9	1.0	44.6	28.7	10.9	7.9	7.9

(n=283)

Q9. 大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

(それぞれ〇は1つだけ)

	最も重要	重要	ある程度重要	重要でない	無回答
a) 将来の仕事に活かせる能力を身につける	36.0	51.6	9.2	2.8	0.4
b) 資格試験、公務員試験などに合格する	23.0	43.5	25.8	7.1	0.7
c) 専門分野の知識・理解を深める	25.8	58.3	13.1	2.5	0.4
d) 広い教養、ものの見方を身につける	41.3	49.1	7.8	1.4	0.4
e) 自分の将来の方向を見つける	49.8	41.0	7.8	1.1	0.4
f) 社会人になるまでの時間をエンジョイする	37.5	41.3	18.4	2.5	0.4
g) 有意義な人間関係を築く	47.3	41.7	9.2	1.4	0.4

■授業について

(n=283)

Q10. あなたは今学年どの位大学にきていますか。また、授業にはどの位出席していますか。

今学年中、大学に来ている日	平均週に 3.81 日	授業への出席率	平均 8.20 割
---------------	-------------	---------	-----------

(n=283)

Q11. つぎにあげたa～tの事柄について、あなたはどのように取り組んでいますか。

(それぞれ○は1つだけ)

	あてはまる ある程度	あてはまる あまり	あてはまらない あまり	あてはまらない	無回答
a) 授業に必要な教科書・資料、ノートなど毎日持参する	53.7	36.7	7.8	1.8	—
b) 履修登録した科目は途中で投げ出さない	47.0	30.4	15.9	6.0	0.7
c) 授業で出された宿題や課題をきちんとする	31.1	46.3	19.1	3.5	—
d) 授業に遅刻しないようにする	37.1	41.0	18.4	3.5	—
e) 興味がわからない授業でもきちんと出席する	38.2	44.2	14.8	2.5	0.4
f) レポートやテストを提出する前に見直す	30.4	43.5	20.8	5.3	—
g) できるかぎりよい成績をとろうとする	36.0	43.1	18.0	2.8	—
h) 授業で配布された資料などを整理する	32.5	41.0	23.7	2.1	0.7
i) グループワークやディスカッションで自分の意見を言う	21.2	44.2	29.7	4.6	0.4
j) グループワークやディスカッションに積極的に参加している	20.1	43.1	31.4	4.9	0.4
k) グループワークやディスカッションでは、進んでまとめ役をする	12.7	31.8	39.9	15.2	0.4
l) クラス全員の前で、積極的に質問する	7.8	29.0	40.3	22.3	0.7
m) グループワークやディスカッションでは、異なる意見の立場に配慮する	17.7	49.5	26.1	6.4	0.4
n) 授業に興味を持ったことについて主体的に勉強する	18.7	42.8	33.2	5.3	—
o) 授業とは関係なく、興味を持ったことについて自主的に勉強する	22.6	45.2	26.9	4.9	0.4
p) 授業でわからなかったことは、自分で調べる	17.7	42.8	32.2	7.4	—
q) 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている	15.2	35.3	35.0	14.5	—
r) 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる	10.2	29.7	42.0	18.0	—
s) 計画を立てて勉強する	12.7	33.2	36.7	17.0	0.4
t) 自分の意思で継続的に勉強する	17.3	36.7	34.6	11.0	0.4

■生活全般について

(n=283)

Q12. アルバイトをしていますか。

61.8 している	36.0 していない	2.1 無回答
-----------	------------	---------

(n=283)

Q13. 学友会の活動に参加していますか。

14.1	積極的に活動	31.8	たまに参加した	54.1	参加していない
------	--------	------	---------	------	---------

(n=283)

Q14. サークル・同好会に所属していますか。

21.6	スポーツ系に所属	30.4	文化系に所属	0.7	無回答
13.8	スポーツ系・文化系ともに所属	33.6	どちらにも所属していない		

(n=232)

[2年生以上の人に] SQ1. 活動の状況はどうですか。

28.4	積極的	37.1	あまり積極的ではない	28.4	積極的ではない	6.0	無回答
------	-----	------	------------	------	---------	-----	-----

(n=283)

Q15. 今学年の学園祭(悠久祭)に参加しましたか。

58.7	実行委員・模擬店・ライブ・イベントなどで参加した	21.9	見に来なかった
19.4	見に来ただけ		

(n=55)

[見に来ただけの人に] SQ1. どのような方と見に来ましたか。(あてはまるものすべてに○)

47.3	本学の友人	29.1	本学以外の友人	5.5	家族
0.0	その他の人()	23.6	自分ひとり	5.5	無回答

(n=283)

Q16. あなたは、次のことを親(父や母)と話し合うことがどの程度ありますか。(それぞれ○は1つだけ)

	よくある	あるときどき	あまりない	ほとんどない	無回答
a) 将来の生き方や人生について	29.0	41.7	19.8	9.5	—
b) 資格や勉強について	19.8	43.1	23.3	13.4	0.4
c) 就職について	36.0	43.5	13.8	6.4	0.4
d) アルバイトについて	31.1	33.9	19.4	15.5	—
e) 健康・病気について	26.1	31.8	21.9	20.1	—

(n=283)

Q17. どのような友達が、困ったときに助けてくれますか。(それぞれ○は1つだけ)

	よくある	あるときどき	あまりない	ほとんどない	無回答
a) ゼミの友達	21.2	37.5	23.0	18.0	0.4
b) サークル・同好会の友達	24.4	32.9	18.4	23.7	0.7
c) 大学内のゼミ、サークル・同好会以外の友達	33.2	38.9	12.4	15.2	0.4
d) 大学以外の友達	47.0	33.9	11.7	7.1	0.4

■あなた自身をどう思っているか

(n=283)

Q18. 次の特徴のおのおのについて、あなた自身にどの程度あてはまりますか。他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどのように思っているかを、ありのままに教えてください。

(それぞれ○は1つだけ)

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	ややあてはまらない	あてはまらない	無回答
a) 少なくとも人並みには、価値のある人間である	18.4	36.4	29.7	7.8	7.4	0.4
b) 色々な良い素質を持っている	12.0	35.0	34.3	11.7	6.7	0.4
c) 敗北者だと思ふことがよくある	16.6	28.6	31.8	12.0	10.6	0.4
d) 物事を人並みには、うまくやれる	12.7	38.2	32.2	11.3	4.6	1.1
e) 自分には、自慢できるところがあまりない	15.5	31.8	31.8	14.8	5.7	0.4
f) 自分に対して肯定的である	12.0	26.5	40.3	15.2	5.7	0.4
g) だいたいにおいて、自分に満足している	11.3	23.3	26.1	22.6	16.3	0.4
h) もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	30.7	39.9	19.4	5.7	3.9	0.4
i) 自分は全くだめな人間だと思ふことがある	18.4	37.8	25.8	9.2	8.5	0.4
j) 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思ふ	13.4	31.8	33.6	10.2	9.9	1.1

(n=283)

Q19. あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

(それぞれ○は1つだけ)

	よくある	あるときどき	あまりない	ほとんどない	無回答
a) 生活に熱意がわかない	16.6	42.8	30.7	9.5	0.4
b) 友達のことでの悩みがある	10.2	27.6	37.5	24.4	0.4
c) 先生のことでの悩みがある	5.3	18.7	42.4	33.2	0.4
d) 授業の内容についていっていない	10.2	34.6	38.2	16.3	0.7
e) 授業に興味・関心がわかない	14.5	43.5	30.0	11.3	0.7
f) 進級や卒業ができるか心配だ	22.6	34.3	22.6	19.8	0.7
g) 他の学科に移りたい	6.0	11.0	33.9	48.8	0.4
h) 他の大学や学校に入り直したい	12.7	25.4	26.1	35.3	0.4
i) 大学を辞めたい	6.4	17.0	27.6	48.4	0.7
j) 経済的に勉強を続けることが難しい	4.2	19.1	34.6	41.7	0.4
k) まわりの学生がやる気がない	16.6	35.7	31.4	15.5	0.7
l) やりたいことが見つからない	19.4	34.3	27.9	18.0	0.4
m) 就職活動が思い通りに行かない	14.1	25.4	28.6	30.7	1.1

(n=283)

Q20. 次のことについて、あなたはどの程度経験したことがありますか。

(それぞれ○は1つだけ)

	よく経験した ことがある	少しは経験した ことがある	あまり経験した ことがない	全く経験した ことがない	無 回 答
a) 困っているとき友人に助けを求めたら、力になってくれた	37.1	50.9	9.9	2.1	—
b) 友人の悩みを聞いてあげたら、感謝された	36.4	45.9	13.1	4.6	—
c) 頑張って勉強したら、先生に評価された	21.9	49.1	23.0	6.0	—
d) 思いやりを持って他人に接していたら、友人が増えた	25.4	48.4	21.6	4.6	—
e) 友人とじっくりつき合ったら、お互いにわかりあえた	31.8	49.5	14.8	3.5	0.4
f) 友人のために自分のできることをしてあげたら、とても喜んでくれた	31.1	51.6	13.4	3.9	—
g) とても悩んだときに親しい友人に相談したら、わかってもらえた	29.0	47.3	19.1	4.2	0.4
h) 親友と会って、自分のことを好きになった	19.4	37.8	30.7	11.3	0.7
i) 積極的に話しかけたら、友人がたくさんできた	23.7	45.2	21.9	8.8	0.4
j) 自分を正直に出したら、友人がふえた	21.9	45.2	22.3	10.6	—
k) つらいことがあったときに、信頼している先生に相談したら、親身になって相談にのってくれ、はげましてくれた	19.4	40.3	26.9	13.1	0.4
l) 特技などで自分がうまくできると、親はよろこんでくれた	21.6	42.8	23.7	11.7	0.4
m) 特技で頑張ったら、先生から評価された	12.7	40.6	32.9	13.8	—
n) はじめは苦手だと思っていた友人でも、時間をかけてつきあったら仲良くなれた	18.7	48.1	24.4	8.5	0.4
o) つらいことがあったときに親に心を打ち明けたら、はげましたりなぐさめたりしてくれた	17.7	42.0	24.4	15.9	—
p) 特技で頑張ったら、親から期待された	17.0	33.9	33.2	15.9	0.0
q) ちょっと気楽なおしゃべりがしたいとき、親が友達のように話し相手になってくれた	23.7	41.3	20.8	13.8	0.4
r) 家族とはどんな話題でも、たいい話が弾む	25.8	45.6	18.4	9.9	0.4

(n=283)

Q 2 1. つぎにあげた a ~ l の「力」が、あなたにはどの程度あると思っていますか。(それぞれ○は1つだけ)

	あ る	や や あ る	あ ま り な い	な い	無 回 答
a) 人からの指示を待つのではなく、自分からやらなくてはいけない ことを見つけて積極的に取り組むなど「物事に進んで取り組む力」	14.8	53.4	24.4	6.0	1.4
b) “やろうじゃないか”と呼びかけ、目的に向かってまわりの人を動 かしていくなど、「他人に働きかけ巻き込む力」	13.8	32.9	40.3	11.3	1.8
c) 言われたことをやるだけではなく自分から目標を設定し、失敗を 恐れずに行動に移し、粘り強く取り組むなど、「目標を設定し確実に 行動する力」	17.3	43.8	30.7	6.7	1.4
d) 目標に向かって、自分から“ここに問題があり、解決が必要だ” と提案するなど、「現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」	19.4	43.1	30.0	6.0	1.4
e) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、“その中で最善の ものは何か”を検討し、それに向けた準備をするなど、「課題の解 決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」	13.8	40.3	36.4	8.1	1.4
f) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える など、「新しい価値を生み出す力」	15.2	40.6	33.9	8.5	1.8
g) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもら う的確に伝えるなど、「自分の意見をわかりやすく伝える力」	11.3	38.9	40.3	7.8	1.8
h) 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問をして 相手の意見を引き出すなど、「相手の意見をていねいにきく力」	26.5	48.1	21.9	2.1	1.4
i) 自分のルールややり方にこだわるのではなく、相手の意見や立場 を尊重し理解するなど、「意見の違いや立場の違いを理解する力」	25.4	50.9	19.4	2.8	1.4
j) チームで仕事をする時、自分がどのような役割を果たすべきかを 理解するなど、「自分とまわりの人々や物事との関係性を理解する 力」	24.4	51.6	19.4	2.8	1.8
k) 状況に応じて、社会のルールに従って自分の発言や行動を適切に 律するなど、「社会のルールや人との約束を守る力」	35.3	47.7	13.8	1.4	1.8
l) ストレスを感じるがあっても、自分が成長する機会だとポジ ティブに捉えて肩の力を抜いて対応するなど、「ストレスの発生源 に対応する力」	20.1	43.1	26.1	9.2	1.4

(n=283)

Q 2 2. 「長岡大学」に入学したことについて、あなたはどのように思っていますか。

19.8	良かった	52.7	まあ良かった	19.8	少し後悔している	6.4	後悔している	1.4	無回答
------	------	------	--------	------	----------	-----	--------	-----	-----

(n=283)

Q 2 3. あなたは「長岡大学の学生」であることに誇りを持っていますか。

13.1	誇りを持っている	37.5	やや誇りを持っている	32.2	あまり誇りを持っていない	15.9	誇りを持っていない	1.4	無回答
------	----------	------	------------	------	--------------	------	-----------	-----	-----

■最後にあなた自身について

(n=283)

F 1. 性別

73.1	男	25.8	女	1.1	無回答
------	---	------	---	-----	-----

(n=283)

F 2. 学年

18.0	1年生	19.8	2年生	26.5	3年生	35.7	4年生
------	-----	------	-----	------	-----	------	-----

(n=283)

F 3. 卒業高校の学科

79.2	普通科	6.7	商業科	2.1	工業科	10.6	その他	1.4	無回答
------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----

(n=283)

F 4. 出身地

80.9	新潟県内	3.5	新潟県外	13.8	中国	0.7	モンゴル	1.1	無回答
------	------	-----	------	------	----	-----	------	-----	-----

(n=283)

F 5. 現在の住まい

61.1	自宅	37.5	自宅外	1.4	無回答
------	----	------	-----	-----	-----

(n=283)

F 6. 現在の健康状態

51.6	良好	37.8	やや良好	7.4	やや悪い	2.1	悪い	1.1	無回答
------	----	------	------	-----	------	-----	----	-----	-----

(n=283)

F 7. 現在の体力

24.0	自信がある	34.6	やや自信がある	28.3	あまり自信がない	12.0	自信がない	1.1	無回答
------	-------	------	---------	------	----------	------	-------	-----	-----

(n=75)

F 8. [3年生に] 卒業後の進路 (予定)

90.7	就職する	5.3	大学院に進学する	2.7	決めてない	1.3	無回答
------	------	-----	----------	-----	-------	-----	-----

(n=68)

[就職すると答えた人に] SQ 1. 就職 (応募) したい会社や職種がありますか。職種とは「営業」「事務」など職種の種類の事です。

41.2	就職したい会社がある	29.4	就職したい会社はないが職種がある
23.5	特にないので大学などの意見を聞いて決めたい	0.0	その他 ()
4.4	わからない	1.5	無回答

(n=101)

F 9. [4年生で就職希望の人に] 就職先（内定）は決まっていますか。

74.3	決まっている	12.9	決まっていない	12.9	無回答
------	--------	------	---------	------	-----

(n=75)

[決まっていると答えた人に] SQ1. 内定した時期はいつですか。（2社以上内定の場合は一番早い内定の月を、内定を取り消した場合は取り消した会社の内定した月をお知らせください）

2.7	3月以前	24.0	4月～5月	17.3	6月～7月
22.7	8月～9月	25.3	10月～11月	8.0	12月以降

(n=101)

F 10. [4年生で就職希望の人に] 就職について、どの程度満足していますか。

31.7	満 足	39.6	やや満足	7.9	やや不満	5.0	不 満	15.8	無回答
------	-----	------	------	-----	------	-----	-----	------	-----

(n=101)

F 11. [4年生全員に] あなたは、これまで（約4年間）の大学生活を振り返って、どの程度満足していますか。

27.7	満 足	47.5	やや満足	12.9	やや不満	5.0	不 満	6.9	無回答
------	-----	------	------	------	------	-----	-----	-----	-----

※ 質問はこれで終わりです。お答えいただきありがとうございました。

IV 研究における事業展開

0 <研究>の取組

研究の取組の柱は、①課題対応の調査研究と地域還元、②課題対応の調査研究の準備、③課題対応の地域志向教育研究、の3つである。

1 課題対応の調査研究と地域還元－産業競争力調査研究－

(1) 方針・目標

- ・5年間における課題対応の調査研究のテーマは次の通りである。いずれも、シンポジウム・報告書等で成果の地域還元を行う。
 - *平成25年度→長岡地域産業（製造業等）競争力に関する調査研究
 - *平成26年度→長岡地域<創造人材>に関する調査研究
 - *平成27年度→少子高齢化・人口減少に関する調査研究
 - *平成28年度→ボランティア活動に関する調査研究
 - *平成29年度→各テーマの指針、提言の作成、地域還元

(2) 平成25年度方針・目標

- ・「新潟・長岡地域産業（製造業等）競争力に関する調査研究」を実施し、その成果（提言、報告書）を公開シンポジウム等の形で、社会還元を行う。
- ・まず、9月アンケート調査→10月集計、ヒアリング、第1次報告書（シンポ発表用）作成→11月シンポの日程で進める。その後、企業ヒアリング等を行い、3月に報告書・提言をまとめる。11月シンポは、地域連携研究センターの設立記念もかねて行う。終了後パーティー。
- ・長岡市、新潟県、長岡商工会議所等と連携し、ネットワーク形成と提言具体化に力を入れた。企業ヒアリングも行う。

(3) 計画

- ・「新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査」を平成25年9月に実施し、集計を行った。依頼状および調査票は図表4-1、4-2を参照。
- ・「グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ!」をテーマとするシンポジウムを平成25年11月22日に開催し、その基調報告で同上調査結果を報告し、報告をもとにシンポジウムで討論した。案内は図表4-3を参照。

(4) 展開

A 産業競争力調査の概要

- ・「新潟・長岡地域産業（製造業等）競争力に関する調査研究」の詳細は、報告書『新潟・長岡地域における産業競争力の現状と強化の方向』を参照されたい。
- ・結果の概要は次の通りである。
 - ① 県内製造業企業820社に調査票を送付し、有効回数は67社、回収率8.0%であった。このうち、自社ブランド型企业26社(38.8%)、OEM型企业11社(16.4%)、加工專業型企业16社(23.9%)、無回答14社(20.9%)であった。

- ② 企業の業態別に「強み」見ると、自社ブランド型企業が生産機能（約 45%）以外の開発機能（30%）、販売機能（20%）にも自社の「強み」を見出しているが、OEM型企业と加工專業企業は生産機能が圧倒的に多く（80～90%）、開発、販売機能には強みがないと認識している。
- ③ 今後の競争力強化策としては、開発力では「開発人材の確保・強化」、生産力では「生産の流れ改善指導人材の育成・強化」、販売力では「顧客ニーズの把握強化」、組織力では「生産マネジメント指導人材育成」がほぼ3業態に共通して、第1位にあげられた。
- ④ 行政等による望ましい支援策は、「生産性向上指導人材の育成・支援」、「試作・事業化資金の支援」、「技術開発資金の支援」が第1位から3位にあげられた。しかし、「産学連携の推進支援」、「海外展開への支援」、「コーディネーターによる事業・経営支援」、「経営諸専門人材の育成支援」、「ICTの活用支援」、「創業・起業人材育成支援」などの支持割合は低い。これらの諸支援策は良好なビジネス環境づくりをめざすものであり、今後の整備・強化方策としては、非常に重要である。

B シンポジウムの開催

- ・「グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ!」をテーマとするシンポジウムは、「2013長岡大学地域連携研究センター設立記念シンポジウム」として、平成25年11月22日に開催され、約100名の企業経営者等の参加をえて、開催された。
- ・基調報告は、調査担当者の原田誠司が「新潟・長岡地域における産業競争力の現状と方向」を報告した。
- ・後半のシンポジウムは、「グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ! -新潟・長岡地域製造業を中心に-」をテーマに、次の産官学メンバーが討論を行った。内容は、平成26年度11月刊行予定の長岡大学『地域連携研究年報』に掲載する予定である。同年報を参照されたい。

<パネリスト>

株式会社小西鍍金 代表取締役社長/NPO 長岡産業活性化協会理事長	小西 統雄 氏
株式会社大菱計器製作所 代表取締役社長	島津 克吉 氏
小川コンベヤ株式会社 取締役社長	小川 智史 氏
株式会社システムスクエア 代表取締役社長	山田 清貴 氏
新潟県工業技術研究所 所長	野中 敏 氏
公益財団法人にいがた産業創造機構 経営支援グループ長	目黒 正義 氏
長岡大学特任教授/経営コンサルタント	小松 俊樹

<コーディネーター>

長岡大学副学長	原田 誠司
---------	-------

(5) まとめ—成果と課題—

- ・産業競争力に関する調査研究は、製造業アンケート調査結果は明確な結論を導くことができた。つまり、生産機能では、現場の生産性向上による競争力強化を指導する人材の強化が明確になり、長岡市の「ものづくりインストラクター養成スクール」の重要性（長岡大学の「ものづくりマネジメント人材養成講座」）が確認された。しかし、他方で、開発力強化が求

められているにもかかわらず、産学連携等は評価されていない（十分機能していない）ことがあきらかになった。

- ・ 今後は、このビジネス環境の再構築に焦点をあてて、産官学の連携を強化していく必要がある。ただし、企業ヒアリング等が十分に実施できなかったので、次年度には補足ヒアリングを行うとともに、連携強化方策等課題についてとりまとめ提言する必要がある（平成26年度『地域連携研究年報』掲載予定）。



図表4-1 産業競争力調査依頼状

平成25年9月
長岡大学地域連携研究センター

「新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査」

ご協力をお願い

残暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より長岡大学地域連携研究センターの活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。当センターは平成25年9月に、地域研究センターと生涯学習センターを再編して、設立されます。今後とも、旧来に増して、地域の発展に向けて活動を進めてまいります。

さて、当センターでは毎年、「長岡地域企業の成長・発展のための基礎調査」を行ってまいりましたが、今年度は、従来の調査の継続性を保ちつつも、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採用された長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」のテーマの1つである、＜長岡地域の産業競争力の現状と課題＞を明らかにする目的で、「新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査」を実施することとしました。ぜひ、このアンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

次の通り、実施させていただきますのでよろしくお願ひします。

・・・・・・・・・・アンケート調査要領・・・・・・・・・・

1 ご回答の方法について

- ・ご回答は、同封の「長岡大学・産業競争力基礎調査・回答欄」（回答用紙）に記入してください。
- ・ご回答の返送方法は、同上の回答用紙を、①同封の返信用封筒に入れて返送、②FAXにて返送、③電子メールより返送、のどの方法でも結構です。

*FAX番号→0258-39-9566

*電子メールでのご回答方法→

長岡大学ホームページ（URL <http://www.nagaokauniv.ac.jp>）のトップページ右側バナー「新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査」をクリックしていただきますと、本アンケート回答用紙ファイル（Word）のダウンロード・コーナーに移動できます。ダウンロードしたWordファイルに回答をご入力いただき、chiken@nagaokauniv.ac.jpへ添付ファイルで送信下さい。

- ・ご回答の締切りは、平成25年9月20日（金）とさせていただきます。

2 アンケート結果の発表について

- ・本アンケート集計結果は、平成25年11月15日開催予定の「長岡大学地域連携研究センター・シンポジウム」で、発表する計画です。同シンポジウムについては、後ほどご案内いたします。
- ・本アンケート集計結果の送付を希望されるご回答企業の皆様には、集計結果を10月中にはご送付します。

3 その他

- ・本アンケート調査の結果は統計的に処理され、上記の調査目的以外に用いることはありません。ご回答にご協力くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

<お問合せ先>

〒940-0828 長岡市御山町80-8 長岡大学地域連携研究センター（担当）久保、山田

TEL：0258-39-1600（代） 0258-39-1902（直通）

FAX：0258-39-9566

E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

図表4-2 産業競争力調査票

* この調査票のご回答は、別添の回答用紙の回答欄にご記入ください。

新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査

I 貴社の概要について、お伺いします。

- 1 貴社はいつ創業（開業）しましたか。西暦年で、ご記入ください。
- 2 現在の資本金はどのくらいですか。百万円単位で、ご記入ください。
- 3 現在の従業者総数はどのくらいですか。人単位で、ご記入ください。
- 4 前期の決算期（年間）で、売上高はどのくらいでしたか。百万円単位で、ご記入ください。
- 5 貴社はどの業種に属しますか。工業統計で回答している業種の番号を1つ、ご記入ください。

1 食料品	2 飲料・飼料・たばこ	3 繊維	4 木材・木製品	5 家具・装備品
6 パルプ・紙・紙加工品	7 印刷・同関連	8 化学	9 石油製品・石炭製品	
10 プラスチック	11 ゴム製品	12 なめし革・同製品	13 窯業・土石	14 鉄鋼
15 非鉄金属	16 金属製品	17 はん用機械	18 生産用機械	19 業務用機械
20 電子部品・デバイス等	21 電気機械	22 情報通信機械	23 輸送用機械	24 その他

II 貴社の主な製品について、お伺いします。

- 1 貴社の主な製品・加工品は何ですか。前期決算期の売上高ベースでみて、第1位と2位の製品・加工品、さらにその製品等の用途製品分野（産業、業種）を、ご記入ください。
* 事例：サイドミラー（製品）→自動車（用途製品分野）
- 2 上記製品等で市場シェア（世界、日本全国）が高いものがありましたら、製品名、シェア、順位をご記入ください。
- 3 前期決算の総売上高のうち、自社ブランド製品、OEM製品（相手先ブランド品）、加工品のそれぞれの割合を、ご記入ください。

III 貴社（事業所）の強み＝競争力について、お伺いします。

企業の機能は大きく、開発－生産－販売－組織の4つの連鎖で把握できると思います（いわゆる価値連鎖＝バリューチェーンの観点）。これら4つの局面を構成する強みについて図表1に整理してみました。以下の問にお答えください。

図表1 強み選択欄

【A開発】	1 商品企画力 2 新製品の開発 3 ニーズ対応の柔軟な開発 4 開発期間の短さ 5 開発コストの低さ 6 その他（ ）
【B生産】	7 購買の優位 8 高精度・特殊な加工力 9 独自の技術力 10 生産管理技術の優位 11 ニーズ対応の柔軟な生産 12 ジャストインタイムの生産 13 多種少量生産への適応 14 正確な納期・短納期 15 生産コストの低さ 16 その他（ ）
【C販売】	17 価格面の優位 18 品質面の信頼性 19 ブランド確立 20 市場シェアの高さ 21 効率的な流通システム 22 アフターサービスの充実 23 顧客ニーズ対応の仕組み 24 その他（ ）
【D組織】	25 経営理念が明確 26 経営戦略が明確 27 経営組織が柔軟な対応可能 28 資金力 29 その他（ ）

- 1 企業の特徴を見るときに、「開発に強い会社」とか、「販売に強い会社」などという言い方をしますが、そういう特徴づけで言ったときに、貴社の特徴は、上記図表1のA開発～D組織の4つの機能のどこにあると認識していますか。A～Dのうち該当する記号を1つご記入ください。

- 2 では次に、より具体的に、貴社の強み＝競争力は4つの機能を構成する29の項目(上記図表1)のどこにあると認識されていますか。1～29のうち該当する番号をご記入ください(いくつでも結構です)。
- 3 貴社の利益の源泉という観点からすると、上記29項目(上記図表1)のうちどこが利益に貢献していると認識していますか。1～29のうち利益貢献度が高い番号を5つまでご記入ください。
- 4 企業間の競争は激化していますが、貴社の強みへの「脅威」になるのは、どのような企業だと認識していますか。下欄から、主な「脅威」となるものを2つまで選んで番号をご記入ください。
- | | | |
|------------|-----------|------------------|
| 1 国内の競合他社 | 2 海外の競合他社 | 3 材料等仕入れ先会社(購買面) |
| 4 製品の販売先会社 | 5 代替品販売会社 | 6 新規参入会社 |
| 7 その他() | | |
- 5 上記の競合企業の「脅威」への対応も含めて、今後、上記29項目(上記図表1)のうちどこを強化・充実していこうとお考えですか。1～29のうち該当する番号をご記入ください(いくつでも結構です)。

IV 海外展開と事業所立地について、お伺いします。

- 1 貴社は、現在、海外展開(取引)を行っていますか。1つ選んで、番号をご記入ください。
- | | | |
|----------|------------------|----------|
| 1 行っている | 2 検討中、あるいは検討する予定 | 3 行っていない |
| 4 その他() | | |
- 2 上記IV-1で、「1」または「2」をお答えの方にお伺いします。どのような海外展開(取引)ですか。下欄からいくつでも選んで、番号をご記入ください。
- | | | | |
|----------|------------|------------|-----------|
| 1 直接投資 | 2 直接貿易(輸出) | 3 直接貿易(輸入) | 4 業務・技術提携 |
| 5 その他() | | | |
- 3 海外展開(取引)を主に行っている、あるいは検討中の国・地域はどこですか。下欄からいくつでも選んで、番号をご記入ください。
- | | | | | | |
|---------------|------|------|---------|---------------|----------|
| 1 中国 | 2 韓国 | 3 台湾 | 4 タイ | 5 ベトナム | 6 インドネシア |
| 7 その他アジア諸国() | | 8 米国 | 9 欧州() | 10 その他国・地域() | |
- 4 海外展開(取引)の目的は何ですか。下欄から3つまで選んで番号をご記入ください。
- | | | |
|-------------------|--------------|----------------|
| 1 海外市場の拡大 | 2 低コスト生産のため | 3 取引先が海外進出したため |
| 4 海外人材や技術の取り込みのため | 5 為替リスク回避のため | 6 その他国() |
- 5 市場のグローバル化・自由化に対応して、貴社はどのような事業所(本社・開発・生産・販売機能)立地が望ましいとお考えですか。下欄から1つ選んで、番号をご記入ください。
- | |
|---------------------------------------|
| 1 本社・開発・生産・販売とも県内(国内)に継続立地 |
| 2 本社・開発・生産は県内(国内)立地－販売は世界展開(国内含む) |
| 3 本社・開発・マザー工場は県内(国内)立地－生産・販売は世界展開(同上) |
| 4 本社・開発は県内(国内)立地－生産・販売は世界展開(同上) |
| 5 本社は県内(国内)立地－開発・生産・販売は世界展開(同上) |
| 6 その他() |
- 6 海外展開(取引)に向けて、行政等の望ましい支援策は何ですか。下欄から2つまで選んで番号をご記入ください。
- | | | |
|---------------|-----------------|--------------|
| 1 海外諸情報の提供 | 2 海外展開の手法・手順の提供 | 3 海外見本市出展の支援 |
| 4 海外企業とのマッチング | 5 海外展開人材育成の支援 | 6 金融・為替面の諸支援 |
| 7 その他() | | |

V 今後の企業競争力強化策について、お伺いします。

- 1 日本経済は上向きそうですが、貴社の業績見通しはいかがですか。前期決算に比べ、今期の売上高、営業利益、従業員数はどうなりそうですか。下欄からそれぞれ1つ選んで、ご記入ください。

1 増加する 2 やや増加する 3 ほとんど変わらない 4 やや減少する
5 減少する 6 その他 ()

- 2 日本経済が真に成長軌道に乗るためには、企業ベースでの競争力強化が不可欠です。上記「Ⅲ」で示した<開発-生産-販売-組織>(価値連鎖)の強みの一層の強化策についてお伺いします。

(1) 開発力の強化

貴社の今後の新製品開発等の開発力強化のポイントはどこにおきますか。下欄から3つまで選んで番号をご記入ください。

1 開発人材の確保・強化 2 大学等との共同研究・開発 3 大学等からの技術(知財)移転
4 企業間連携による新製品開発(知財移転含む) 5 外部開発競争資金の確保
6 マーケティング・開発連携強化 7 その他 ()

(2) 生産力の強化

貴社の今後のものづくり生産性向上(QCD)のポイントはどこにおきますか。下欄から3つまで選んで番号をご記入ください。

1 生産の流れ改善指導人材の育成・強化 2 5S 3 工程管理 4 作業管理
5 品質管理 6 設備管理 7 購買管理 8 現品管理 9 物流管理
10 その他 ()

(3) 販売力の強化

貴社の今後の販売力強化のポイントはどこにおきますか。下欄から3つまで選んで番号をご記入ください。

1 サプライ・チェーン・マネジメントの強化 2 流通チャネル・販売方法の強化
3 顧客ニーズの把握強化 4 販売促進の強化 5 ソリューション体制強化
6 その他 ()

(4) 組織力の強化

貴社の今後の組織力強化のポイントはどこにおきますか。下欄から3つまで選んで番号をご記入ください。

1 後継経営人材の育成・確保 2 戦略策定人材の育成 3 マーケティング指導人材の確保
4 生産マネジメント指導人材の育成 5 海外展開人材の育成 6 財務人材の育成・確保
7 ICT活用専門人材の確保 8 その他 ()

(5) 望ましい大学新卒人材

貴社が大学新卒人材を採用する場合、「必須と考える能力(専門知識以外の)」を1つ、これに加えて「望ましいと考える能力(同上)」を2つ、それぞれ下欄から選んで番号をご記入ください。

1 コミュニケーション能力 2 チャレンジ精神 3 主体性 4 他への働きかけ力
5 実行力 6 課題発見力 7 計画力 8 創造力 9 柔軟性・協調性 10 状況把握力
11 規律性 12 ストレスコントロール力 13 その他 ()

- 3 行政等による企業競争力強化の支援策を、下欄から番号を選んで(いくつでも)、ご記入ください。

1 技術開発資金の支援 2 試作・事業化資金の支援 3 生産性向上指導人材の育成・支援
4 販路開拓の支援 5 海外展開への支援 6 産学連携の推進支援
7 コーディネーターによる事業・経営支援 8 経営諸専門人材の育成支援
9 ICTの活用支援 10 創業・起業人材育成支援 11 その他 ()

VI 自由記入欄

*企業競争力強化策等、何かご意見がありましたら、自由記入欄にご記入ください。

図表4-3 シンポジウム案内

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 長岡地域(創造人材)養成プログラム

2013長岡大学地域連携研究センター設立記念シンポジウム

グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ!

— 新潟・長岡地域製造業を中心に —

安倍政権の「3本の矢」戦略の効果もあり、日本経済の景況は上向きになってきたと評価されています。しかし、グローバル経済下の企業・産業間競争は激しさの度を増しており、「競争力強化法案」が今秋の国会にも上程されています。こうしたなか、当センターは、「新潟・長岡地域における製造業の産業競争力に関する基礎調査」を実施しました。ご回答いただいた皆様には感謝申し上げます。このアンケート結果を報告し、今後の競争力強化の方向を議論するため、下記の通り、「グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ!」をテーマにしたシンポジウムを開催いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。なお、本シンポジウムは、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択された本学の「長岡地域(創造人材)養成プログラム」の1つとして開催されるものです。

また、長岡大学地域連携研究センターは、平成25年9月に地域研究センターと生涯学習センターを再編して、設立されました。当シンポジウム終了後、引き続き当センター設立記念パーティー(17:30～ 参加費無料。会場:本学新体育館棟学生食堂)を開催いたしますので、ご参加いただければ幸いです。

長岡大学地域連携研究センター

日時 平成25年 11月22日(金) 14:30～17:00(受付開始14:00)

会場 長岡大学 226教室 定員 100名程度(先着順)

参加費無料

〈第1部〉 基調報告 **新潟・長岡地域における産業競争力の現状と強化の方向**

長岡大学副学長 原田 誠司

〈第2部〉 パネルディスカッション **グローバル競争に勝つ産業競争力形成へ! —新潟・長岡地域製造業を中心に—**

パネリスト 小西 統雄 氏 株式会社小西鍍金 代表取締役社長/NPO法人長岡産業活性化協会NAZE 理事長
 島津 克吉 氏 株式会社大菱計器製作所 代表取締役社長
 小川 智史 氏 小川コンベヤ株式会社 取締役社長
 山田 清貴 氏 株式会社システムスクエア代表取締役社長
 野中 敏 氏 新潟県工業技術総合研究所 所長
 目黒 正義 氏 (公財)にいがた産業創造機構経営支援グループ 総括マネージャー
 小松 俊樹 氏 長岡大学特任教授/経営コンサルタント
 コーディネーター 原田 誠司 長岡大学副学長

■主催:長岡大学地域連携研究センター

■共催:長岡市・長岡商工会議所・(公財)にいがた産業創造機構・NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

〈申込方法〉

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
 FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX
 番号に送信してください。

FAX:0258-39-9566

申込締切:平成25年11月20日(水)

〈お問い合わせ・申込先〉

長岡大学地域連携研究センター 担当:久保・山田
 〒940-0828 長岡市御山町80-8
TEL:0258-39-1600(代)
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

氏名				所属・会社等	
住所・連絡先	〒				
電話番号			FAX		
シンポジウム	参加	不参加	パーティー (無料)	参加	不参加

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



2 課題対応の調査研究の準備－平成 26 年度調査研究の準備－

(1) 平成 25 年度方針・目標

- ・平成 26 年度実施の「長岡地域＜創造人材＞に関する調査研究」の準備を行う。
- ・平成 26 年度調査に向けて、アンケート調査票作成を目的に、研究会を開催する（2回）。3 月末に調査票作成し、平成 26 年度前期に調査を実施する。
- ・研究会では、創造人材の定義、意義、調査対象、設問等を十分検討し、調査結果が活用できる方向を検討する。その上で、平成 26 年度には予算計上を行う。

(2) 計画

- ・＜創造人材＞研究会を開催し、平成 25 年度中に、平成 26 年度実施予定の＜創造人材＞アンケート調査票を作成する。

(3) 展開

- ・「長岡大学創造人材研究会」（責任者・原田誠司教授）は、次の通り開催された。
 - とき：平成 26 年 1 月 21 日（火）16：20～18：00
 - 会場：長岡大学第 3 会議室
 - 講演・今、企業に求められる人材とは－新潟県内企業を中心に－
株式会社ファインズ代表取締役社長 木津広美 氏
 - 参加者：15 名（長岡大学教職員）
- ・同上の研究会以外は、開催できず、平成 26 年度実施予定のアンケート調査票は、原田の責任において作成することとなった。

(4) まとめ－成果と課題－

- ・当初計画では、研究会を数回、企業等ヒアリング実施を予定していたが、責任者（原田）の多忙のため、計画通り実施することはできなかった。
- ・アンケート調査票は原田案の段階にとどまり、次年度早期にヒアリング等実施し、調査票を完成させたい。その上で、平成 26 年度前期にアンケート調査を実施することとしたい。

3 課題対応の地域志向教育研究

(1) 方針・目標

- ・本学常勤教員を対象にした地域志向教育研究を平成 25 年度は 5 件、平成 26～29 年度は各年 6 件程度採択し、実施する。地域課題解決とともに、地域課題に取り組む教員を拡大することをめざす。

(2) 平成 25 年度方針・目標

- ・地域志向教育研究経費の配分ルールを定め、公募して、5 名程度に配分する。報告書を作成するとともに、成果報告を行う（3月）。
- ・「地域志向教育研究の手引」を作成し、公募して、10 月から、5 名（件）程度が教育研究のスタートが切れるように進める。1 件の予算規模は、50 万円とする。
- ・教育研究の遂行に当たっては、地域連携室等組織的な支援も可能にする。3 月には、成果報告をオープンな形で、行う。

(3) 計画

- ・地域志向教育研究経費の配分ルール等を定めた「地域志向教育研究の手引」および「平成 25 年度地域志向教育研究の推進について」を作成する。平成 25 年 9 月 18 日教授会にて同上指針を決定した（文部科学省の指示による改訂版を 10 月 30 日に作成）。図表 4－4 参照。
- ・同上指針に基づき、本学常勤教員を対象に、地域志向教育研究希望者を、5 名（件）公募する。公募期間は、9 月 18 日～10 月 16 日の 1 ヶ月。予算は 2,500 千円。

(4) 展開

平成 25 年 10 月 30 日に、次の 5 名（件）を地域志向教育研究経費として選考した。経費総額は、5 件、1,760 千円（予算は 2,500 千円）。

- ① 「長岡市区域公共施設ピンテージのGISを活用したデータ分析」内藤敏樹、104 千円
- ② 「新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探索するための予備調査」西俣先子、404 千円
- ③ 「地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究－北越紀州製紙のケース－」松本和明、300 千円
- ④ 「中越地域の企業系譜と産業系譜作り」権 五景、452 千円
- ⑤ 「『ながおかバル街』による中心市街地・店舗活性化の研究」中村大輔、500 千円

(5) まとめ－成果と課題－

- ・事業選定期間がCOO事業選定初年度の後期からになり、調査研究期間が短く、平成 25 年度中に成果を報告書の形でまとめきることができなかった。3 月時点では、素案の段階にとどまったので、成果物はやむをえず平成 26 年 4 月末とりまとめとした。したがって、成果物の印刷及び成果発表は平成 26 年 5 月に延期することとした。
- ・次年度は、指針の通り、年度当初に公募を行い、年度内には、報告書印刷と成果発表が完了できるように実施する。

図表 4-4 地域志向教育研究推進に関する指針

平成 25 年度長岡大学「地域志向教育研究」の推進について（改訂版）

平成 25 年 9 月 18 日策定 平成 25 年 10 月 30 日改定 学長

長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」（「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」）における平成 25 年度の＜地域志向教育研究＞については、当面、次の方針に沿って、進めることとする。平成 26 年度以降は、前年度の総括の上に立ち、柔軟に改善し、良好な成果をあげることをめざす。
この改訂版は、「平成 25 年度大学改革推進等補助金取扱要領」に沿って、改定したものである。

1 地域志向教育研究の意義について

- ・「地域志向教育研究」は、大学教員の地域志向の教育研究の促進をめざしたものである。
- ・本学における地域志向の教育研究は、一部の教員の取組にとどまっており、全教員の共通認識や取組に至っていないので、その促進は本学の教育研究にとって、非常に有意義であると考ええる。

2 地域志向教育研究の対象等（受給資格）について

- ・地域志向教育研究の推進者は、教育・研究・社会貢献を地域志向に改革しようとする本学専任教員とする。
- ・また、他から類似の経費助成を受けていない教員とする。
- ・地域志向教育研究の取組分野については、当面、長岡地域、新潟県内を対象とした取組（県外他地域・都市等との比較含む）とする。
＜地域志向＞という用語からは、国内諸地域あるいは海外諸地域を対象にすることも考えられるが、これは当面、除外する。

3 地域志向教育研究の受給等推進手続きについて

- ・地域志向教育研究の受給等推進手続きは、別紙「長岡大学研究費使用の手引き」にのっとり、次の通り進めることとする。
 - ①地域志向教育研究計画申請書の提出
 - *別紙申請書（「平成〇〇年度地域志向教育研究経費申請書」）を毎年度 5 月末までに提出する。平成 25 年度は 10 月 16 日締切。
 - *計画は、具体的な事業・活動計画を記載すること。
 - ②申請書の審査
 - *次項「4」を参照。申請締切後 1 ヶ月以内に結果を通知する。
 - ③取組実施
 - ④取組成果報告・・・年度末に成果報告書を提出し、成果報告を行う。

4 申請書審査方法について

- ・審査方針・・・地域志向教育研究の促進の観点から、申請された取組計画を具体化し、実施する方向で審査を行う。いわゆる「落とすための審査」はしない。

- ・ 審査項目・・・取組内容の有効性（地域課題との関連）、取組期間（年度末までに成果をあげられるか。支給契約は単年度とする）、推進体制と経費（体制、費用面で円滑に推進できるか）の3点で、審査を行う（申請者へのヒアリング含む）。審査の結果、経費の増額・減額等はある。
- ・ 選定人数・・・平成 25 年度の選定人数は上限を 5 件とする。
- ・ 審査委員・・・学長、副学長、教員 A の 3 名で審査する。教員 A は、申請分野を見た上で、適切な専門分野の非申請教員の 1 名を学長が委嘱する。
- ・ 選定・・・上記審査を経て、学長が決定する。

5 受給条件について

- ・ 本事業計画は単年度契約とする。
- ・ 領収書等経費の用途、金額を証明できる書類等を提出する。
- ・ 平成 25 年度の支給金額は半年の活動である点を考慮し、支給金額の上限を 50 万円／件とする。

5 審査結果について

- ・ 審査結果は公表し、次年度の選考の改善に活かすこととする。

V 社会貢献における事業展開

0 <社会貢献>の取組

<社会貢献>の取組の柱は、①高齢化・人口減少社会における地域活性化の推進、②市民向け公開講座・セミナーの開催、③企業人向けセミナーの開催、④起業人材養成セミナーの開催、の4つである。

1 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進

(1) 方針・目標

- ・高齢化・人口減少社会における地域・コミュニティの衰退状況の防止、再生のため、①まず本学所在の悠久山地区の活性化、②市内他地域（越路、山古志、栃尾等）の活性化にむけた貢献活動に取り組む。
- ・方法としては、上記研究成果の具体化の上に立ち、市活性化組織や他地域との連携・ネットワーク形成を追求する。
- ・平成29年度には、悠久山地区、東山地区での活性化の取組成果を確認できるレベルまで進める。また、中山間地（山古志、栃尾地区等）も含めて市内地区の活性化ネットワークづくりのめどをつける。
- ・地域・コミュニティ活性化の取組の方向としては、①上記教育面における学生主体の地域活性化関連プロジェクトの拡大、②長岡大学所在地・悠久山地区、東山地区の活性化取組み、③上記人口減少研究結果の具体化、④長岡市・地域活性化団体との連携方向の具体化、⑤市内他地域（山古志、栃尾地区等）の活性化、の方向で進める。

(2) 平成25年度方針・目標

- ・地域活性化研究会を立ち上げ、平成26年度からの地域活性化の基本方針・計画（とくに悠久山・東山・中山間地の）をとりまとめる。また、地域活性化のシンポジウムも開催する。
- ・研究会（ヒアリング等）では、長岡地域の地域活性化の経過、長岡市の地域活性化の方針・事業、東山・中山間地の現状と課題、地域活性化の取組と組織などを検討し、長岡大学が取り組める今後の方向・役割（教育面、部活面、地元・東部地区等）をとりまとめる。

(3) 計画

- ・研究会ないしヒアリング等により、長岡地域の地域活性化・ボランティア活動等の現状と課題、及び次年度での方向（教育面、部活面、地元・東部地区等）をまとめる。
- ・地域活性化の方向性全般の認識をめざして、平成26年2月に「地域元気フォーラム」を開催する（基調講演・法政大学坂本光司教授）。
- ・悠久山・東山地区（長岡大学立地の長岡西部地区）の活性化の方向を討論する端緒となる地域フォーラム（住・学）を3月に開催する。

(4) 展開

A 地域活性化活動等の現状

- ・ヒアリング等により、地域活性化活動等関連団体及びボランティア受入先地域等について

て取りまとめた。

- ・地域活性化活動等関連団体としては、公益社団法人中越防災安全機構、公益財団法人山の暮らし再生機構、長岡市民協働センター、NPO法人地球環境ネットワーク、NPO法人UNEなどの概要等についてまとめた。
- ・ボランティア受入先地域等については、栃尾地域、小国地域、川口地域などでの活動概要をとりまとめた。

B 地域元気フォーラム

- ・「地域元気フォーラム～地域を元気にするために いま大事なことは～」は、平成 26 年 2 月 27 日に開催され、約 100 名の参加を得て、盛会であった。図表 5-1 参照。
- ・開催日時・・・平成 26 年 2 月 27 日（木）13：30～17:10、於・ホテルニューオータニ長岡
- ・基調講演 「なぜこの会社は快進撃が続くのか?～人を幸せにする経営～」
坂本 光司（法政大学大学院政策創造研究科教授）
- ・パネルディスカッション「地域を元気にするために いま大事なことは」
日下部英紀（内閣府政策統括官（社会経済システム担当）付参事官（市民活動促進担当））
「共助社会づくり推進に向けて～内閣府「共助社会づくり懇談会」報告から～」
大谷 勝彦（株式会社大谷 取締役会長）
「障がい者の雇用に力を注ぐ、日本で一番大きな新潟のはんこ屋さん」
大島 誠（NPO法人くびき野NPOサポートセンター理事）
「地域力を高める人材や資金の育み方」
坂本 光司（同上）
今瀬 政司（長岡大学経済経営学部 准教授） <コーディネーター>
「協働による地域づくりは、従来の地域づくりと何が違うのか」

C 悠久山・東山フォーラム

- ・「悠久山・東山フォーラム～みんなで悠久山・東山地区の魅力を語ろう～」は、平成 26 年 3 月 15 日に開催され、約 70 名の参加を得て、活発な意見交換が行われた。図表 5-2 参照。
- ・開催日時・・・平成 26 年 3 月 15 日（土）13：30～17:10、於・長岡大学地域交流ホール
- ・次第
総合司会・長岡大学コーディネーター 脇田 妙子
開会あいさつ 長岡大学学長 内藤 敏樹
趣旨説明 長岡大学事務局次長 品川 十英
現状報告 長岡市市長政策室政策企画課課長 渡辺 則道氏
基調講演 「歴史にみる悠久山と東山」 長岡大学教授 松本 和明
栖由地区の魅力 「牧野忠辰公と十分杯」 元栖由公民館長 中村 祥一氏
活動報告 「悠久山・東山地区マップづくり」
長岡大学教授 吉盛 一郎／吉盛ゼミ学生
意見交換会 *地域<魅力>探しワークショップ
これからに向けて 長岡大学副学長 原田 誠司

(5) まとめ－成果と課題－

- ・地域活性化活動等の現状については、ヒアリング等により、地域活性化活動等関連団体及びボランティア受入先地域等についてとりまとめることができた。次年度での方向性を明確にする上での基礎資料ができた、と言える。これを踏まえて、次年度の方向を検討する。
- ・上記2つのフォーラムは、当COC事業における地域活性化の方向を示す端緒となった。
- ・とくに、悠久山・東山地区の活性化に向け、地域住民の方々の参加を得て、意見交換・交流ができたことは、次年度以降の活動にとって、重要な一歩となった。吉盛ゼミ学生が行った〈自然・歴史・文化・スポーツのマップづくり〉をさらに充実・拡大し、活性化をめざす活動が必要と思われる。

地域元気フォーラム

日時：2014年
2月27日(木)
13:30～17:10
(開場13:00)

～地域を元気にするために いま大事なことは～

これからの時代が明るくなることを信じて、希望を切り拓こうと頑張っている人たちが、地域にいます。「自らの地域を元気によみがえらせようと地域づくりに取り組むNPO・地域団体」、「従業員を温かく雇用し大切に育て上げながら発展を遂げる企業」、「地域の人たちの可能性を信じて政策に取り組む行政機関」。

そうした頑張っている人たちから「地域を元気にするために いま大事なこと」が何かを学び、共に議論して、共に明るい次代を切り拓いていく取組みが求められています。多くの皆様にご参加いただけましたら幸いです。

◆会場：ホテルニューオータニ長岡 「桜の間」
(新潟県長岡市台町2-8-35 (長岡駅東口) TEL: 0258-37-1111)

◆参加費：無料 (定員：先着100名)

◆内容

基調講演

「なぜこの会社は快進撃が続くのか？
～人を幸せにする経営～」

坂本 光司 (法政大学大学院政策創造研究科教授)



パネルディスカッション

「地域を元気にするために いま大事なことは」

日下部英紀 (内閣府 政策統括官(経済社会システム担当) 付参事官(市民活動促進担当))
「共助社会づくり推進に向けて ～内閣府「共助社会づくり懇談会」報告から～」

大谷 勝彦 (株式会社大谷 取締役会長)
「障がい者の雇用に力を注ぐ、日本で一番大きな新潟のはんこ屋さん」

大島 誠 (NPO法人くびき野NPOサポートセンター理事)
「地域力を高める人材や資金の育み方」

坂本 光司 (同上)

今瀬 政司 (長岡大学経済経営学部 准教授) <コーディネーター>
「協働による地域づくりは、従来の地域づくりと何が違うのか」


◆主催：長岡大学 地域連携研究センター

◆後援：長岡市、NPO 法人市民協働ネットワーク長岡、長岡商工会議所、公益社団法人中越防災安全推進機構、
NPO 法人長岡産業活性化協会NAZ E、新潟県中小企業家同友会、公益財団法人にいがた産業創造機構

※申込方法、および登壇者の略歴は、裏面をご覧ください。

「地域元気フォーラム」は、地域再生・活性化の核となる大学の形成を目的にした文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)における「長岡地域(創造人材)養成プログラム」の一環として行うものです。

 長岡大学

 文部科学省
地(知)の拠点

図表5-2 悠久山・東山地区フォーラム



市民の憩いの場である悠久山・東山地区の新たな魅力を、地元のみなさんと地元の長岡大学とで、長岡市民の方々に発信していきませんか。

日時 平成26年**3月15日** 13:30~16:30 **会場** 長岡大学 地域交流ホール

- 次第**
- ① 開会挨拶 長岡大学学長 内藤 敏樹
 - ② 趣旨説明 長岡大学事務局次長 品川 十英
 - ③ 現状報告 長岡市市長政策室政策企画課課長 渡辺 則道氏
 - ④ 基調講演 「歴史にみる悠久山と東山」 講師:長岡大学教授 松本 和明
 - ⑤ 栖吉地区の魅力 「^{ただとぎ}牧野忠辰公と十分盃」
講師:元栖吉公民館長 中村 祥一氏
 - ⑥ 活動報告 長岡大学教授 吉盛 一郎、吉盛ゼミ学生
～休憩～
 - ⑦ 意見交換会 自由活発なご意見をいただきます。
 - ⑧ これからに向けて 長岡大学副学長 原田 誠司



定員 50名(先着順)
※参加費無料

■主催 長岡大学地域連携研究センター
■後援 長岡市、長岡商工会議所

お申し込み方法 電話・FAXでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信して下さい。
(お問合せ・お申込先)長岡大学地域連携研究センター:担当 山田、久保
FAX:0258-39-9566 TEL:0258-39-1600(代)
E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp 〒940-0828 長岡市御山町80-8

氏名			所属等	
住所・連絡先	〒			
電話番号		F A X		
E-mail				

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

2 市民向け公開講座・セミナーの開催

(1) 方針・目標

- ・従来の市民向け公開講座（情報、語学、文化等）を刷新して開講する。市民ニーズと本学教員のマッチングをはかり、地域づくり、ボランティア関係講座も含めて充実させる。
- ・平成 29 年度には、テーマは 20 テーマに倍増し、毎年の定番講座（5 テーマ程度）と年度毎の特別講座（5 テーマ）を組み合わせ、開講する。

(2) 平成 25 年度方針・目標

- ・平成 25 年度は、市民ニーズと本学教員のテーマのマッチングを図り、開講方針を策定し、開講する（5 テーマ、5 教員程度）。
- ・講座は、市民が集まる「まちなかキャンパス長岡」（長岡市中心市街地）を主な会場としたい。

(3) 計画

- ・長岡市の〈まちなかキャンパス〉事業については、「まちなかキャンパス長岡運営協議会」に参加し（事務局および広報、まちなかカフェ、まちなか大学・大学院、学生交流イベントの各分科会に参加）、講座運営への協力を行っている。
- ・長岡大学独自の市民公開講座として、「実践初級簿記講座」（中村大輔講師）をまちキャンで開講する。

(4) 展開

- ・平成 25 年度の〈まちなかキャンパス〉の講座として、①まちなかカフェ（松本和明教授が 2 回、内藤敏樹学長と山川智子准教授が各 1 回講演）、②まちなか大学（〈身近な経済学〉のテーマで、児嶋俊郎教授、松崎陽子准教授、山川智子准教授、吉盛一郎教授が講演。まちづくり学科で松本和明教授が 1 回講演）などで、本学教授陣が講演・講義を行った。
- ・「実践初級簿記講座」（日商簿記 3 級対応。中村大輔講師）は、平成 25 年 12 月 5 日～平成 26 年 2 月 20 日までの 15 回講座（各回 19:00～21:00）として、まちなかキャンパス長岡で開講された。受講者は 5 名、受講料は 15,000 円であった（COC 事業予算にできなかったため有料講座とした）。図表 5-3 を参照。

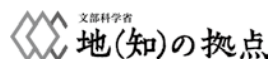
(5) まとめー成果と課題ー

- ・当初の目標であった 5 講座の開講はできなかった。その要因は主として、本学の推進体制の未整備によるものと判断せざるをえない。旧生涯学習センターの市民公開講座を新設の地域連携研究センターの活動のなかに継承するかが必ずしも明確ではなかった。そのため、まちなかキャンパス講座への対応と本学独自講座との関係を具体化できなかった。次年度は、この点を明確にして、新しい方向を明確にする必要がある。



長岡大学

平成 25~29 年度
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



文部科学省
地(知)の拠点

平成 25 年度 長岡大学市民公開講座『初級簿記実践講座』

長岡大学地域連携研究センター

本講座は個人商店の簿記(日商簿記3級相当)について学ぶ講座です。全15回で日常の取引に関する仕訳から、決算書(財務諸表)の作成まで学びます。簿記は積み上げ型の内容であり、一度つまずくと追いつくのは大変です。また、速習コースでもあるため、自宅での予習・復習時間が十分準備できる方向けの講座です。

- ★募集人員：30名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。
- ★講師：中村 大輔(長岡大学准教授)
- ★時間：19:00 ~ 21:00 ★会場：まちなかキャンパス長岡 501 会議室(12月19日のみ302 会議室)
- ★受講料：15,000円(全15回) ※初回に持参ください。

使用テキスト：滝沢ななみ『簿記の教科書 日商3級 商業簿記(第2版)』TAC出版 840円

滝沢ななみ『簿記の問題集 日商3級 商業簿記(第2版)』TAC出版 840円

※テキストを注文される方は、代金を初回に持参ください。

- ★試験案内：第136回 日商簿記3級 試験
試験日：平成26年2月23日(日) 試験申込：平成26年1月7日~23日

★講座内容(各回の内容は進度等によって変更することがあります。)

	開 講 日	テ ー マ
1	12月5日(木)	簿記の基礎 : 簿記の基礎、財務諸表、仕訳と転記について学習する。
2	12月12日(木)	商品売買 : 商品売買に関する取引の記帳について学習する。
3	12月19日(木)	現金預金 : 現金預金に関する取引の記帳について学習する。
4	12月26日(木)	手 形 : 手形取引に関する記帳について学習する。
5	1月9日(木)	有価証券と固定資産 : 有価証券の購入と売却、固定資産の購入について学習する。
6	1月16日(木)	その他の取引1 : 未収金・未払金、貸付金・借入金、前払金・前受金などについて学習する。
7	1月20日(月)	その他の取引2 : 仮払金・仮受金、立替金・預り金などについて学習する。
8	1月28日(火)	帳 簿 : 仕訳帳などの主要簿と、現金出納帳などの補助簿について学習する。
9	1月30日(木)	試算表 : 試算表の役割と作成方法を学習する。
10	2月3日(月)	伝 票 : 伝票とは何か。3伝票制および5伝票制について学習する。
11	2月6日(木)	決算1 : 決算整理と精算表の仕組み、現金過不足の処理や消耗品の整理について学習する。
12	2月10日(月)	決算2 : 有価証券の評価替えや固定資産の減価償却、売上原価の算定などについて学習する。
13	2月13日(木)	決算3 : 8桁精算表の作成方法について学習する。
14	2月17日(月)	決算4 : 帳簿の締切り、財務諸表の作成について学習する。
15	2月20日(木)	総まとめ : 模擬問題を解きながらこれまでに学習した内容を復習する。

◆お申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

締め切り 平成25年11月28日(木)

<お申込・お問合せ先>

FAX : 0258-39-9566

TEL : 0258-39-1600 (代)

http://www.nagaokauniv.ac.jp/

e-mail jinzai@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学地域連携研究センター担当：近藤、押見

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

氏 名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

3 企業人向けセミナーの開催

(1) 方針・目標

- ・従来の企業人向けイノベーション人材養成講座を刷新して、地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成を目的にした「新・イノベーション人材養成講座」として企業人講座を開講する。
- ・平成 29 年度には、テーマは 12 テーマに 3 倍増し、毎年の定番講座（4 テーマ程度）と年度毎の特別講座（4 テーマ程度）を組み合わせ、開講する。担当教員数は、本学教員 6 名程度、外部講師 6 名程度。

(2) 平成 25 年度方針・目標

- ・平成 25 年度は、全体計画策定の上、4 講座を開講する（夜間講座。1 講座＝2.5 時間×8 回）。講師は本学教員 2 名、外部講師 2 名。
- ・また、同講座の 1 つ「ものづくりマネジメント講座」を「長岡市ものづくりインストラクター養成スクール」の連携講座として開講する。
- ・イノベーション講座の位置づけ、内容、方式等を見直し、平成 26 年度以降の新方針・計画をとりまとめる。

(3) 計画

- ・第 I 期イノベーション人材養成講座（10～11 月）で、管理会計（吉盛一郎教授）、経営革新（小松俊樹教授）、第 II 期講座で、ものづくりマネジメント講座（新宅純次郎講師他、6 名）、商品企画講座（小松俊樹教授）、の講座をそれぞれ開講する。図表 5－4～8 の各講座「募集要項」を参照。
- ・当講座の新しい方向として、平成 26 年度計画を履修証明プログラム（文部科学省）として組み立て、計画化する。

(4) 展開

- ・第 I 期講座では、経営革新講座の応募者が 3 名未満のため、不開講となった。国の経営革新事業応募が一巡したためと見られる。
- ・第 I 期の管理会計講座には、5 名の応募者があり開講した。事業ごとの採算性を測る手法である管理会計は中小企業にも一定の関心がある。
- ・また、第 II 期の商品企画講座は受講者 6 名で、従来と同様、中小企業に一定の関心があるものといえる。
- ・第 II 期のものづくりマネジメント講座は長岡市の「ものづくりインストラクター養成スクール」との連携講座の位置づけで開講したが、6 名の応募者があり、一定に評価されたと言えそうだ。講師陣は、東京大学経営研究センターディレクターの新宅純二郎教授の他、生産現場改善の専門家（ものづくりインストラクター）と本学教員を加えて、現場からビジネスモデルを構築できる指導人材の養成をめざす。
- ・長岡大学イノベーション人材養成講座を、文部科学省の「履修証明プログラム」として組み立てなおした。図表 5－9 を参照。

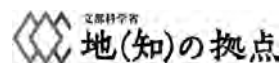
(5) まとめ－成果と課題－

- ・管理会計、商品企画の講座は、必要性が認識されており、一定の参加者を確保することができた。しかし、採算的には、10名程度の受講者が必要であり、受講生確保の工夫が求められる。
- ・ものづくりマネジメント講座は、講師陣に、東京大学経営研究センターディレクターの新宅純二郎教授の他、生産現場改善の専門家（ものづくりインストラクター）と本学教員を加えて、今後は、現場からビジネスモデルを構築できる指導人材の養成をめざす。
- ・当イノベーション人材養成講座を、文部科学省の「履修証明プログラム」として組み立てなおしたが、次期からは2年間で履修証明が取得できるような運営につとめなければならない。

図表5-7 ものづくりマネジメント講座・募集要項



平成25~29年度
「地(知)の拠点整備事業」(六学COC事業) 文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成25年度Ⅱ期(12月~2月)長岡大学イノベーション人材養成講座

ものづくりマネジメント(生産性向上)講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨:長岡大学は、「ものづくりマネジメント講座」を毎年開講してきました。平成25年度から長岡市が「長岡・ものづくりインストラクター養成スクール」を開講しています。このスクールは、東京大学の藤本隆宏教授が研究開発した生産マネジメント理論に基づく現場改善=生産性向上の指導者養成の学校です。本学はこのスクールの充実・拡大がグローバル競争下での長岡地域の企業・産業競争力向上に不可欠と考え、このスクールへの接続講座として、「ものづくりマネジメント講座」を開講することとしました。講師は、藤本教授がセンター長を努める東京大学ものづくり経営研究センターMMRC(Manufacturing Management Research Center)認定の<ものづくりインストラクター>=長岡スクール講師陣と、長岡大学の教授陣で構成します。当講座を修了して、長岡スクールで学び、ものづくりインストラクターになろう!

★募集人数:20名(先着順) ※受講者3名未満の場合は、公開講座のみ開催します。
★講師陣:新宅純二郎(東京大学大学院経済学研究科教授/東京大学MMRCセンター運営委員)、池田 達夫(東京大学MMRCものづくりインストラクター/長岡スクール主任講師)、国谷 晃雄(東京大学MMRCものづくりインストラクター/元キャノン)、堀井 求(東京大学MMRCものづくりインストラクター/元キャノン)、岸 保行(新潟大学経済学部准教授)、小松 俊樹(長岡大学特任教授/経営コンサルタント)、吉盛 一郎(長岡大学教授/税理士)

★受講対象者:現場改善担当者・技術者・管理者、後継経営者、経営者、コーディネーター、ものづくりインストラクター・ファシリテーター志望者。

★受講料:30,000円(第1回公開講座は無料)※裏面の<長岡市研修助成制度のご案内>をご覧ください。

★時間:18:30~21:00(ただし、第1回公開講座は、15:00~17:00)

★会場:長岡大学(ただし、第1回公開講座はホテルニューオータニ長岡)

★シラバス ★講座コーディネーター:原田誠司

	開 講 日	テ ー マ	講 師
第1回	12月2日(月) 15:00~17:00	公開講座:ものづくりとビジネスモデルの再構築 於:ホテルニューオータニ長岡	新宅純二郎
第2回	12月9日(月)	バリューチェーンと生産現場	小松俊樹
第3回	12月16日(月)	企業競争力と生産現場-藤本理論とは-	池田達夫
第4回	1月20日(月)	生産管理と方針管理-現場改善の考え方-	国谷晃雄
第5回	1月27日(月)	納期・工程・在庫管理・品質管理	堀井 求
第6回	2月 3日(月)	生産現場の改善と管理会計	吉盛一郎
第7回	2月10日(月)	現場改善と人材活用の考え方	岸 保行
第8回	2月17日(月)	課題発表とコメント	小松俊樹/原田誠司

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、右記のFAX番号に送信してください。

<申込先ならびに連絡先>
FAX: 0258-39-9566
TEL: 0258-39-1600(代)
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
 e-mail jinzai@nagaokauniv.ac.jp
 長岡大学地域連携研究センター:山田・久保
 〒940-0828 長岡市御山町80-8

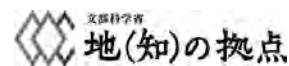
締め切り 平成25年11月29日(金)

氏 名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
e-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成25年度Ⅱ期(12月~2月)長岡大学イノベーション人材養成講座
ものづくりマネジメント(現場改善)公開講座

「ものづくりとビジネスモデルの再構築」

平成25年度イノベーション人材養成講座の第Ⅱ期講座として、<ものづくりマネジメント講座>を開講します。第1回講座は公開講座とし、講師には東京大学大学院経済研究科教授兼東京大学ものづくり経営研究センター研究ディレクター新宅純二郎氏をお迎えします。経営者、技術者、コーディネーター、産業振興関係者の皆様にとって必ずご参考になると考えます。

皆さまのご参加をお待ちしております。

日時 平成25年12月2日(月) 15:00~17:00
会場 ホテルニューオータニ長岡 「桜の間」
定員 100名 ※受講料無料
11月29日(金)までに事務局にお申し込みください。



講師：新宅 純二郎氏の略歴

東京大学大学院経済研究科教授

兼ものづくり経営研究センター研究ディレクター

東京大学大学院経済学研究科教授、同、ものづくり経営研究センター研究ディレクター。国際ビジネス研究会副会長。組織学会理事。NPO法人グローバルビジネスリサーチセンター常任理事。(社)モバイル・コンテンツ・フォーラム顧問。1958年生。東京大学経済学部卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。学習院大学経済学部助教授、東京大学大学院経済学研究科准教授を経て現職。

《主著書》

『日本企業の競争戦略』(1994年、有斐閣)、『競争戦略のダイナミズム』(2001年、日本経済出版社、共編著)、『ゲーム産業の経済分析』(2003年、東洋経済新報社、共編著)、『中国製造業のアーキテクチャ分析』(2005年、東洋経済新報社、共編著)、『コンセンサス標準戦略』(2008年、日本経済新聞社、共編著)、『フリーコピーの経済学』(2008年、日本経済新聞社、共編著)、『ものづくりの国際経営戦略—アジアの産業地理学』(有斐閣、2009年)、『経営戦略入門』(2011年、日本経済新聞社、共著)

主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、公益財団法人にいがた産業創造機構

NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

FAX : 0258-39-9566

TEL : 0258-39-1600 (代)

http://www.nagaokauniv.ac.jp/

e-mail jinzai@nagaokauniv.ac.jp

地域連携研究センター 担当：山田・久保

〒940-0828 長岡市御山町80-8

締め切り 平成25年11月29日(金)

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
e-mail			

※ご登録いただいた個人情報、本学規定に従って厳正に管理します。

図表5-9 長岡大学イノベーション人材履修証明制度の設立

長岡大学イノベーション人材履修証明制度の設立について

平成26年1月27日 長岡大学地域連携研究センター

長岡大学は、平成19(2007)年度～平成21(2009)年度の3年間、文部科学省「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択された「イノベーション人材養成プログラム」を実施し、その後も「イノベーション人材養成講座」、継続、開講してきました。

平成25年度に同講座の実施機関として、<長岡大学地域連携研究センター>を設立したことに伴い、従来の講座を一新し、平成26年度から、新たな「イノベーション人材履修証明制度」をスタートさせることとしました。詳細は次の通りです。

1 履修証明制度とは?

「大学等における履修証明(certificate)制度」は、平成19年の学校教育法改正により、制度的位置づけが明確にされました。この制度は、社会人等に対する多様なニーズに応じた体系的な教育、学習機会を提供する制度です。

具体的には、社会人を対象に、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムを、総時間数120時間以上提供し、修了した者に対し、履修証明書を交付することができる制度です。要するに、社会人に対し、変化するニーズに適応できる能力・スキルを身につけるプログラムを提供する制度です。

2 新・イノベーション人材履修証明制度の概要

平成26年度に発足する、新たな「イノベーション人材履修証明制度」は、次の通りです。

- ・講座名称・・・長岡大学イノベーション人材養成講座
- ・受講対象・・・新潟県内企業等の経営者・従業者等(学生も排除しない)
- ・講座の目標・・・現場から利益の上がるマネジメントを行えるマネジャーの養成
- ・開設講座・・・次の7講座を開設する。

経営戦略1ー理念、戦略、経営等の基本を学び、経営計画策定のスキルを身につける。

経営戦略2ー新規事業計画の策定を行い、そのスキルを身につける。

商品企画1ーマーケティングの基本を学び、商品企画の基礎的スキルを身につける。

商品企画2ー新規の商品企画を行い、そのスキルを身につける。

ものづくりマネジメントー生産現場の改善の基本を学び、現場生産性向上のスキルを身につける。

管理会計ー企業の諸事業の採算性を測り、利益を上げるスキルを身につける。

人材活用マネジメントー人材活用の基本を学び、教育・活用方法のスキルを身につける。

- ・講座時間等・・・各講座の時間は、2.5時間×8回=20時間とする。開講講座は、毎年4～5講座とし、2年間で全7講座を受講可能にします。
- ・履修証明・・・上記7講座のうち6講座以上を受講し(重複受講講座は算入不可)、修了認定(テスト、レポート、プレゼンテーション等による)を受けた講座の総時間数が120時間以上の者に履修証明を行う。

* 対象講座は毎年、企業等のニーズを踏まえ、見直すこととする

4 起業人材養成セミナーの開催

(1) 方針・目標

- ・従来間欠的に開講されたビジネスプラン講座をこえて、長岡市・長岡商工会議所と連携し、常設の「新・起業家塾」(女性、シニア、ソーシャルビジネス含む)を開講する。
- ・また、これを通して、起業家を輩出する<長岡起業家塾>制度を形成する。そこでは、常設のビジネスプラン講座、起業シンポジウム開催、起業メンターによる日常的起業支援も行い、創業・起業家を輩出する。学生の起業家塾もこの制度に位置づける。
- ・平成29年度には、毎年、5名程度の創業・起業(女性、シニア含む)をめざす。それを可能にする、長岡市、新潟県、長岡商工会議所、企業、大学・高専、ベンチャーキャピタル等が連携した、起業家を輩出する<長岡起業家塾>制度を確立する。
- ・さらに、地域における起業家風土形成をめざした、小中学・高校生向けの起業家教育の仕組みづくりにも取り組み、確立する。

(2) 平成25年度方針・目標

- ・平成25年度は、全体計画策定の上、創業・起業のビジネスプラン講座・初級コース(8週間)を開講する。次年度から、初級・上級コース(各8週間)を開講する。本学担当教員は4名、外部講師4名。
- ・また、推進組織づくりを行う。とくに、運営方法(起業家・受講者発掘方法)と連携運営組織に注力する(成果はここにかかる)。推進組織づくりは、長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校、ベンチャーキャピタル等と連携して、その具体的あり方を検討する。

(3) 計画

- ・後期に、創業・起業ビジネスプラン講座を開講する。ハイテクだけでなく、女性、シニア、ソーシャルビジネスも含めた幅広い社会人を対象とする。夜間2.5時間×8回(受講者15名程度)、会場は長岡大学教室とする。
- ・さらに、創業・起業メンターによる創業・起業相談を週2日(4時間ずつ)開設し、日常的な起業家支援を行う。
- ・上記の学生も含めた公開の創業・起業シンポジウム等を開催して起業風土を醸成する。

(4) 展開

- ・創業セミナーを8回講座(平成26年1月22日～3月12日の毎週1回18:30～20:30の2時間)で、次の3名を講師にして、長岡大学教室で開講した。図表5-10を参照。
 - 小松 俊樹(長岡大学特任教授/中小企業診断士)
 - 今井進太郎(グローバルマーケティング代表/中小企業診断士)
 - 山田 康博(山田会計事務所/税理士)
- ・また、このセミナーと一体的に、創業支援メンター制度をスタートさせた。この制度は、当創業セミナー受講者以外も含めて、創業・起業の相談に乗る制度であり、起業家を輩出するには不可欠な機能である。図表5-11を参照。

- ・長岡地域における長岡地域起業家塾運営会議の立ち上げ・・・長岡地域起業家塾（平成 26 年度立ち上げ）立ち上げをめざして、図表 5-12「長岡地域起業家塾運営会議について」の方向で、「長岡地域起業家塾第 1 回運営会議」を、平成 26 年 2 月 7 日（金）16:00～17:20、於・長岡大学第 4 会議室で、開催した。参加者は 15 名。
- ・運営会議終了後、次のような長岡地域起業家塾ラウンドテーブルを開催し、起業風土の醸成に努めた。参加者は 15 名。

*名称 長岡地域起業家塾ラウンドテーブル

時期 平成 26 年 2 月 7 日（金）17:30～19:00

会場 長岡大学 2 2 5 教室

講演 起業家は社会の宝だ!—新宿区の創業支援の取組—

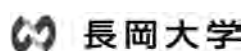
新宿区立高田馬場創業支援センター施設長

兼インキュベーションマネージャー 福田 稔 氏

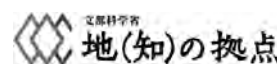
（5）まとめ—成果と課題—

- ・創業セミナーには、22 名の創業・起業希望者の方々が参加いただき、好評のうちに終了した。受講者のなかには、平成 25 年秋に開講された長岡市（商業振興課）の事業計画講座、平成 25～平成 26 年に開催された長岡市立図書館や見附市の起業セミナー等への参加者がかなり含まれており、活発な質疑応答がなされた。次年度は一層の拡大が期待される。
- ・また、創業支援メンター制度の活用状況は、平成 26 年 1 月～3 月に、延べ 18 件（人）であった。この制度の認知度がまだ低いので、次年度はより活発な活用が出来るような広報の工夫が求められる。
- ・長岡地域での起業家塾設立をめざした運営会議とラウンドテーブルは開催できたが、次年度に向けた方向性の確認は十分とは言えない状況であった。長岡市や長岡商工会議所等の連携を模索しつつ、次を展望する必要がある。

図表 5-10 創業セミナーのご案内



平成 25~29 年度
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成 25 年度長岡大学地(知)の拠点整備事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

創業セミナーのご案内

長岡大学地域連携研究センター

★趣旨—長岡地域起業家塾—をめざして—

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成 25 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材=創造人材の育成により地域再生・活性化の核として長岡大学を発展させることをめざすものです。

このプログラムの事業として、長岡地域で創業・起業を盛んにする<長岡地域起業家塾>の形成を計画しています。この長岡地域起業家塾では、常設のビジネスプラン講座、創業・起業シンポジウム、創業・起業支援メンターによる日常的創業・起業支援も行い、女性・シニア・ハイテク等多様な創業・起業家を年間 5 名程度輩出したいと考えています。小中学・高校生の起業家教育も計画したいと思います。

平成 25 年度は、とりあえず、次のような初級コース(8週間)の創業セミナーを開講することにしました。平成 26 年度からは、初級・上級コース(各 8 週間)を開講したいと考えます。また、創業支援メンター活用も 12 月から開始しました(裏面)。

なお、この事業は、今後、長岡市、長岡商工会議所、(公財)にいがた産業創造機構NICO、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校、ベンチャーキャピタル等と連携して、進めて行きたいと考えております。

★講師陣：小松俊樹(長岡大学特任教授/中小企業診断士)、今井進太郎(コママーケティング代表/中小企業診断士)
山田康博(山田会計事務所/税理士)など

★募集人員：20名(先着順)

★受講料：無料

★時間：18:30~20:30

★会場：長岡大学

★シラバス

	開講日	テーマ	講師
第1回	1月22日(水)	創業・起業のポイント/自己紹介	小松俊樹
第2回	1月29日(水)	実践!売れる仕組みの作り方	小松俊樹
第3回	2月5日(水)	実践!売れる仕組みの作り方2	小松俊樹
第4回	2月12日(水)	先輩起業家体験談/創業・起業の手続き	小松俊樹
第5回	2月19日(水)	創業・起業に効くIT活用	今井進太郎
第6回	2月26日(水)	創業財務—基礎の基礎—	山田康博
第7回	3月5日(水)	先輩起業家体験談/上手なお金の借り方	日本政策金融公庫
第8回	3月12日(水)	成果発表/開業プロモーション計画	講師陣

主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE
公益財団法人にいがた産業創造機構

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。

FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、

右記のFAX番号に送信してください。

FAX：0258-39-9566

TEL：0258-39-1600(代)

<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>

e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学地域連携研究センター

担当：久保、山田

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

締め切り 平成 26 年 1 月 16 日 (木)

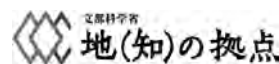
氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 5-11 創業支援メンター活用のご案内



平成 25~29 年度
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成25年度長岡大学地(知)の拠点整備事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

創業支援メンター活用のご案内

長岡大学地域連携研究センター

★趣旨—<長岡地域起業家塾>をめざして—

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成 25 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材=創造人材の育成により地域再生・活性化の核として長岡大学を発展させることをめざすものです。

このプログラムの事業として、長岡地域で創業・起業を盛んにする<長岡地域起業家塾>の形成を計画しています。この起業家塾では、後述の創業セミナー開催とともに、創業・起業前・後の経営等相談ができる<創業支援メンター>制度を設けます。創業セミナー開講に先立って、次の要領で、平成 25 年 12 月からスタートします。大いに活用してください。 *メンターとは、様々な経営等の課題解決に助言・支援する専門家のこと。

★制度・仕組み

1. 流れ	①TEL,FAX,メールのいずれかで申し込む ②メンターと日程調整 ③相談者に連絡 ④相談実施
2. 相談料	初回は無料。その後は応相談
3. 相談申込	下記「ご連絡先」参照
4. 申込時間	毎週月曜日～金曜日の10:00～16:00(電話) ※12月25日(水)～1月6日(月)は休業
5. 申込事項	①相談事項 ②希望相談期日(期日、時間) ③相談者の連絡先(電話、連絡先)

- ・メンター—>小松 俊樹 (長岡大学特任教授/中小企業診断士)
- 今井進太郎 (コママーケティング 代表/中小企業診断士)
- 山田 康博 (山田会計事務所/税理士)

★ご連絡先 〒940-0828 長岡市御山町80-8
長岡大学地域連携研究センター 担当:久保、山田
TEL 0258-39-1600 (代)内線311、312
FAX 0258-39-9566
E-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp



図表 5-12 長岡地域起業家塾運営会議について

長岡地域起業家塾運営会議の開催について

平成 25 年 12 月 24 日

長岡大学地域連携研究センター／起業家塾担当 原田誠司

平成 25 年度の「地（知）の拠点整備事業」＝大学 C O C 事業（文部科学省）に採択された長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の一環として、「長岡地域起業家塾」事業を進めることになりました。平成 25 年度は、次のような準備活動を行い、平成 26 年度から本格展開ができたかと考えております。長岡地域起業家塾運営会議を次のような内容で開催できたらと考えています。

1 名称 長岡地域起業家塾運営会議

2 趣旨

長岡地域の産官学金が広く連携することにより、平成 26 年度長岡地域起業家塾（学生の起業家塾も含む）の立ち上げ、創業セミナー、創業支援メンター制度、創業・起業シンポジウム等開催により、創業・起業風土を形成し、創業・起業を促進する。

3 目標

平成 26 年度に長岡地域起業家塾を立ち上げ、起業家塾・創業セミナー（ビジネスプラン講座）、創業支援メンター制度、創業・起業シンポジウム等を開催、推進すること。その過程で、新潟県等のベンチャー・コンテストへのチャレンジにも力を入れて取り組む。

4 運営委員

当面、長岡市、ながおか新産業創造センター N B I C、長岡商工会議所、長岡産業活性化協会 N A Z E、にいがた産業創造機構 N I C O、長岡市立中央図書館、日本政策金融公庫長岡支店、企業家・有識者、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校、長岡大学で構成する。具体的には次の通り。

*座長 どなたかをお願いできたらと思いますが、当面、原田誠司（長岡大学）が担当。

*委員 長岡市商業振興課、ながおか新産業創造センター N B I C、長岡市立中央図書館、長岡商工会議所、長岡産業活性化協会 N A Z E、にいがた産業創造機構 N I C O、日本政策金融公庫長岡支店、企業家・有識者（松原 亨氏など）、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校、経営等専門家（中小企業診断士・今井進太郎、税理士・山田康博）、長岡大学（中小企業診断士・小松俊樹、教員・松本和明、コーディネーター・南雲 渉）

5 平成 25 年度事業

- ・運営会議開催・・・3月末までに2回ほど会議を開き、平成 26 年度の事業方針をまとめる。
 - *第1回・・・1月末～2月上旬
- ・長岡地域起業家塾ラウンドテーブルの開催・・・もしできれば、同上メンバーを中心に、2月中に、討論会を開催し、創業・起業推進の方向を議論したい。学生の起業家セミナーも統合して開催する。

VI 推進体制の整備

1 推進組織の形成

- ・地（知）の拠点整備事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム事業の全学的推進組織として、長岡大学地域連携センターを設立した（平成 25 年 9 月 18 日）。以後、長岡大学地（知）の拠点整備事業運営委員会＝長岡大学地域連携センター運営委員会が、事業全体を推進してきた（月 1 回開催）。
- ・日常の事業調整・推進を図る組織として、運営委員 5 名（事務、教員）で運営事務局会を設けて日常の事業を推進している。
- ・事務体制を充実させるため、教員 1 名、コーディネーター 2 名、事務職 3 名を採用した（9～10 月）。
- ・連携自治体・長岡市等との連携は、地域地（知）の拠点整備事業推進協議会および地域課題調整部会の開催により、推進している。同協議会は年 1 回開催だが、調整部会は月 1 回開催し、事業の調整を図っている。

2 備品等の整備

- ・情報機器（パソコン 6 台、プリンター 4 台）、授業充実のための教室備え付けプロジェクター（7 台）、事業広報用展示ボード（15 台）、事業展示ショーケース（4 台）などの設備備品を整備した。
- ・広報関係については、本事業案内パネル、本事業広報リーフレット、事業案内広報幕、広報ブックレット、本事業平成 25 年度報告書などの作成・刊行、さらに、本学ホームページの更新を行い C O C 事業の広報の充実を図った。

3 採択時「別紙」への対応

第 4 回運営委員会（平成 26 年 1 月 28 日開催）において、次のような「別紙」への対応が確認された。

.....

1 地域志向科目について

- (1) 目標（課題解決・価値創造）に対して、地域志向科目の立て方等具体的な科目内容を示しながら取組内容との整合性を明確にすること
→平成 26 年度の地域志向科目は、図表 1 の通りとすることとした。
- (2) 地域志向科目の履修指導・ガイダンスの実施、および必修化の推進
→前者は 4 月初旬のオリエンテーション時に、＜地域志向科目の手引き＞を作成して、配布・説明する。
→後者は、上記図表 1 の通りとする。

2 地域学修科目の拡大・シラバス明記について

- (1) 地域学修を他の科目でも積極的に拡大すること
→図表 1 に示すとおり、平成 26 年度は 35 科目に拡大することとした。
- (2) シラバスでの地域学修の明示すること
→上記結果を踏まえて、平成 26 年度シラバスに明示する。

3 地域志向教育研究経費について

(1) 学内公募、審査等採択条件を明示すること

→「平成 25 年度長岡大学地域志向教育研究の推進について」に基づいて実施した。平成 26 年度も同様に実施する計画である。

(2) 特定教員やプロジェクト支援にならないこと

→上記採択条件に則り、実施している。

4 全学的な地域志向教育研究のFD/S Dについて

(1) 全学的なFD/S D

→採択後、取組の推進のための全学的FD/S Dを4回開催して、理解を深めた。また、毎週、事務局通信を発行し、情報共有を図っている。

→平成 26 年度には、FD/S Dの指針等を作成し、明確に位置づける。

5 事業評価のアンケート等について

(1) 5年間、教職員、学生、連携機関等への事業評価アンケート・ヒアリングを実施

→平成 25 年度は「学生満足度調査」を実施したが、平成 26 年度はさらに改善して、毎年 1 月に学生等関係者の評価を聞く体制を構築する。

(2) 文科省が共通アンケート項目を示す

→2月末に提示されたので、4月初旬に学生等へのアンケートを実施する。

6 COC事業としての広報について

(1) 理解を高めるため、COC助成事業であることを広報する

→大学エントランス、諸掲示箇所、印刷物、パネル等のCOCロゴマークも含めた当事業を明示している。

(2) 文科省の広報（パンフ発行等）への協力

→協力している。

7 効率的支出について

→公募要項に則り、効率的な支出につとめている。

8 事業の縮小等について

→事業の縮小等の場合は、すみやかに相談する。

9 継続的・安定的事業実施について

→将来にわたり地域志向の大学として、継続的・安定的に事業展開を図れるよう、人件費等検討し、努力する。

10 人件費・謝金の効率化について

(1) 人件費・謝金が高額なので費用対効果を十分考慮し、効率化を図ること

→事業計画の効果等を吟味して作成するとともに、効率的な支出に努める。

.....

図表 6-1 平成 26 年度地域志向・学修科目一覧 (35 科目)

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修科目	キャリア科目	キャンパスライフ入門	キャリア開発 I	キャリア開発 II・1	キャリア開発 II・2	キャリア開発 III・1	キャリア開発 III・2		
	専門科目	経済・経営の現場1	経済・経営の現場2						
選択科目	ゼミ科目					ゼミナール III		ゼミナール IV	
	教養・特別科目	ボランティア論	ボランティア体験						
	専門・特別科目			起業家塾		インターシップ			
				地域活性化プログラム(ゼミ III・IV)					
	現代経済コース (地域、国際)			地域経営			地方行政		
				地域活性化論			地域経済論		
							地域産業政策		
	経営戦略コース					企業経営史	産業史		
	生活・医療・ 福祉コース		環境と社会2	社会福祉概論	環境社会演習2	医学概論			
	消費・マーケティング	マーケティング入門	流通論入門	生活経済論1	生活経済論2	地域福祉論			
	事務会計コース			会計学1		管理会計	経営分析		
	情報ビジネス		インターネット概論	プレゼン利用技術					

注1 「必修、選択」の区分は地域志向科目としての区分(全体カリキュラムでも必修科目である)。

注2 各科目の下の()内は科目担当教員。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業(平成25～29年度)
長岡大学COC事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム
平成25年度報告書

【発行日】平成26年3月25日

【発行】長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

TEL 0258-39-1600(代)

FAX 0258-33-9566

<http://www.nagaokauniv.ac.jp>



長岡大学
NAGAOKA UNIVERSITY